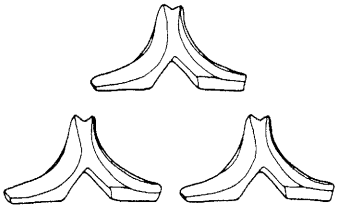
高岡市埋蔵文化財調査概報第45冊

市内遺跡調査概報X

―平成11年度、出来田南遺跡の調査他―



2000年3月

高岡市教育委員会

※表紙・大扉カット＝東木津遺跡堀井地区出土琴柱形木製品より

序

高岡市域における遺跡については、丘陵・台地部において、縄文集落跡、古墳群、城郭跡が多く、古代には越中国府が置かれていたことが知られています。平野部では、初期農耕文化以降の集落遺跡が多く分布しています。近年では、丘陵部での新たな古墳群の確認、平野部での古代の集落遺跡の確認が続いています。そして、これら多くの遺跡が高岡市固有の風土や郷土文化を形作る一部となっています。

今回ここに報告しますのは、様々な開発行為に伴い実施した4箇所の遺跡、出来田南遺跡、岩坪岡田島遺跡、東木津遺跡、入定塚遺跡の発掘調査の内容と、その他の遺跡で実施した試掘調査の結果です。

出来田南遺跡は、庄川流域に面した微高地上に立地した遺跡で、掘立柱建物址が検出され、古代の集落遺跡であることが確認されました。

岩坪岡田島遺跡は、古代の東大寺領荘園の須加荘の比定地付近にある遺跡として知られてきました。この度の調査により、中世の遺構・遺物が検出されました。

東木津遺跡は、近年周辺の調査が多く行なわれ、弥生時代から奈良・平安時代にかけて営まれた集落跡であることが知られています。今回の調査では、古代の祭祀に伴う遺物が多く出土し、掘立柱建物址が検出されました。

入定塚遺跡は、高岡市街地北東側の台地縁辺部に位置する塚を中心とする遺跡です。地元では古くから伝承がある塚として知られています。今回は塚周辺地での調査を実施しました。

最後になりましたが、今回の調査実施にご協力頂きました、関係各位、地元の皆様に厚く御礼申しあげます。

平成12年3月

高岡市教育委員会
教育長　細呂木　六良

例　言

1．本書は、富山県高岡市において平成11年度に実施した、埋蔵文化財発掘調査の概要報告書である。

2．当調査は、開発工事に伴い実施した、本調査・試掘調査である。

3．当調査は、平成11年度国庫補助金の交付を受けて、高岡市教育委員会文化財課が実施した。

4．本調査は、１遺跡（入定塚遺跡）２箇所（２つの調査地区）である。

5．試掘調査は、９遺跡17箇所である。

6．調査関係者は以下のとおりである。

文化財課長：宮村勝博

課長補佐：大石　茂

［埋蔵文化財担当］

石浦正雄（主幹）

山口辰一（主査）

根津明義（文化財保護主事）

荒井　隆（文化財保護主事）

太田浩司（文化財保護主事）

7．本書における遺構番号は次のとおりである。

ＳＡ－柵址、ＳＢ－掘立柱建物址、ＳＤ－溝、ＳＥ－井戸址、ＳＫ－土坑
ＳＸ－その他の遺構

8．本書における遺物番号は次のとおりである。

1001～1014番：出来田南遺跡、土器類

2001～2048番：岩坪岡田島遺跡、土器類

3001～3113番：東木津遺跡堀井地区、土器類

4001～4062番：東木津遺跡セーブオン地区、土器類

5001～5028番：東木津遺跡チックタック地区、土器類

6001～6008番：石塚江之戸遺跡、土器類

7001～7099番：東木津遺跡堀井地区、木製品

8001～8013番：各遺跡・各地区、土製品・銅製品・石製品

9．現地調査及び報告書作成において、以下の各氏より、御教示・御援助を得た。

牛島茂、岡本淳一郎、久々忠義、小島俊彰、斎藤隆、杉本和樹、竹花宏之
舘野和己、中村一郎、西井龍儀、橋本正春、宮田進一、山下信一郎
山本正敏、吉川聡、渡辺晃宏　（順不同、敬称略）

10．本書においては、本調査地区と主要な試掘調査地区である３遺跡９箇所について比較的詳細に報告し、他の７遺跡８箇所を簡潔にした。

11．本書の執筆は、荒井が担当した。

目　　次

序
例　言
目　次

1．出来田南遺跡 …… 1
Ⅰ　序　説 …… 3
Ⅱ　遺　構 …… 5
Ⅲ　遺　物 …… 7
Ⅳ　結　語 …… 8

2．岩坪岡田島遺跡 …… 9
Ⅰ　序　説 …… 11
Ⅱ　遺　構 …… 15
Ⅲ　遺　物 …… 23
Ⅳ　結　語 …… 24

3．東木津遺跡 …… 25
Ⅰ　序　説 …… 27
Ⅱ　遺　構 …… 31
Ⅲ　遺　物 …… 41
Ⅳ　結　語 …… 48

4．入定塚遺跡 …… 49
Ⅰ　序　説 …… 51
Ⅱ　遺　構 …… 53
Ⅲ　関連調査地区 …… 55
Ⅳ　結　語 …… 56

5．試掘調査地区 …… 57
Ⅰ　伊勢領遺跡山田地区 …… 59
Ⅱ　守護町遺跡大角地区 …… 60
Ⅲ　ＨＳ－02遺跡小沢１・２地区 …… 61
Ⅳ　岩坪岡田島遺跡林地区 …… 62
Ⅴ　越中国府関連遺跡日本重化学地区 …… 63
Ⅵ　本保遺跡中島地区 …… 64
Ⅶ　石塚江之戸遺跡リーフィー地区 …… 65

図　面　目　次

図面１　遺物実測図　出来田南遺跡・石塚江之戸遺跡　土器類
図面２　遺物実測図　岩坪岡田島遺跡　土器類
図面３　遺物実測図　岩坪岡田島遺跡　土器類
図面４　遺物実測図　岩坪岡田島遺跡　土器類
図面５　遺物実測図　東木津遺跡堀井地区　土器類
図面６　遺物実測図　東木津遺跡堀井地区　土器類
図面７　遺物実測図　東木津遺跡堀井地区　土器類
図面８　遺物実測図　東木津遺跡堀井地区　土器類
図面９　遺物実測図　東木津遺跡堀井地区　土器類
図面10　遺物実測図　東木津遺跡セーブオン地区　土器類
図面11　遺物実測図　東木津遺跡セーブオン地区　土器類
図面12　遺物実測図　東木津遺跡セーブオン地区　土器類
図面13　遺物実測図　東木津遺跡チックタック地区　土器類
図面14　遺物実測図　東木津遺跡堀井地区　木製品
図面15　遺物実測図　東木津遺跡堀井地区　木製品
図面16　遺物実測図　東木津遺跡堀井地区　木製品
図面17　遺物実測図　東木津遺跡堀井地区　木製品
図面18　遺物実測図　東木津遺跡堀井地区　木製品
図面19　遺物実測図　東木津遺跡堀井地区　木製品
図面20　遺物実測図　東木津遺跡堀井地区　木製品
図面21　遺物実測図　東木津遺跡堀井地区　木製品
図面22　遺物実測図　東木津遺跡堀井地区　木製品
図面23　遺物実測図　東木津遺跡堀井地区　木製品
図面24　遺物実測図　各遺跡・各地区　土製品・石製品

図　版　目　次

図版１　遺構　出来田南遺跡　１．調査地区全景（南西）
２．調査地区全景（北西）
３．溝ＳＤ02検出状態（南西）
図版２　遺構　出来田南遺跡　１．掘立柱建物址ＳＢ01検出状態（南南西）
２．掘立柱建物址ＳＢ01検出状態（東南東）
図版３　遺構　岩坪岡田島遺跡　１．調査地区遠景（南西）
２．調査地区遠景（上方）

図版４　遺構　岩坪岡田島遺跡　１．調査地区遠景（上方）
２．調査地区遠景（上方）
図版５　遺構　岩坪岡田島遺跡釜土地区　１．調査地区全景（西）
２．調査地区全景（南）
図版６　遺構　岩坪岡田島遺跡釜土地区　１．溝ＳＤ01全景（北東）
２．溝ＳＤ01試掘坑遺物出土状態（北東）
図版７　遺構　岩坪岡田島遺跡釜土地区　１．土坑ＳＫ01遺物出土状態（北東）
２．調査地区西側遺物出土状態（北西）
図版８　遺構　岩坪岡田島遺跡山口地区　１．調査地区全景（南）
２．調査地区全景（北西）
図版９　遺構　岩坪岡田島遺跡山口地区　１．溝ＳＤ01試掘坑１遺物出土状態（西）
２．溝ＳＤ01試掘坑２遺物出土状態（北西）
図版10　遺構　岩坪岡田島遺跡岡崎１地区　１．調査地区全景（南西）
２．調査地区全景（南東）
図版11　遺構　岩坪岡田島遺跡岡崎１地区　１．井戸址ＳＥ01検出状態（南西）
２．井戸址ＳＥ01全景（南西）
図版12　遺構　岩坪岡田島遺跡岡崎１地区　１．井戸址ＳＥ02検出状態（南東）
２．井戸址ＳＥ02全景（南東）
図版13　遺構　岩坪岡田島遺跡岡元地区　１．調査地区全景（南）
２．調査地区全景（北東）
図版14　遺構　岩坪岡田島遺跡岡元地区　１．溝ＳＤ07・08全景（東）
２．溝ＳＤ07遺物出土状態（南東）
図版15　遺構　岩坪岡田島遺跡岡崎２地区　１．調査地区全景（南）
２．調査地区全景（北）
図版16　遺構　岩坪岡田島遺跡岡崎２地区　１．溝ＳＤ10・11全景（南東）
２．溝ＳＤ10・11全景（西）
図版17　遺構　東木津遺跡　１．調査地区遠景（南）
２．調査地区遠景（北西）
図版18　遺構　東木津遺跡堀井地区　１．調査地区全景（南東）
２．調査地区全景（北）
図版19　遺構　東木津遺跡堀井地区　１．第３トレンチ全景（南）
２．第３トレンチ全景（南西）
図版20　遺構　東木津遺跡堀井地区　１．凹地ＳＸ06遺物出土状態・人形（南西）
２．凹地ＳＸ06遺物出土状態・鳥形（西）
３．凹地ＳＸ06遺物出土状態・馬形（北）
図版21　遺構　東木津遺跡セーブオン地区　１．調査地区全景（南）
２．調査地区全景（北東）
図版22　遺構　東木津遺跡セーブオン地区　１．溝ＳＤ10全景（北東）
２．溝ＳＤ10全景（北西）
図版23　遺構　東木津遺跡セーブオン地区　１．溝ＳＤ10遺物出土状態・須恵器杯（南東）
２．溝ＳＤ12遺物出土状態・須恵器横瓶（南西）

3．溝ＳＤ51遺物出土状態・曲物底板（南）
図版24　遺構　東木津遺跡チックタック地区　1．調査地区全景（北東）
2．調査地区全景（上方）
図版25　遺構　東木津遺跡チックタック地区　1．調査地区北半部全景（上方）
2．調査地区南半部全景（上方）
図版26　遺構　東木津遺跡チックタック地区　1．掘立柱建物址ＳＢ02検出状態（北東）
2．掘立柱建物址ＳＢ02検出状態（南東）
図版27　遺構　東木津遺跡チックタック地区　1．掘立柱建物址ＳＢ03検出状態（南東）
2．掘立柱建物址ＳＢ03検出状態（東）
図版28　遺構　東木津遺跡チックタック地区　1．掘立柱建物址ＳＢ02遺物出土状態（北東）
2．掘立柱建物址ＳＢ03礎板検出状態（北東）
3．掘立柱建物址ＳＢ03柱根検出状態（北東）
図版29　遺構　入定塚遺跡　1．調査地区遠景（西）
2．調査地区全景（北西）
図版30　遺構　入定塚遺跡吉田・参道地区　1．調査地区全景（南東）
2．調査地区全景（上方）
図版31　遺構　入定塚遺跡吉田地区　1．調査地区全景（北西）
2．調査地区全景（南東）
図版32　遺構　入定塚遺跡参道地区　1．調査地区全景（北東）
2．北側調査地区全景（北東）
3．南側調査地区全景（北）
図版33　遺物　東木津遺跡堀井地区　土器類
図版34　遺物　東木津遺跡セーブオン地区　土器類
図版35　遺物　東木津遺跡堀井地区　木製品＝木簡
図版36　遺物　東木津遺跡堀井地区　1．木製品＝木簡
2．木製品＝木簡形木製品
図版37　遺物　東木津遺跡堀井地区　1．木製品＝人形
2．木製品＝刀子形
図版38　遺物　東木津遺跡堀井地区　1．木製品＝鳥形・馬形
2．木製品＝舟形・琴柱形
図版39　遺物　東木津遺跡堀井地区　1．木製品＝斎串
2．木製品＝横櫛・針
図版40　遺物　東木津遺跡堀井地区　木製品＝曲物底板
図版41　遺物　東木津遺跡堀井地区　木製品＝火鑽板・火鑽杵
図版42　遺物　東木津遺跡堀井地区　1．木製品＝刻み目
2．木製品＝物差・楔
図版43　遺物　東木津遺跡堀井地区　木製品＝棒状品
図版44　遺物　東木津遺跡堀井地区　木製品＝箸・細部材
図版45　遺物　東木津遺跡堀井地区　木製品＝部材
図版46　遺物　各遺跡・各地区　土製品・銅製品・石製品

挿　図　目　次

第１図　出来田南遺跡位置図[１]（１／15万）…… 1
第２図　出来田南遺跡位置図[２]（１／５万）…… 2
第３図　出来田南遺跡と関連遺跡位置図（１／２万５千）…… 3
第４図　出来田南遺跡大和ハウス地区位置図（１／5,000）…… 4
第５図　出来田南遺跡大和ハウス地区遺構図（１／400・１／200）…… 6
第６図　出来田南遺跡大和ハウス地区掘立柱建物址ＳＢ01実測図（１／80）…… 7
第７図　岩坪岡田島遺跡位置図[１]（１／15万）…… 9
第８図　岩坪岡田島遺跡位置図[２]（１／５万）…… 10
第９図　岩坪岡田島遺跡調査地区位置図（１／5,000）…… 11
第10図　岩坪岡田島遺跡調査地区全体図（１／800）…… 14
第11図　岩坪岡田島遺跡釜土地区遺構図（１／200）…… 16
第12図　岩坪岡田島遺跡山口地区遺構図（１／200）…… 17
第13図　岩坪岡田島遺跡岡崎１地区遺構図（１／200）…… 19
第14図　岩坪岡田島遺跡岡元地区遺構図（１／200）…… 20
第15図　岩坪岡田島遺跡岡崎２地区遺構図（１／200）…… 22
第16図　東木津遺跡位置図[１]（１／15万）…… 25
第17図　東木津遺跡位置図[２]（１／５万）…… 26
第18図　東木津遺跡調査地区位置図（１／5,000）…… 27
第19図　東木津遺跡堀井地区全体図（１／400）…… 30
第20図　東木津遺跡堀井地区第３トレンチ遺構図（１／200）…… 31
第21図　東木津遺跡セーブオン地区遺構図（１／200）…… 34
第22図　東木津遺跡チックタック地区遺構図（１／200）…… 36
第23図　入定塚遺跡位置図[１]（１／15万）…… 49
第24図　入定塚遺跡位置図[２]（１／５万）…… 50
第25図　入定塚遺跡調査地区位置図（１／5,000）…… 51
第26図　入定塚遺跡吉田・参道地区遺構図（１／200）…… 54
第27図　入定塚遺跡佐藤地区遺構図（１／200）…… 55
第28図　試掘調査地区関連遺跡位置図（１／７万５千）…… 58
第29図　伊勢領遺跡山田地区位置図（１／5,000）…… 59
第30図　守護町遺跡大角地区位置図（１／5,000）…… 60
第31図　ＨＳ－02遺跡小沢１・２地区位置図（１／5,000）…… 61
第32図　岩坪岡田島遺跡林地区位置図（１／5,000）…… 62
第33図　越中国府関連遺跡日本重化学地区位置図（１／5,000）…… 63
第34図　本保遺跡中島地区位置図（１／5,000）…… 64
第35図　石塚江之戸遺跡リーフィー地区位置図（１／5,000）…… 65
第36図　石塚江之戸遺跡リーフィー地区遺構図（１／800）…… 66

挿　表　目　次

第１表　東木津遺跡堀井地区木製品一覧［１］…… 45
第２表　東木津遺跡堀井地区木製品一覧［２］…… 46
第３表　東木津遺跡堀井地区木製品一覧［３］…… 47
第４表　調査地区一覧 …… 67

調査参加者名簿

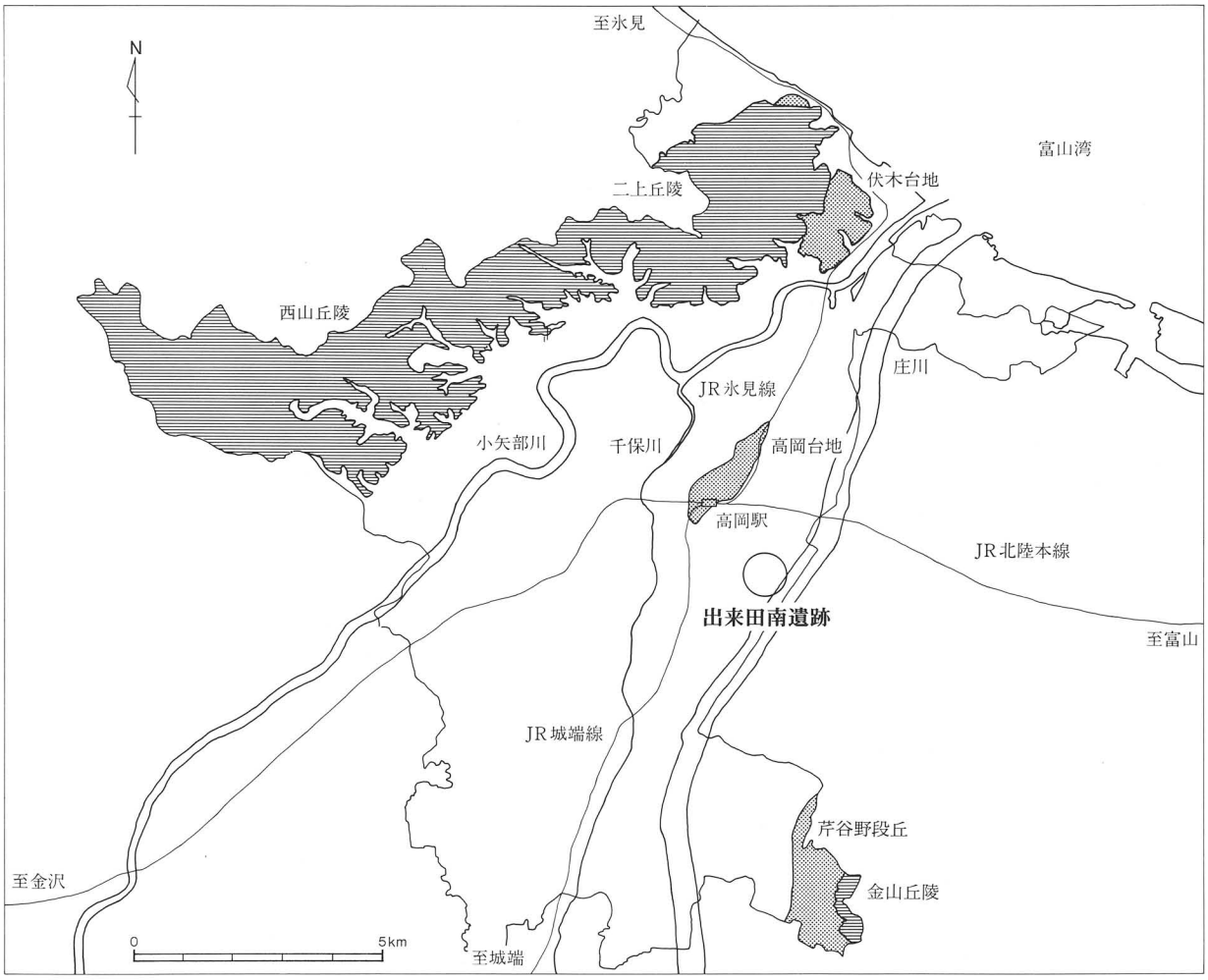
発掘

上田工、岡田一広、桶谷潤、河原康弘、小林央、佐野實、沢田和明、新谷晴紀子、寺井久子、中山賢富、広沢隆太郎
古岡弘之、前田武國、山崎一男、山城一夫

整理

井田まさみ、岡田一広、桶谷潤、小田紀子、金田あゆみ、鎌仲勝子、小林央、新谷晴紀子、高田えみ子、竹本耕二
寺井久子、道谷美奈子、中川弓子、平井智美、三島幸代、水島優美子、村田智恵子、室崎真弓、山崎千鶴子

1．出来田南遺跡



第１図　出来田南遺跡位置図［１］（１／15万）

出来田南遺跡、目次

Ⅰ 序　説 …… 3

Ⅱ 遺　構 …… 5

1．掘立柱建物址 …… 5

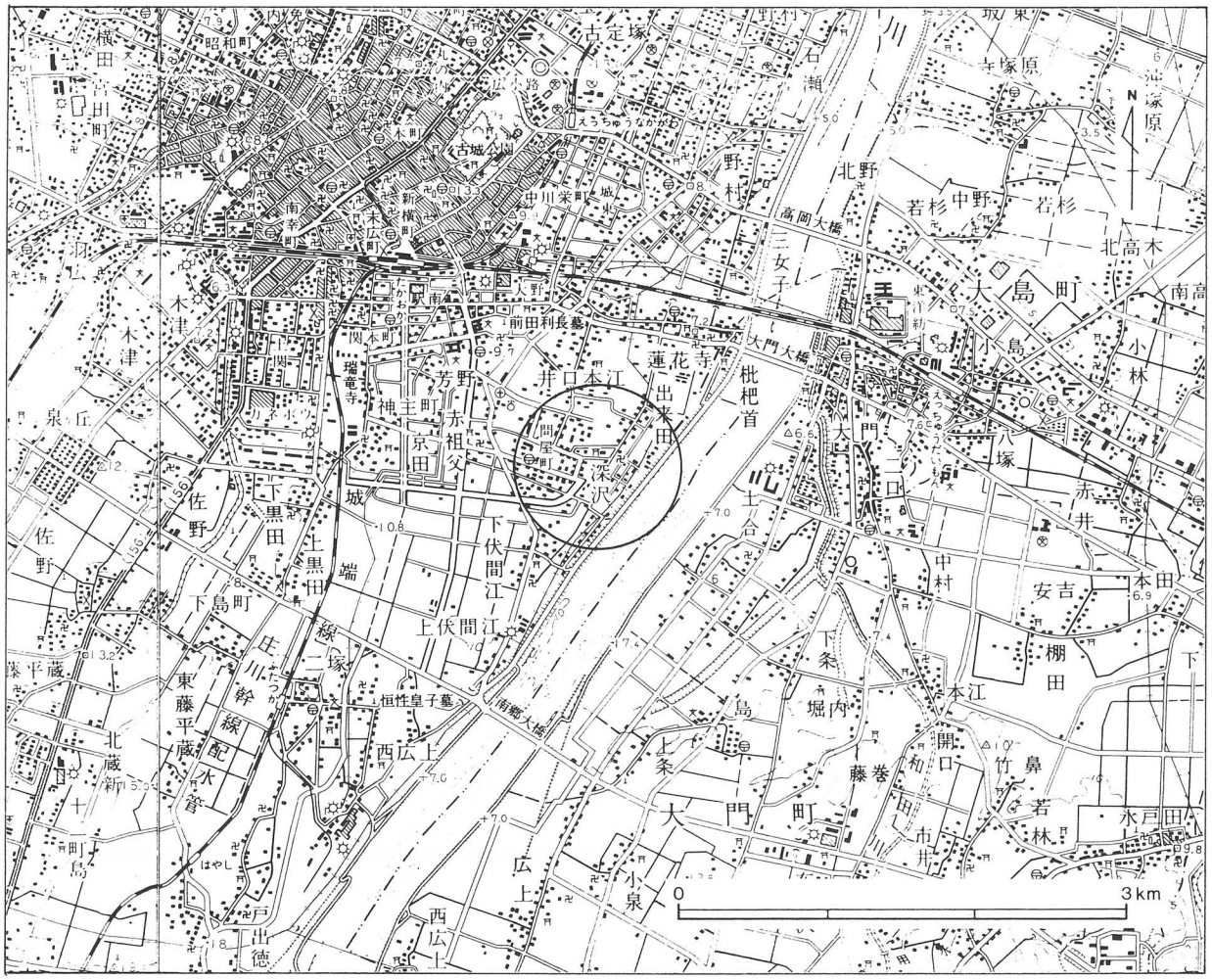
2．溝 …… 5

Ⅲ 遺　物 …… 7

1．土器類 …… 7

2．土製品 …… 7

Ⅳ 結　語 …… 8



第２図　出来田南遺跡位置図［２］（１／５万）

Ⅰ 序　説

遺跡概観

当「出来田南遺跡」は、高岡市街地の南東郊、ＪＲ高岡駅の南東約７㎞に位置する。高岡問屋センターの東側、出来田集落の南西側にあたる。遺跡範囲の北側に諏訪神社があり、出来田集落の南西側、下伏間江集落の北西側に位置する。北西側には地久子川が流れ、東側には庄川が北東方向に流れる。遺跡周辺は庄川に向かって低く落ち込む地形で、標高約8.5mを計る沖積低地となっている。

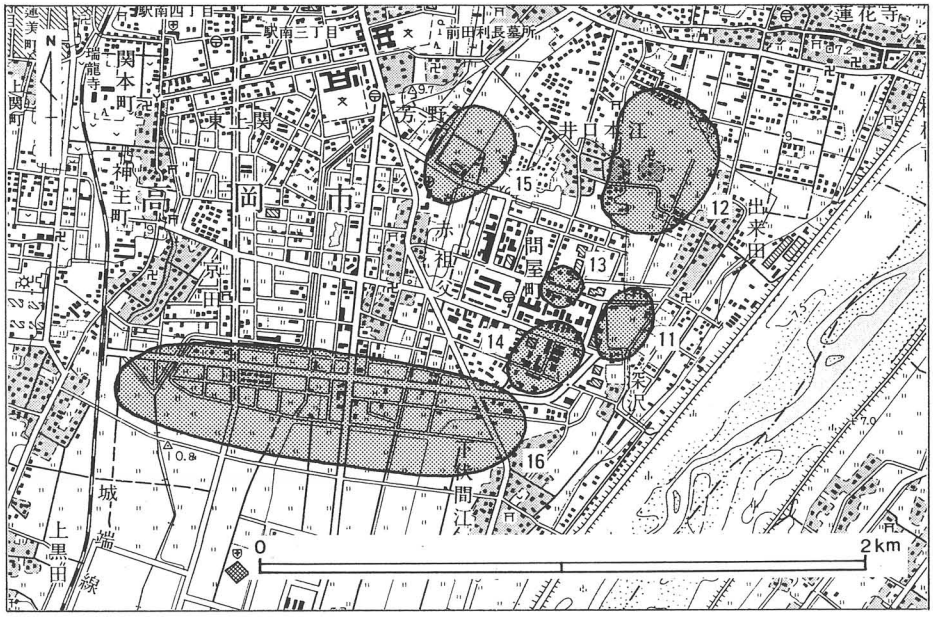
当遺跡の西側一帯は高岡問屋センターの団地となっている。昭和45年にはこの団地の整地工事中に縄文土器・土師器・須恵器等が出土し、この高岡問屋センター遺跡が確認された。付近では、昭和21年に弥生土器等の出土により確認された赤祖父角田遺跡もある。平成２年度に当市教育委員会は当地区一帯で遺跡分布調査を実施した。これにより当出来田南遺跡とここより北側に位置する井口本江遺跡を把握するに至った。宅地造成等があまり進んでいない所であったので、確認できたものである。これらの４つの遺跡は近接しており、本来同一の遺跡の可能性がある。遺跡の範囲は南北170m×東西130mを計る。

調査に至る経緯

平成11年３月に施主より問い合わせがあり、当該地の住宅建設計画を知った。地主である南与三次氏、施主の大和ハウス工業株式会社との協議の結果、同年４月より試掘調査を実施することで合意した。調査地区は遺跡の中央部東側、諏訪神社の南側、高岡問屋センターの東側に位置する。

調査経過

調査は、平成11年４月21日から同年４月23日まで実施した。表土の除去はバックフォーで行い、場内に積み上げた。調査地区に２本の試掘坑（第１・２トレンチ）を設定したところ、第１トレンチの北東側で柱穴を検出したため付近を一部拡張した。今回は確認調査のため、遺構の掘り下げは行っていない。また、公共座標は設定せず、任意の測量である。調査対象面積は1,166㎡、発掘した面積は270㎡である。



第３図　出来田南遺跡と関連遺跡位置図（１／２万５千）

11. 出来田南遺跡
12. 井口本江遺跡
13. 赤祖父角田遺跡
14. 高岡問屋センター遺跡
15. 赤祖父羽座間遺跡
16. ＨＳ－02遺跡

第４図　出来田南遺跡大和ハウス地区位置図（１／5,000）

基本層序

厚さ20㎝の表土(耕作土）の下に、黄褐色砂質土からなる地山土が現れる。一部、黒褐色土の遺物包含層が現れるが、調査区全体に拡がるものではない。戦後の区画整理により調査地区周辺は削平を受け、比較的地山土は水平に拡がり、東側の水田面と比高差を持って臨む。

検出遺構

検出遺構は以下の通りである。

掘立柱建物址１棟（ＳＢ01）

溝７条（ＳＤ01～07）

出土遺物

出土遺物は以下の通りである。

土器類：土師器、須恵器、越中瀬戸、肥前

土製品：土錘

Ⅱ 遺　構

1．掘立柱建物址

掘立柱建物址ＳＢ01

調査地区第１トレンチの東側で検出された総柱の掘立柱建物址である。規模は南北２間（3.60m）ないし３間以上×東西２間（4.80m）である。建物の方位は南北棟とすれば、真北に対して約７度東に偏っている。掘り方は方形で、一辺が0.7～1.3mを計る。掘り方の埋土を若干掘り下げて、柱の痕跡の検出を行った。可能性のある部分をさらに掘り下げたが、切断調査を行っていないこともあり、確実ではない。出土遺物は、土師器、須恵器、土錘である。図示した遺物は図面１－1002・1007・1009～1011・1014である。

2．溝

溝ＳＤ01

調査地区第１トレンチの西側で検出された。北東～南西方向に走る溝である。規模は長さ2.4m以上、幅1.0～1.4mを計る。北東側、南西側は調査地区外へ延びる。出土遺物は土師器、須恵器である。

溝ＳＤ02

調査地区第１トレンチの西側で検出された。北東～南西方向に走る溝である。 規模は長さ2.2m以上、幅0.5～0.6mを計る。北東側、南西側は調査地区外へ延びるが、南西側の延長部分は第２トレンチで確認できなかった。ＳＤ01とほぼ並行に走ると思われる。

溝ＳＤ03

調査地区第１・２トレンチの東側で検出された。ほぼ南北に走る溝である。規模は長さ11.6m以上、幅2.8～3.4mを計る。第１・２トレンチの検出面が、延長線上に確認されたため１本の溝とした。北東側、南側は調査地区外へ延びる。出土遺物は 土師器、須恵器で、図示した遺物は図面１－1004である。

溝ＳＤ04

調査地区第１トレンチの東側で検出された。北北東～南南西方向に走る溝である。規模は長さ2.2m以上、幅0.2mを計る。北東側は調査地区外へ延びる。出土遺物は須恵器である。

溝ＳＤ05

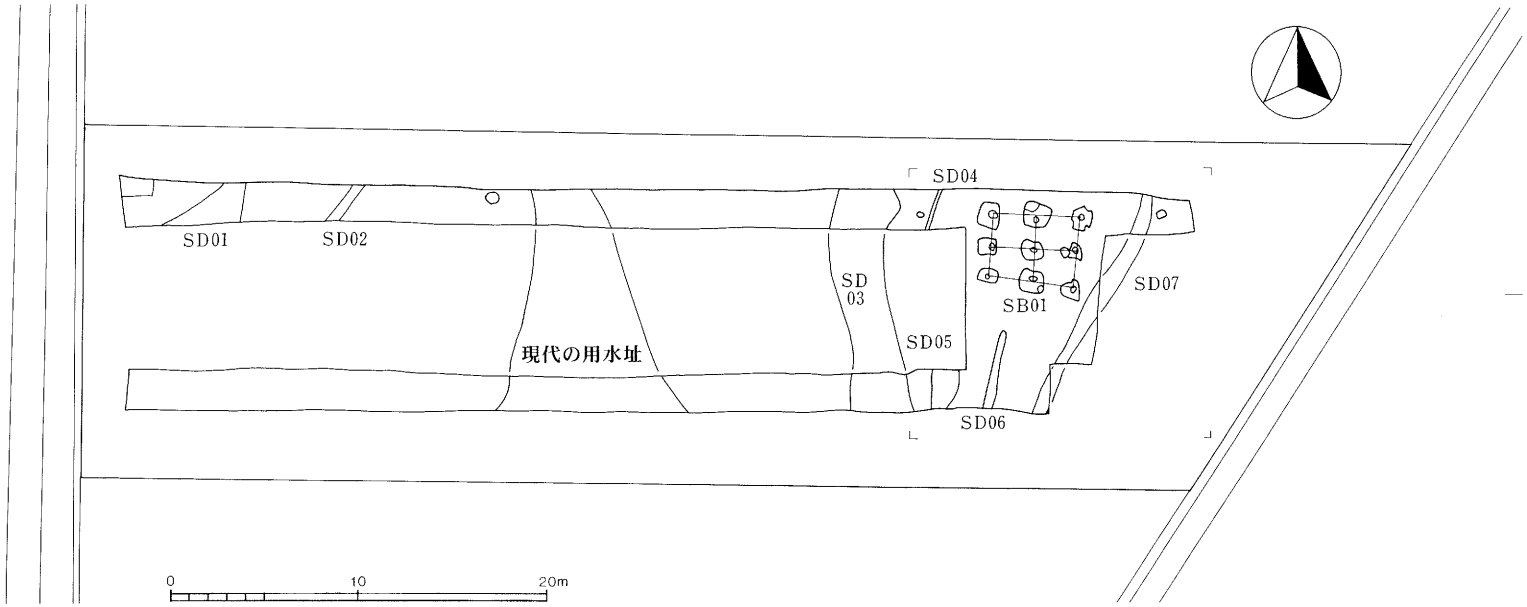
調査地区第２トレンチの東側で検出された。北北東～南南西方向に走る溝である。規模は長さ2.0m以上、幅0.9～1.3mを計る。南西側は調査地区外へ延びる。

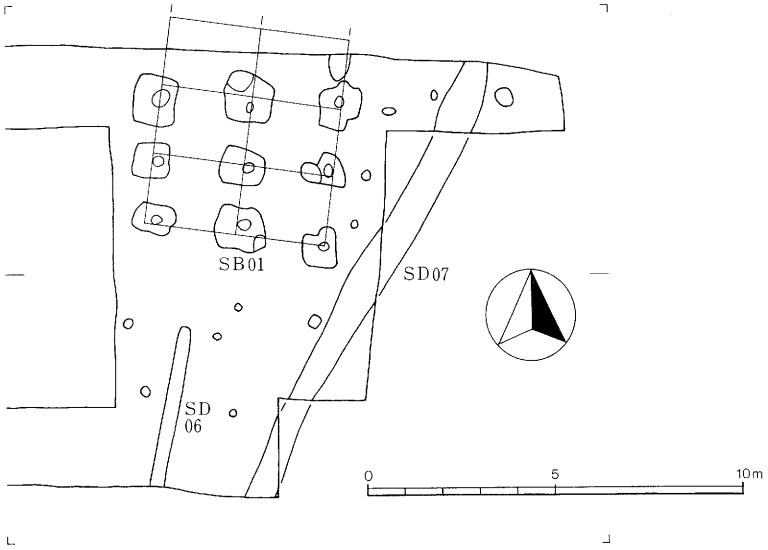
溝ＳＤ06

調査地区第２トレンチの東側、拡張部分で検出された。北北東～南南西方向に走る溝である。規模は長さ4.2m以上、幅0.3～0.4mを計る。南西側は調査地区外へ延びる。

溝ＳＤ07

調査地区第１・２トレンチの東側で検出された。北東～南西方向に走る溝である。規模は長さ13.1m以上、幅0.9～1.0mを計る。北東側、南西側は調査地区外へ延びる。





第５図　出来田南遺跡大和ハウス地区遺構図（１／400・１／200）
全体遺構図（１／400）及び掘立柱建物址ＳＢ01遺構図（１／200）

Ⅲ　遺　　物

1．土器類

須恵器

杯A　図面１－1001。高台の付かない杯の底部である。

杯B　図面１－1002～1006。高台の付く杯の底部である。

杯口縁部　図面１－1007～1010。杯の口縁部片である。

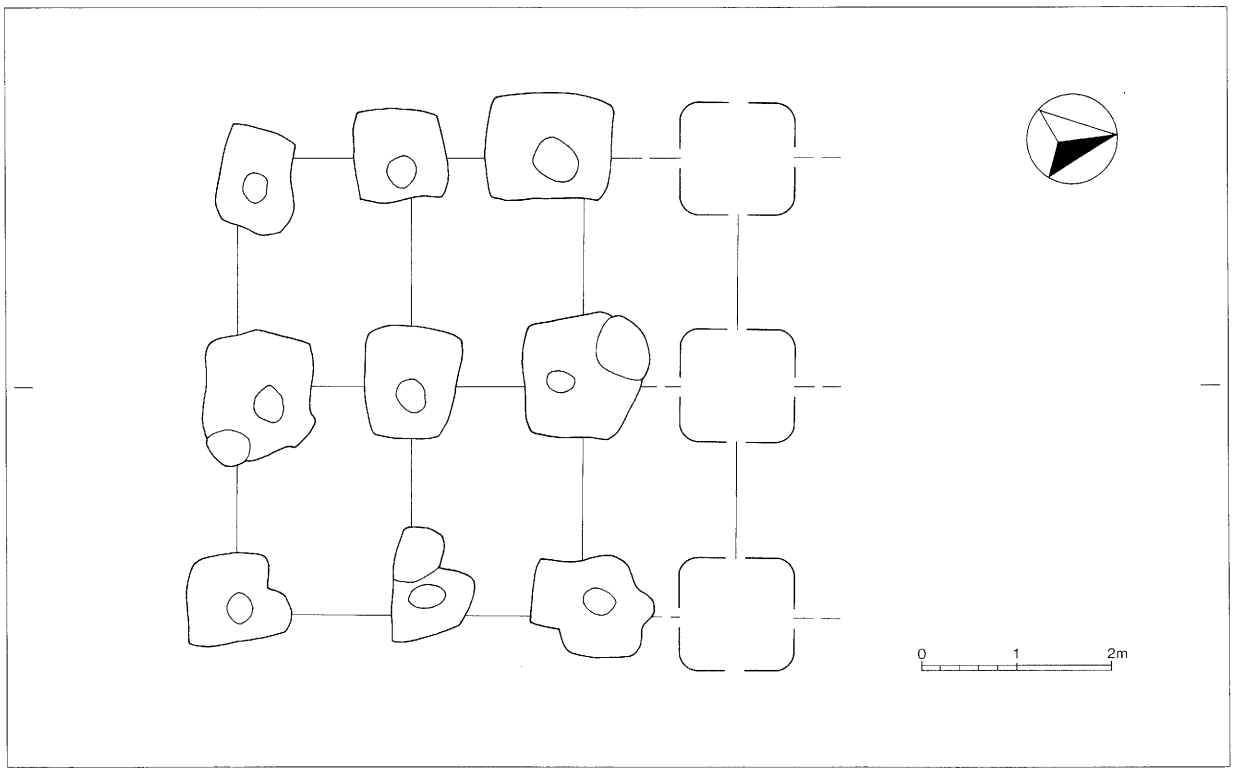
杯蓋天井部　図面１－1011・1012。杯蓋の天井部である。1011は、つまみの痕跡が僅かに確認できる。

杯蓋口縁部　図面１－1013・1014。杯蓋の口縁部である。口端部は下方へ短く屈曲するものである。

2．土製品

土錘

掘立柱建物址ＳＢ01より出土している。細片のため図示していない。



第６図　出来田南遺跡大和ハウス地区掘立柱建物址ＳＢ01実測図（１／80）

Ⅳ 結　　語

当「出来田南遺跡」は、平成２年度の分布調査で確認された遺跡である。今回の調査が当遺跡では初めての発掘調査である。

現在当遺跡の東側を庄川が北北東へ流れている。これは、寛文10（1670）年～正徳４（1714）年にかけて実施された加賀藩による河川改修と、流路の固定化によるものである。それまでの庄川の本流は、当遺跡の西側約2.5kmの所を流れる千保川筋であった。一方、当遺跡の北西側には、地久子川が、南西から北東方向に流れている。

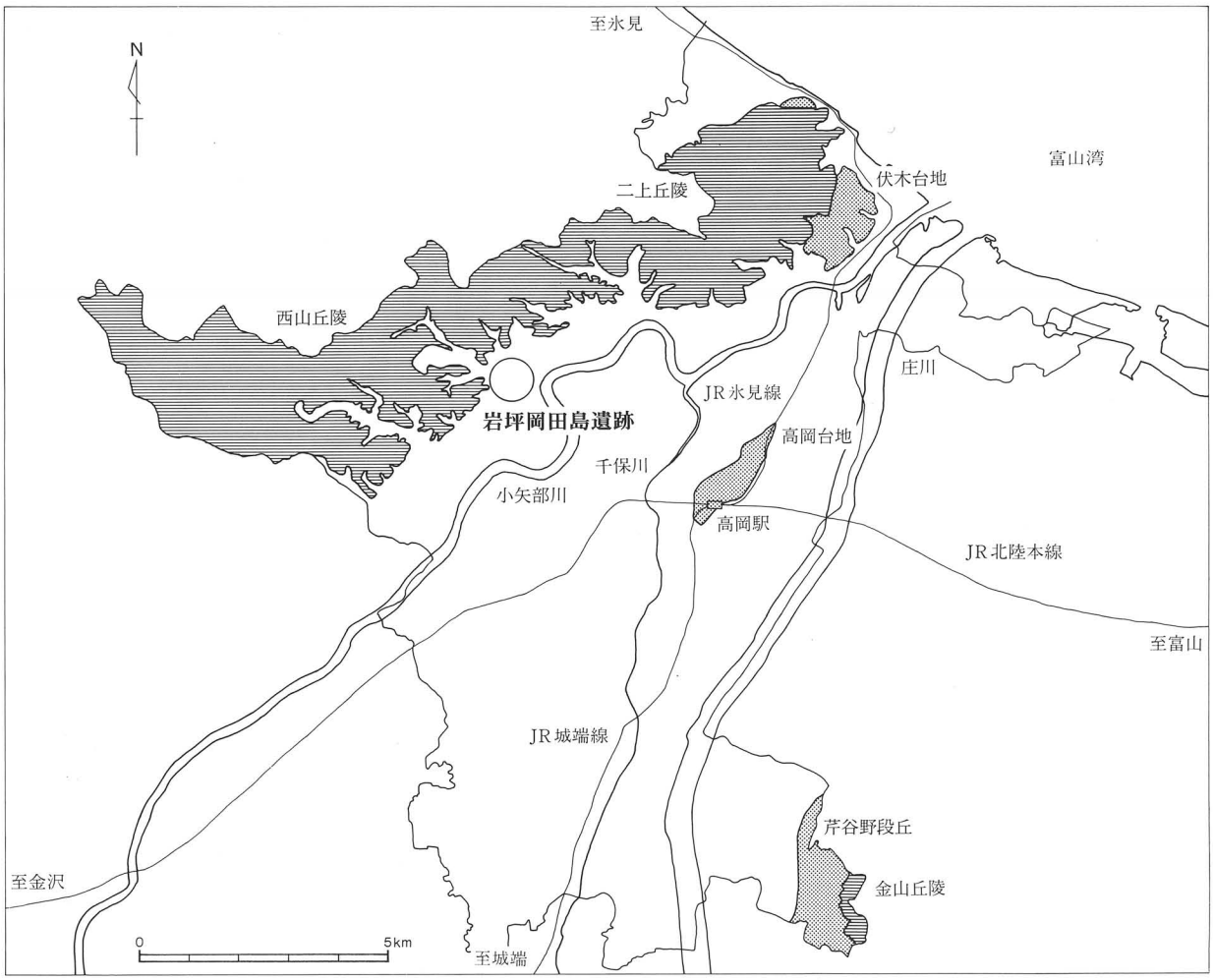
当遺跡の周辺には、井口本江遺跡・赤祖父角田遺跡・高岡問屋センター遺跡がある。これらの遺跡は本来同一の遺跡である可能性が強く、現在、高岡問屋センターとなっている地区及び周辺一帯に拡がっている大規模遺跡と理解される。さらに高岡問屋センターの北西側に位置する赤祖父羽座間遺跡を加えてもよいかもしれない。時期的には弥生時代中期以降、奈良・平安時代に至る遺跡である。地形的には、標高８～９ｍの微高地に立地しているものである。当地区の南西側には、ＨＳ－02遺跡が東西に長く拡がっているが、この遺跡は、発掘調査の結果からは、遺構が検出されず低湿地であったことが伺われる。

当遺跡地帯は、古代の射水郡に置かれた東大寺領の４つの荘園の内、鹿田荘や鳴戸荘の比定地に近いものである。以前の研究では、鹿田荘を当遺跡群付近に当てる説があった。最近の研究では、鳴戸荘を地久子川流域にあて、当遺跡群付近に推定する説がある。

今回の調査では、掘立柱建物址１棟、溝７条が検出された。掘立柱建物址ＳＢ01は、総柱の建物址であり、倉庫址と言える。北側を検出することができなかったが、さらに北側へ延び、南北棟の建物址と推定している。この場合、桁行は３間乃至これ以上ということになるが、桁行３間で梁行２間の建物址とするのが順当と思える。設計尺は柱間寸法が、桁行６尺（1.8m）、梁行８尺（2.4m）と言える。掘り方は、方形を基本形とするもので、その後の建て替え等により、やや不整な形になったと理解している。出土遺物等のことも考慮するに、奈良時代の建物址と考えている。

今回は、正式に測量のための公共座標を設定して実測したわけではなく、現地で任意に測量した図を高岡市発行の２千５百分の１の都市計画図に当てはめて方位を割り出した。このため正確ではないものの、この建物址がほぼ棟筋を南北にとりつつも、やや東側に偏るものであることが判明している。単に地形に合わせたというよりも、当地にこのような計画案や地割りのようなものがあった可能性がある。

2．岩坪岡田島遺跡



第７図　岩坪岡田島遺跡位置図［１］（１／15万）

岩坪岡田島遺跡、目次

Ⅰ　序　　説 …… 11

Ⅱ　遺　　構 …… 15

1．釜土地区 …… 15

2．山口地区 …… 15

3．岡崎１地区 …… 18

4．岡元地区 …… 19

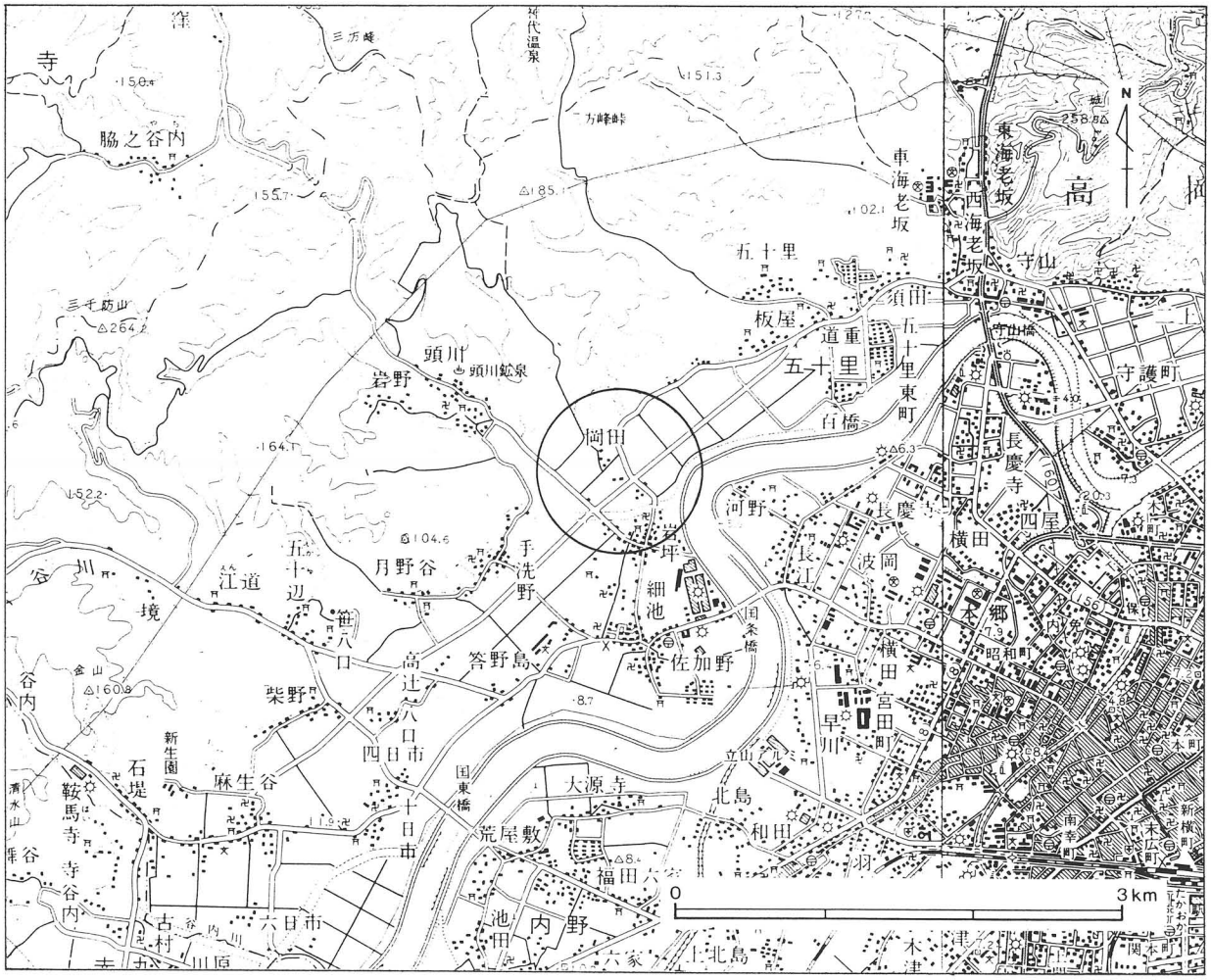
5．岡崎２地区 …… 21

Ⅲ　遺　　物 …… 23

1．土器類 …… 23

2．その他の遺物 …… 23

Ⅳ　結　　語 …… 24



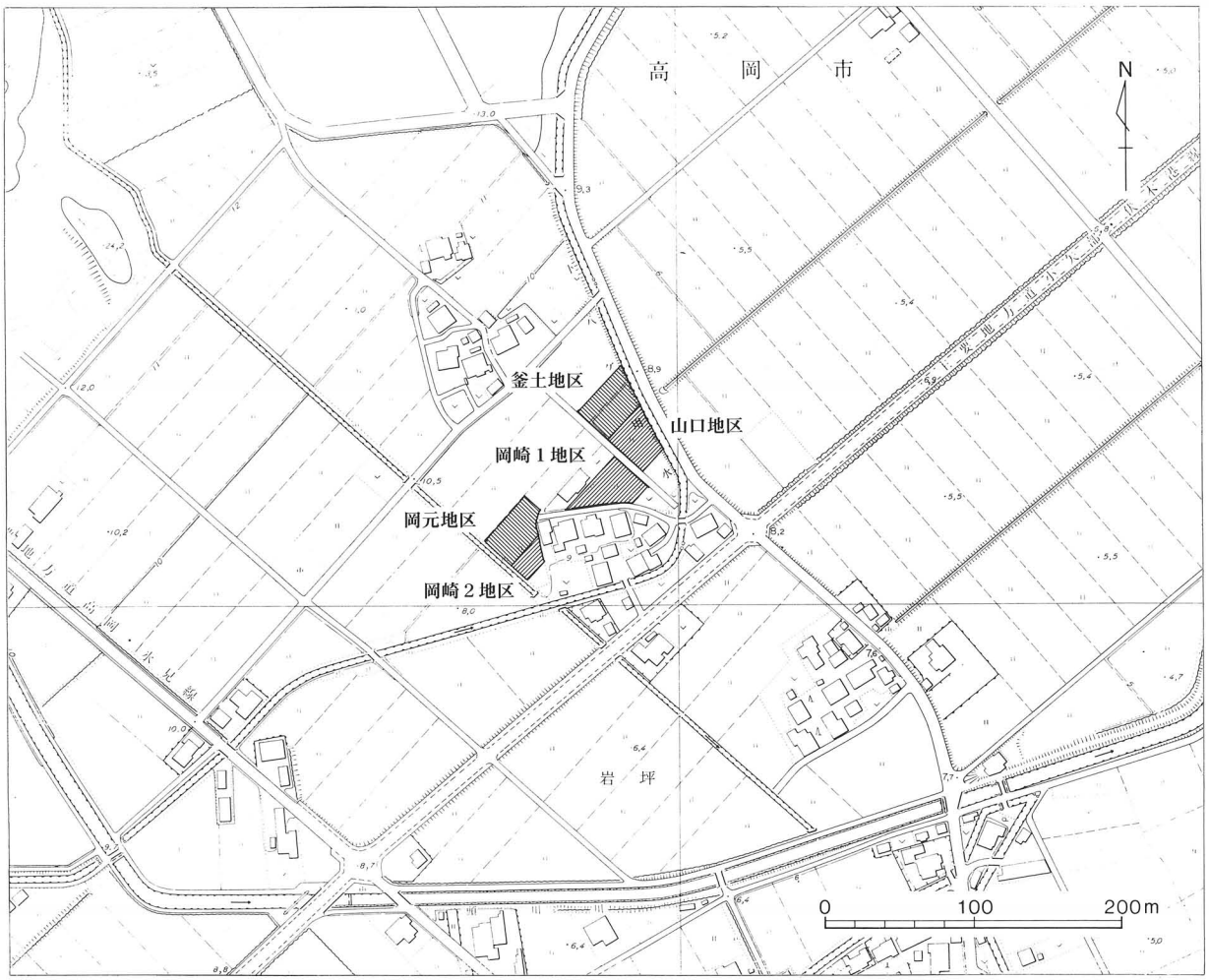
第８図　岩坪岡田島遺跡位置図［２］（１／５万）

Ⅰ 序　説

遺跡概観

当「岩坪岡田島遺跡」は、高岡市街地の北西郊、ＪＲ高岡駅の北西約4.6kmに位置する。岩坪集落の北側、岩坪工業団地の南西側に位置する。遺跡の東側を小矢部川が蛇行しながら北流し、北側から西側一帯には西山丘陵が拡がる。古代の北陸道はこの丘陵の山麓を通り伏木の越中国府方向へ走る。近世以降は場所を変えながら山根道となり、小矢部川周辺を通る氷見街道とともに脇街道として利用された。当遺跡はこの小矢部川の形成した低湿地と標高９～10mの微高地上に立地している。当遺跡は能越自動車道建設に伴う、平成10年度の分布調査・試掘調査により埋蔵文化財包蔵地が確認され「岩坪岡田島遺跡」と命名されたものである。

周辺の遺跡として、北西側丘陵腹部に横穴墓20基が確認された頭川城ヶ平横穴墓群がある。頭川川を隔てた西側には弥生時代～中世にかけて営まれた間尽遺跡が拡がり、この背後の丘陵上には、安居山古墳群・四十九古墳群等が位置している。また当遺跡付近から北東約２kmにある須田藤の木遺跡にかけての一帯は、古代の東大寺領荘園「須加荘」の比定地である。遺跡の範囲は、南北730m×東西480mを計る。



第９図　岩坪岡田島遺跡調査地区位置図（１／5,000)

遺跡発見の経緯

能越自動車道高岡ＩＣ～高岡北ＩＣ間の建設計画地内に係る埋蔵文化財の範囲、内容を確認するため、平成10年３月に富山県教育委員会を主体に分布調査を実施した。その結果、当該地域を含む計画線内に３箇所の埋蔵文化財包蔵地を確認した。その後、協議の結果、包蔵地周辺の範囲確認のための試掘調査が計画された。同年11月～12月にかけて、（財）富山県文化財振興財団埋蔵文化財調査事務所による試掘調査が実施された。調査の結果、手洗野赤浦遺跡、岩坪岡田島遺跡が確認され、包蔵地の変更内容が提示された。

調査に至る経緯

平成10年度に能越自動車道建設にかかる住宅移転の代替地造成について市能越自動車道対策課より照会があり、上記の調査の結果から当該地が埋蔵文化財包蔵地に当たることを回答した。その後、協議を行った結果、平成11年５月より調査を実施することで合意した。調査地区は５地区に分かれ、北東側より南西側へ向かって釜土地区、山口地区、岡崎１地区、岡元地区、岡崎２地区とした。今回は岩坪岡田島遺跡として全体をまとめて報告した。主要地方道小矢部・伏木港線の岩坪北交差点の北西側一帯に拡がる。岩坪工業団地の南西側、岩坪集落の北西側に位置する。

調査経過

発掘調査は全体として平成11年５月10日から同年７月19日まで実施した。当初は試掘調査として実施したが、遺跡の内容把握のため可能な限り遺構の検出に努め、調査地区を設定した。調査地区の設定は釜土地区から開始し、順次西側へ向かって着手した。表土除去はバックフォーで行い、調査地区内に積み上げた。その後、遺構の検出、確認、記録の作成を順次行った。また、大規模な遺構は部分的に掘り下げ、規模と内容の確認を行った。その他の遺構は検出面での確認に止め、掘り下げは行なっていない。調査対象面積は全体で4,086㎡で、発掘面積は1,620㎡である。

各調査地区の概要

各調査地区の概要は以下の通りである。

釜土地区

発掘調査は平成11年５月10日から同年７月14日まで実施した。南東側の山口地区との位置関係から調査対象範囲の南側に調査地区を設定した。調査地区の西側は一段高くなっており、元来東側へ落ち込む地形を区画整理の際に削平しているものと思われる。遺構のうち、溝ＳＤ01については試掘坑を１箇所設定し規模を確認した。調査地区西側は鉄滓が集中的に出土している。調査対象面積は1,037㎡、発掘を実施したのは330㎡である。

山口地区

発掘調査は平成11年５月11日から同年７月９日まで実施した。調査地区は台地の縁辺部に当たる。南西側の岡崎１地区から一段低くなり、削平を受けている。検出遺構のうち、溝ＳＤ01は釜土地区から連続することが分かり、試掘坑を２箇所（試掘坑１・２）設定して規模を確認した。北東側は急激に落ち込む地形となっている。調査対象面積は917㎡、発掘を実施したのは310㎡である。

岡崎１地区

発掘調査は平成11年５月13日から同年７月16日まで実施した。地形は北西側の釜土地区、山口地区から比高差をもって一段高くなっている。掘削の当初、調査範囲の北西側は旧道路跡やカクランがあったため、南西側に調査地区を設定した。調査地区の南半部は区画整理の際に削平を受けており、遺構は確認できなかった。調査対象面積は736㎡、発掘を実施したのは400㎡である。

岡元地区

発掘調査は平成11年５月18日から同年７月19日まで実施した。調査地区内は区画整理に伴い地山面まで削平されており、表土下の整地層はわずかに認められる。遺跡範囲の確認のため、調査地区の設定は対象範囲の北寄りに行なった。調査対象面積は1,002㎡、発掘を実施したのは380㎡である。

岡崎２地区

発掘調査は平成11年５月18日から同年７月19日まで実施した。平成10年度の（財）富山県文化財振興財団埋蔵文化財調査事務所による試掘調査では、付近に柱穴と思われる土坑と溝が検出されており、今回の調査地区でも遺構・遺物の存在が想定された。調査地区は可能な限り南寄りに設定した。調査対象面積は394㎡、発掘を実施したのは200㎡である。

基本層序

厚さ20cmの表土（耕作土）の下に、厚さ５～60cmの地山土と黒褐色土乃至茶褐色土の混土層が見られる。調査地区全体に渡って見られ、区画整理の整地層と思われる。調査地区周辺は区画整理に伴って削平、盛土が行なわれている。この下に地山土として粘性の強い黄褐色粘質土、灰白色粘質土が拡がる。遺物は、主にこの整地層と地山直上より出土している。

検出遺構

各調査地区で検出した遺構は以下の通りである。

釜土地区：土坑２基（ＳＫ01・02）、溝３条（ＳＤ01～03）

山口地区：土坑３基（ＳＫ03～05）、溝４条（ＳＤ01・02・04・05）

岡崎１地区：井戸址２基（ＳＥ01・02）、土坑３基（ＳＫ06～08）

岡元地区：土坑７基（ＳＫ09～15）、溝３条（ＳＤ06～08）

岡崎２地区：土坑１基（ＳＫ16）、溝４条（ＳＤ09～12）

出土遺物

各調査地区の出土遺物は以下の通りである。

釜土地区

土器類：土師器、須恵器、珠洲、白磁、青磁、越中瀬戸、肥前

その他：土錘、鞴の羽口、鉄滓、銅銭（元豊通宝）

山口地区

土器類：土師器、須恵器、珠洲、白磁、青磁、越中瀬戸

その他：鞴の羽口、鉄滓、砥石

岡崎１地区

土器類：土師器、須恵器、珠洲、青磁、越中瀬戸

その他：土錘、鉄滓、銅銭（元豊通宝）、箸（木製）

岡元地区

土器類：土師器、須恵器、珠洲、白磁、青磁、越中瀬戸、肥前

その他：鞴の羽口、鉄滓

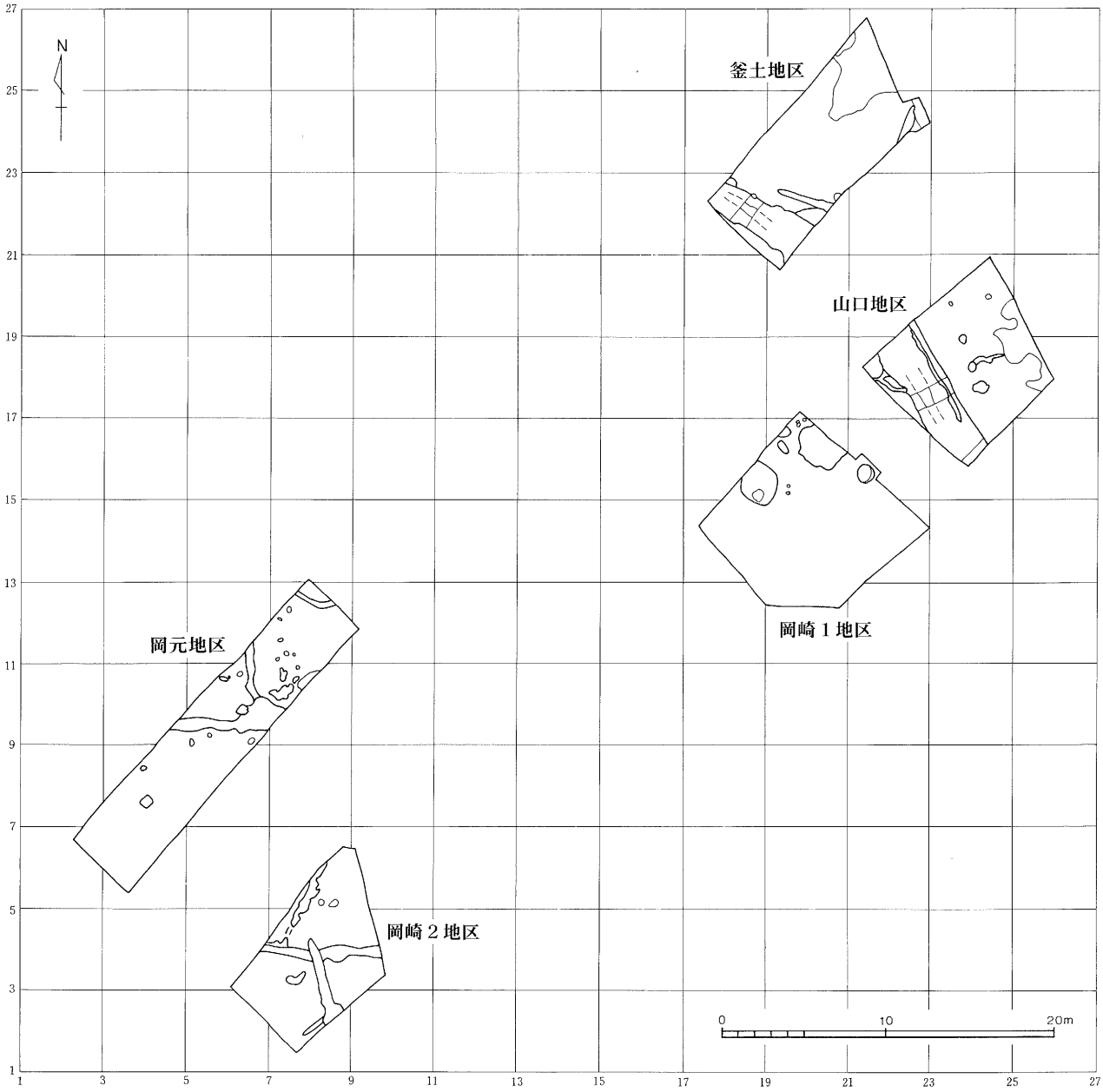
岡崎２地区

土器類：土師器、須恵器、珠洲、白磁、越中瀬戸、肥前

その他：鉄滓、砥石

グリッド

調査地区のグリッドは平面直角座標系の第７座標系（原点は北緯36°00′00″、東経137°10′00″）に合わせた。東西をＸ軸とし、南北をＹ軸とした。グリッドの南西側の数値がそのグリッドを表す。Ｘ＝１、Ｙ＝１の地点は、原点より西へ17.135km、北へ84.515kmへ向かった位置である。この地点を基準に各調査地区全体のグリッドを設定した。各調査地区の遺構図のメッシュは５ｍ区画のものを使用した。各調査地区のグリッドは全体図として、第10図に図示した。



第10図　岩坪岡田島遺跡調査地区全体図（１／800）

Ⅱ 遺　構

1．釜土地区

土坑ＳＫ01

調査地区の（17・18，22）区で検出された。平面形は楕円形を呈する。規模は長軸1.1m以上、短軸0.9mを計る。南西側はＳＤ01に切られている。西側は調査地区外へ拡がる。出土遺物は土師器、珠洲である。図示した遺物は図面３－2036である。

土坑ＳＫ02

調査地区は（19・20，21・22）区で検出された。平面形は楕円形を呈する。 規模は長軸3.4m以上、短軸1.8mを計る。南側をＳＤ01、北側をＳＤ02に切られている。東側は調査地区外に拡がる。この周辺では鉄滓が集中的に出土している。出土遺物は土師器、珠洲、鉄滓がある。図示した遺物は図面３－2017、図面４－2032・2042である。

溝ＳＤ01

調査地区の南東側で検出された。北西から南東方向に走る溝である。規模は長さ12.1m以上、幅3.8～6.8m、深さ1.0mを計る。断面形は逆台形を呈する。 北西側で調査地区外へ、南東側は山口地区に延びており全長44.4m以上となる。ＳＤ02と平行に走る。出土遺物は土師器、須恵器、珠洲、白磁、青磁、鉄滓、銅銭（元豊通宝）である。図示した遺物は図面２－2005、図面３－2034である。

溝ＳＤ02

調査地区の南西側で検出された。北西から南東方向に走る溝である。規模は長さ7.0m以上、幅0.6～1.1mを計る。南東側は調査地区外へ延び、山口地区でも検出されている。全体として長さ39.3m以上となる。ＳＤ01と平行に走り、ＳＫ02を南東側で切っている。周辺では鉄滓が集中して出土している。

溝ＳＤ03

調査地区の北東端部で検出された。北北東から南南西方向に走る溝である。規模は長さ4.7m以上、幅0.5～1.4mを計る。東側は自然地形の落ち込みに繋がり、南側で調査地区外へ延びる。出土遺物は土師器、須恵器、珠洲である。図示した遺物は図面２－2023である。

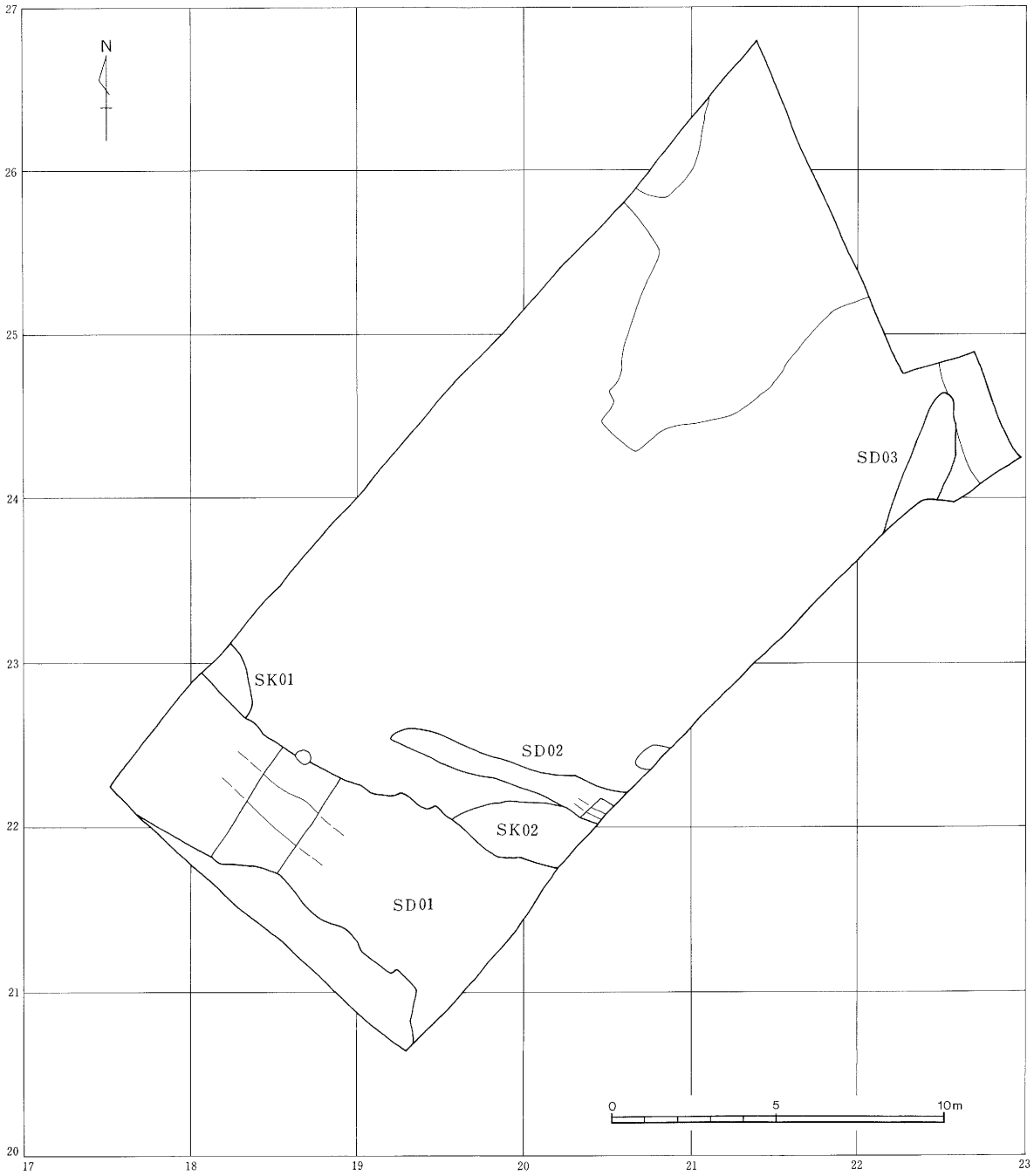
2．山口地区

土坑ＳＫ03

調査地区の中央（23・24，17）区で検出された。平面形は不定楕円形で、規模は長軸2.2m、短軸1.5mを計る。出土遺物は土師器である。

土坑ＳＫ04

調査地区の中央（23・24，18）区で検出された。平面形は楕円形で、規模は長軸1.0m、短軸0.9mを計る。ＳＤ05を切っている。



第11図　岩坪岡田島遺跡釜土地区遺構図（1／200）

土坑ＳＫ05

調査地区の中央（23，18･19）区で検出された。平面形は方形で、規模は長軸1.0m、短軸0.7mを計る。

溝ＳＤ01

調査地区の西～南西側で検出された。北西から南東方向に直線的に走る溝である。規模は長さ18.0m以上、幅6.2mを計る。北西側は釜土地区へ、南西側は調査地区外へ延びる。全体的には湾曲しながら、44.4m以上の長さを計る。中央部と南端部で試掘坑を設定し、確認した深さは1.04mである。ＳＤ02と平行に走り、試

掘坑１では土層に切り合いは見られないことから南東側で1本の溝になると思われる。北西側でＳＤ04を切っている。出土遺物は土師器、須恵器、珠洲、白磁、青磁、鞴の羽口、鉄滓、砥石である。図示した遺物は図面２－2028・2045・2046、図面３－2021・2022・2038、図面４－2033・2041である。

溝ＳＤ02

調査地区の西側で検出された。北西から南東方向へ直線的に走る溝である。規模は長さ14.0m以上、幅0.7～1.2mを計る。確認した深さは28cmである。北西側は釜土地区でも検出されており、長さ39.3m以上の規模となる。南東部でＳＤ01と同一の溝になると思われる。出土遺物は土師器、須恵器、鞴の羽口、鉄滓である。図示した遺物は図面２－2003である。

溝ＳＤ04

調査地区の西側隅部で検出された。南西から「くの字」状に北西方向へ延び、北側で東西方向へ２股に分

第12図　岩坪岡田島遺跡山口地区遺構図（１／200）

岐する溝である。規模は長さ5.0m以上、幅0.32～0.56m、深さ39cmを計る。西側は調査地区外へ延び、東側は浅くなり北へ延びてＳＤ01に切られる。

溝ＳＤ05

調査地区の中央部で検出された。ほぼ東西方向に延びる溝である。規模は長さ4.7m、幅0.5～1.4mを計る。東側は台地縁辺部へ落ち込み、ＳＫ04に切られる。出土遺物は珠洲である。

３．岡崎１地区

井戸址ＳＥ01

調査地区の北東側（21，15）区で検出された。規模は長軸2.3m、短軸2.0mを計る。平面形は不定楕円形である。北東～南西方向に半裁し、深さは地山検出面から80cmまで掘り下げたところで、Ｌ字形に廻る板列を検出した。板列は方位に合わせ柾目板を縦板組にしたもので、全体として一辺1.0m前後の方形に廻る井戸側と想定している。井戸埋土は黒褐色粘質土層で、裏込め土は黒褐色粘質土と地山土（黄褐色粘質土）との混土層からなる。今回は確認調査のため完掘しておらず、また半裁も底面まで達していないため、全体の規模および構造は不明である。出土遺物は土師器、須恵器、珠洲、青磁、土錘、鉄滓、銅銭（元豊通宝）箸、である。図示した遺物は図面２－2002・2008・2009・2014・2015である。

井戸址ＳＥ02

調査地区の北西側（18・19，14・15）区で検出された。平面形は不定楕円形である。全体の規模は長軸5.0m以上、短軸4.6mを計る。深さは地山検出面から50cmまで確認した。井戸の本体は遺構の南側に偏ると思われ、平面形は正円である。井戸埋土は暗褐色粘質土層で、幅1.56～1.8mを計る。掘り方は本体の周囲に大きく拡がることから、下部には何らかの井戸側を持っている可能性がある。周囲の掘り方は、埋土が暗褐色粘質土と地山土（黄褐色粘質土）との混土層からなり、幅4.63～4.85mを計る。一部は北西側で調査地区外に拡がる。当初、土坑とも思われたが、念のため半裁し掘り下げたところ、さらに深く垂直に掘られていることがわかり井戸址とした。今回は確認調査のため完掘しておらず、また半裁も底面まで達していないため、全体の規模および構造は不明である。出土遺物は土師器、須恵器、珠洲、青磁、鉄滓、鞴の羽口片が出土している。図示した遺物は図面２－2047である。

土坑ＳＫ06

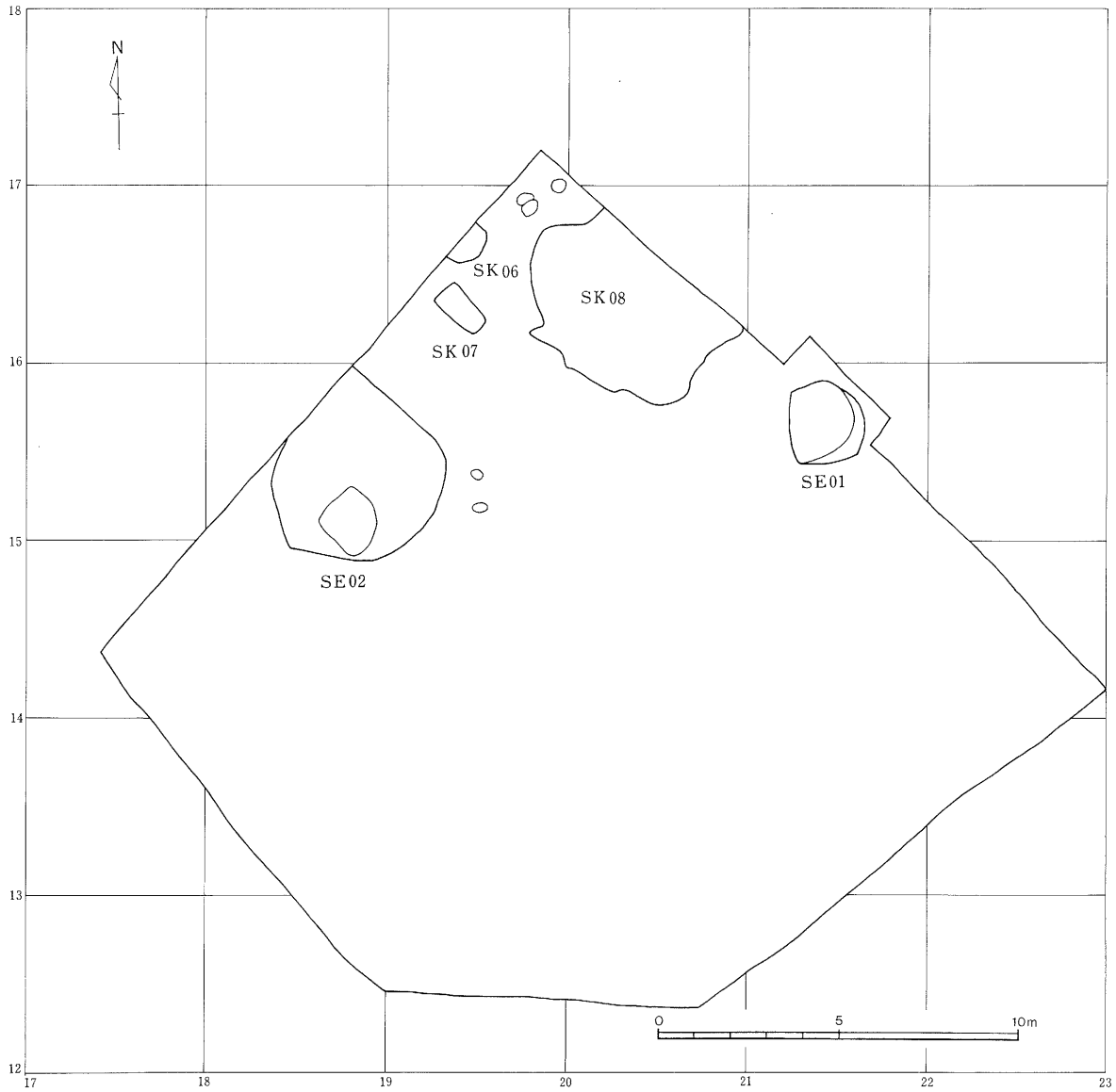
調査地区の北端部（19，16）区で検出された。平面形は楕円形である。規模は長軸1.3m、短軸0.7mを計る。出土遺物は土師器、珠洲である。

土坑ＳＫ07

調査地区の北端部（19，16）区で検出された。平面形は方形である。規模は長軸1.5m、短軸0.8mを計る。出土遺物は土師器、鉄滓である。

土坑ＳＫ08

調査地区の北端部（19・20，15・16）区で検出された。平面形は不定楕円形である。規模は長軸6.0m、短軸4.1mを計る。遺構上面を薄く掘り下げ精査したところ、井戸と思われる掘り方は検出できず、今回は単独の土坑とした。



第13図　岩坪岡田島遺跡岡崎１地区遺構図（１／200）

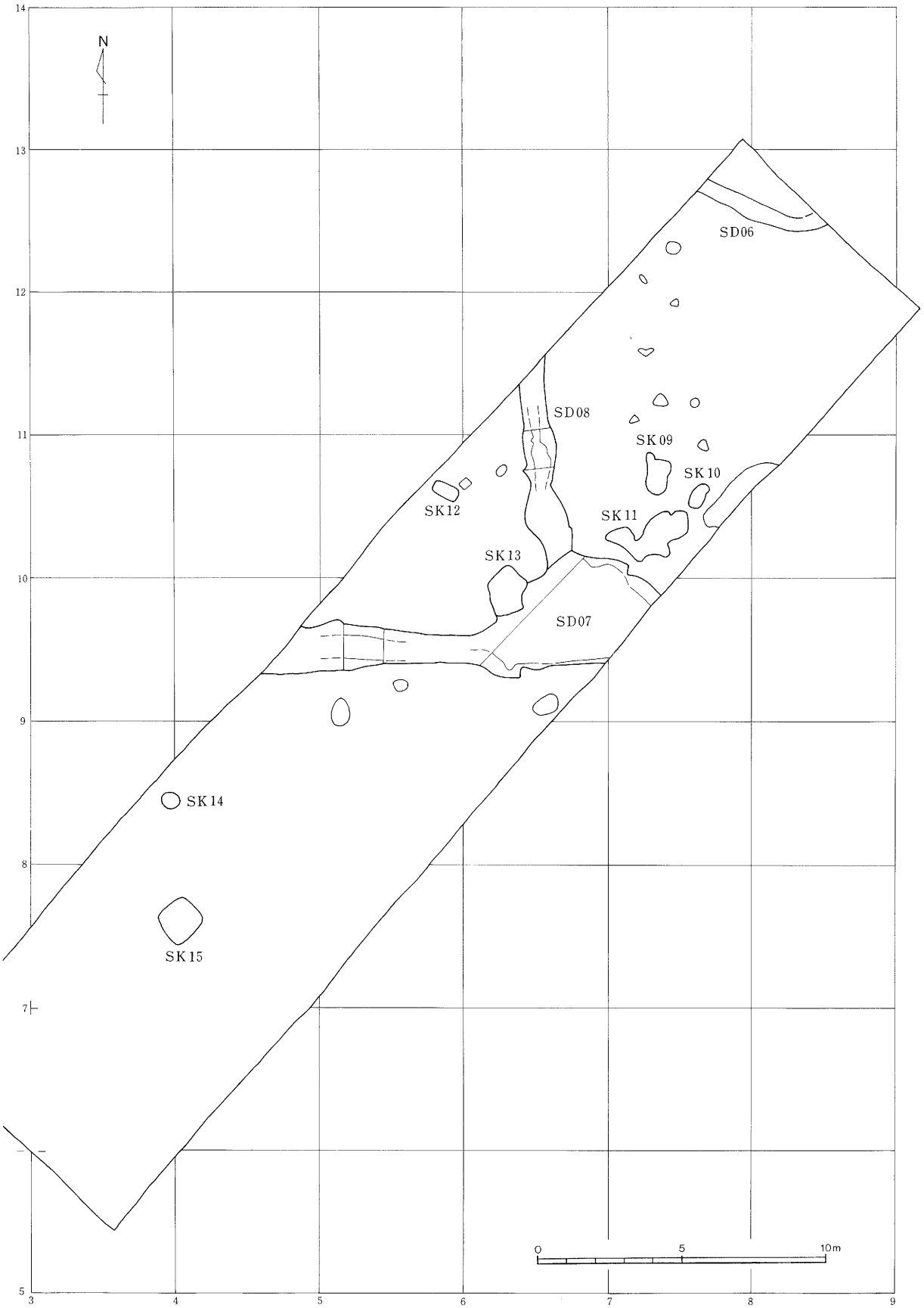
４．岡元地区

土坑ＳＫ09

調査地区の北東部（７，10）区で検出された。平面形は不定形である。規模は長軸1.5m、短軸0.8mを計る。出土遺物は土師器、珠洲である。

土坑ＳＫ10

調査地区の北東部（７，10）区で検出された。平面形は楕円形である。規模は長軸0.9m、短軸0.5mを計る。



第14図　岩坪岡田島遺跡岡元地区遺構図（1／200）

土坑ＳＫ11

調査地区の北東部（７，10）区で検出された。平面形は不定形である。規模は長軸2.4m、短軸1.4mを計る。出土遺物は土師器、須恵器である。

土坑ＳＫ12

調査地区の中央部（５，10）区で検出された。平面形は楕円形である。規模は長軸1.0m、短軸0.4mを計る。

土坑ＳＫ13

調査地区の中央部（６，９・10）区で検出された。平面形は楕円形である。規模は長軸1.6m、短軸1.4mを計る。検出面で見る限りＳＤ07に切られている。出土遺物は土師器である。

土坑ＳＫ14

調査地区の南西部（３・４，８）区で検出された。平面形は楕円形である。規模は長軸0.6m、短軸0.5mを計る。

土坑ＳＫ15

調査地区の南西部（３・４，７）区で検出された。平面形は楕円形である。規模は長軸1.5m、短軸1.4mを計る。出土遺物は土師器である。

溝ＳＤ06

調査地区の北東端部で検出された。西北西から東南東方向に湾曲しながら走る溝である。規模は長さ4.9m以上、幅0.5～0.8m、深さ43cmを計る。北東側、東側で調査地区外へ延びる。出土遺物は土師器、珠洲である。

溝ＳＤ07

調査地区の中央部北側で検出された。東西方向に直線的に走る溝である。規模は長さ11.8m以上、幅1.1～4.0m、深さ60cmを計る。東側でＳＤ08と直交する。西側、東側で調査地区外へ延びる。出土遺物は土師器、須恵器、珠洲、白磁、青磁、鞴の羽口、鉄滓である。図示した遺物は図面２－2011・2013・2024・2025・2027・2030・2031、図面３－2018～2020・2037、図面４－2039・2040である。

溝ＳＤ08

調査地区の中央部北側で検出された。南北方向に直線的に走る溝である。規模は長さ7.0m、幅1.0～1.3m、深さ24cmを計る。ＳＤ07と南側で直交する。北側は調査地区外へ延びる。出土遺物は土師器、珠洲、鞴の羽口である。図示した遺物は図面２－2026である。

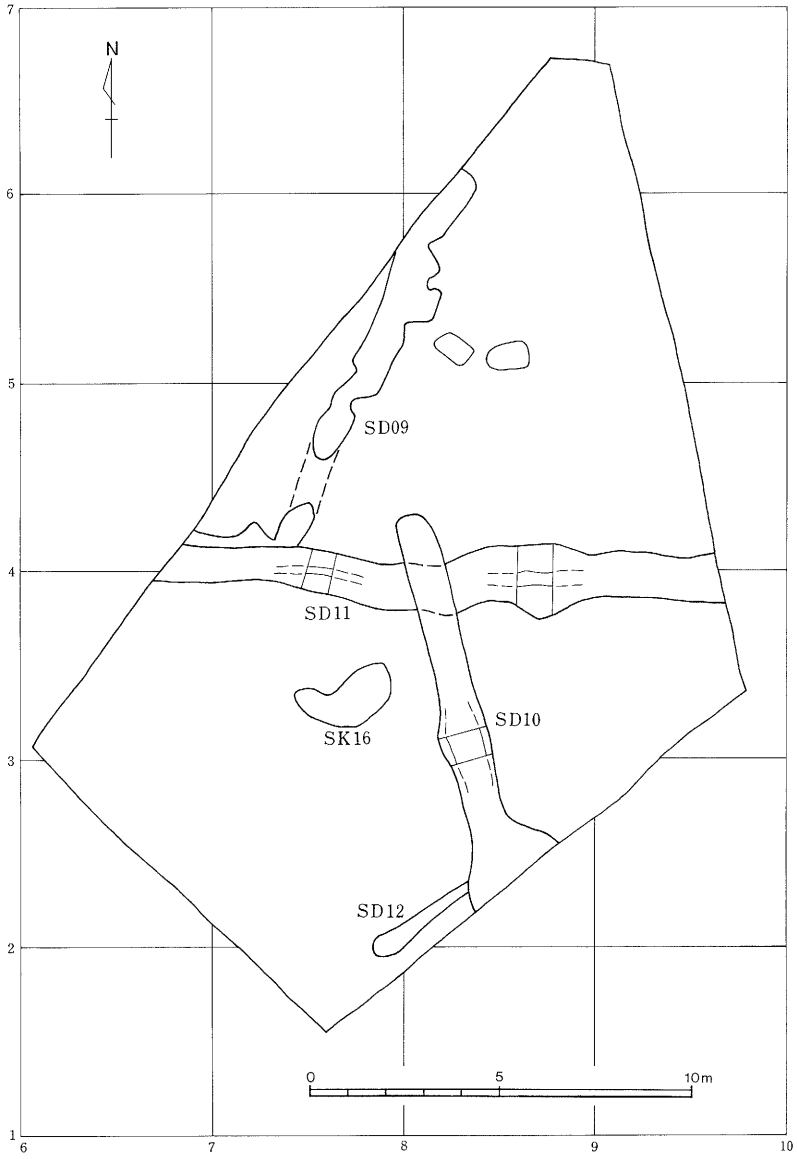
５．岡崎２地区

土坑ＳＫ16

調査地区の中央南西側（７，３）区で検出された。平面形は不定楕円形である。 規模は長軸2.5m、短軸1.1mを計る。出土遺物は土師器である。

溝ＳＤ09

調査地区の北東側で検出された。北北東～南南西方向に走る溝である。 規模は長さ13.5m以上、幅0.5～1.4mを計る。南側で東方向に屈曲しており、ＳＤ10に切られている。北側は調査地区外へ延びる。削平を



第15図
岩坪岡田島遺跡岡崎２地区
遺構図（１／200）

受けており一部途切れている。出土遺物は土師器である。

溝ＳＤ10

調査地区の南半部で検出された。北北西～南南東方向に直線的に走る溝である。規模は長さ9.5m以上、幅0.9～1.9m、深さ17cmを計る。北側でＳＤ11を切っている。南側は調査地区外へ延びる。出土遺物は土師器、須恵器、珠洲である。図示した遺物は図面２－2010である。

溝ＳＤ11

調査地区の中央部で検出された。ほぼ東西方向に走る溝である。規模は長さ14.7m以上、幅0.8～2.0m、深さ55cmを計る。溝の中央でＳＤ10に切られ、東側でカクランに切られている。ＳＤ09を切っている。東側、西側は調査地区外へ延びる。出土遺物は土師器、珠洲である。

溝ＳＤ12

調査地区の南端部で検出された。北西～南東方向に走る溝である。規模は長さ3.0m、幅0.3～0.7mを計る。北東側はＳＤ10に切られ、調査地区外に延びる可能性もある。

Ⅲ　遺　　物

1．土器類

土師器［1］　古墳時代・古代の土器である。

高杯　図面２－2001。高杯の脚部である。全体が磨滅し調整は不明である。

杯　図面２－2002。杯の底部である。

須恵器

杯A　図面２－2003。高台の付かない杯の底部である。

杯B　図面２－2004。高台の付く杯の底部である。

高杯　図面２－2005。高杯の脚部と杯部の接合部である。

杯蓋　図面２－2006。杯蓋の口縁部片で、口端部が下方に短く折れ曲がるものである。

瓶　図面２－2007。小型の瓶の胴下・底部である。

土師器［2］　中世の土師器である。

皿　図面２－2008～2015。非ロクロ調整の小皿である。

珠洲

鉢　図面３－2016～2028。2016～2022は片口鉢の口縁部・胴上部である。オロシ目は見られない。2021・2022は口端部内面には波状文が付く。2023～2028は底部である。2023は底部が回転糸切りである。

壷　図面２－2029～2031。2029・2030は口縁部・胴上部片である。2029は焼成がやや不良である。2031は壺の底部である。

甕　図面３－2034～2038、図面４－2032・2033・2039～2043。2032～2043は口縁部・肩部である。2032・2033は口縁部が立ち上がり、口端部の返しが弱い。2044は甕の底部である。

白磁

椀　図面２－2045。玉縁状の口縁を持つ椀である。

青磁

椀　図面２－2046。椀の底部である。

皿　図面２－2047。皿の底部である。

瀬戸美濃

椀　図面２－2048。平椀の口縁部である。

2．その他の遺物

土製品

土錘　図面24－8001。釜土地区出土の土錘である。

銅製品

銅銭　図版46－8006～8008。8006・8007は元豊通宝である。8008は磨滅し銭名が判読できない。

Ⅳ 結　　語

遺跡周辺は、古代の東大寺領荘園である「須加荘」の比定地の１つとされている。中世には岩坪保の存在が知られる。周辺の遺跡としては安居山城跡（安居山古墳群に重複）、篠八口砦跡、間尽遺跡、釈迦堂遺跡、円通庵遺跡等がある。これらの遺跡群は、主に中世～近世に営まれ、丘陵上やその周辺部に位置している。隣接する手洗野集落には元亨３（1323）年創建の曹洞宗寺院信光寺がある。昨年の試掘調査で岩坪岡田島遺跡は、弥生時代、古代～中世にかけて営まれ、小矢部川に臨む微高地周辺に拡がることが確認されている。

釜土地区、山口地区では、両調査地区にまたがる大規模な溝ＳＤ01が検出された。ＳＤ01は深さ約１ｍ、遺構上面の幅４～５ｍを計る。湾曲しながら北東から南西方向に走り、微高地の輪郭に沿って廻ることから、何らかの区画を意図する溝と推測する。ＳＤ01の時期は、試掘坑最下層から珠洲Ⅰ～Ⅴ期にかけての遺物が混在して出土していることから、中世を通じて使用された溝と推定できる。

岡崎１地区では、調査地区の北半部に井戸址ＳＥ01・02を検出した。ＳＥ01では遺構上層部分を半裁した状況で、井戸側と思われる板列を検出した。井戸側は縦板組であるが、隅柱の有無や下部の構造は未確認である。また、ＳＥ02は大規模な掘り方を持つことから下層に何らかの井戸側を備えている可能性が高い。これらの井戸址は出土遺物から中世前半のものと思われる。

微高地の西側に当たる岡元地区では、東西と南北に走る溝ＳＤ07・08が検出された。直角に交差することから区画する意図を持った遺構と思われる。出土遺物から時期を中世前期と考えている。

南西側の岡崎２地区では、東西に走る溝ＳＤ11、南北に走る溝ＳＤ10が直行しており、また岡元地区のＳＤ07・08と方向を同じくすることから、同じ中世の溝として関連性があると思われる。

出土遺物は、中世が大半を占め、古代のものはわずかに認められる。土師器は中世前半のものが多く、珠洲はⅠ～Ⅱ期のものを主体とし、Ⅴ期まで見られる。少量であるが白磁、青磁も調査地区全般で出土している。また、釜土地区を中心として多量の鉄滓が出土しており、周辺に鍛冶関係の遺構が存在する可能性が高い。

遺構、遺物とも調査地区全体に確認されることから、中世前半を主体とした集落跡が微高地上に拡がっていることが想定される。また、岡崎１地区で複数の井戸址が検出されたことと、岡崎１地区が微高地の南東端部分にあたることから、遺跡の中心部は岡崎１地区周辺から北側一帯に位置していると推定できる。

3．東木津遺跡

第16図　東木津遺跡位置図［1］（1／15万）

東木津遺跡、目次

Ⅰ　序　　説 …… 27

Ⅱ　遺　　構 …… 31

1．堀井地区 …… 31

2．セーブオン地区 …… 32

3．チックタック地区 …… 35

Ⅲ　遺　　物 …… 41

1．堀井地区土器類 …… 41

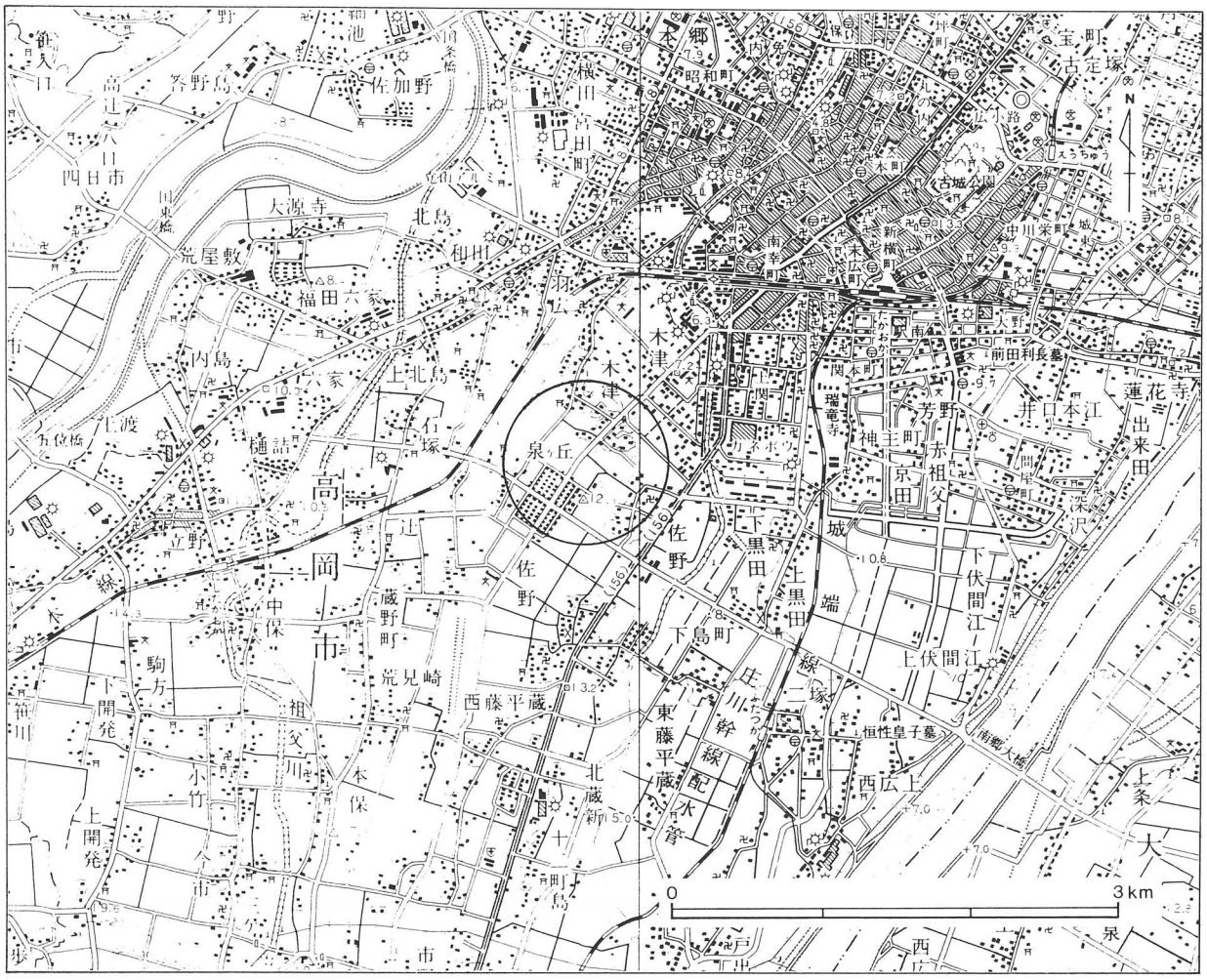
2．セーブオン地区土器類 …… 42

3．チックタック地区土器類 …… 42

4．木製品 …… 43

5．その他の遺物 …… 44

Ⅳ　結　　語 …… 48



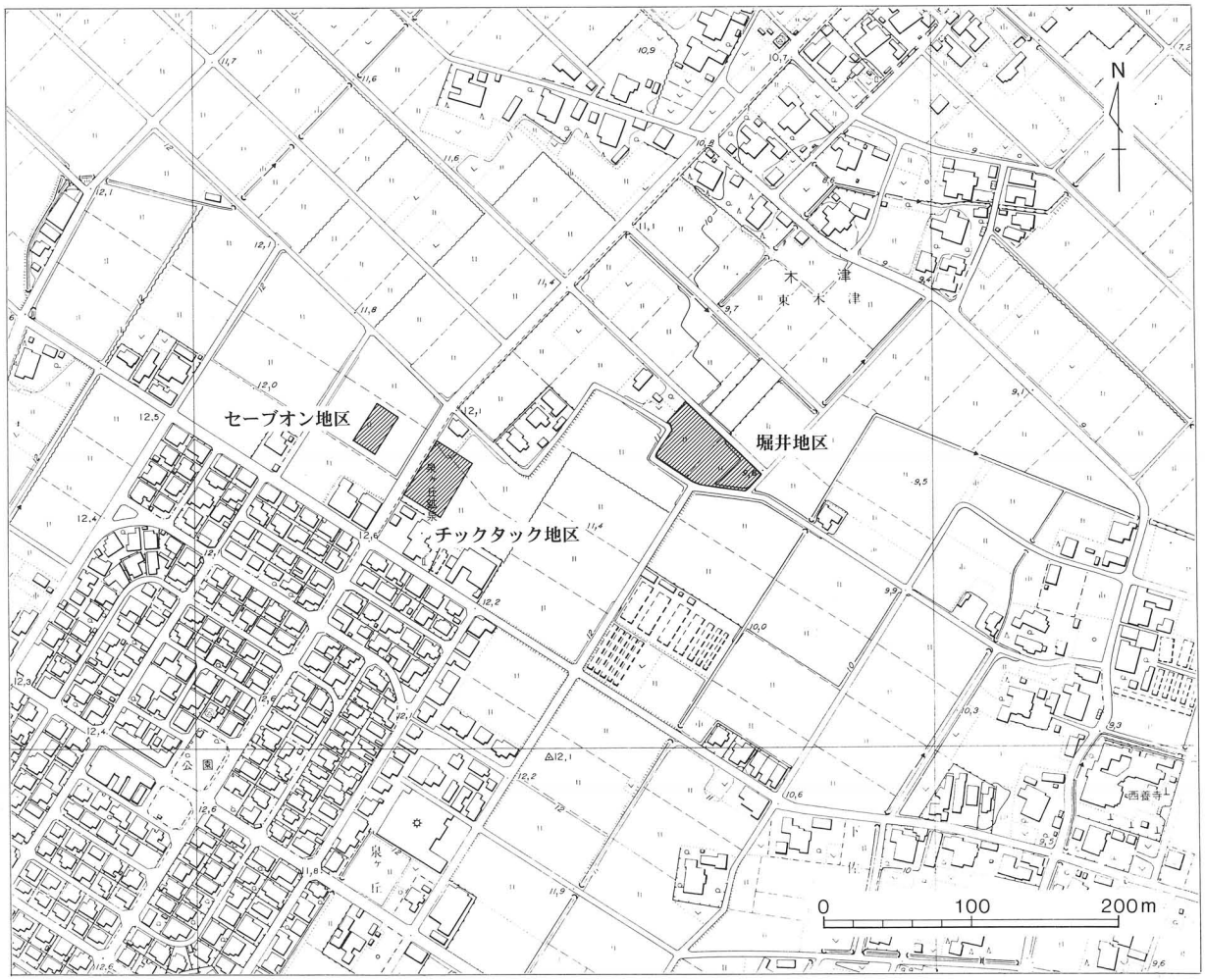
第17図　東木津遺跡位置図［2］（1／5万）

Ⅰ 序　説

遺跡概観

当「東木津遺跡」は、高岡市街地の南西郊、ＪＲ高岡駅の南西約３㎞に位置する。遺跡内を都市計画道路下伏間江福田線が東西に横断する。遺跡の東側には国道156号線が、西側には北陸本線が南北に走る。遺跡の東は千保川が、西は和田川が北流している。これらの河川に囲まれた標高11～12ｍを計る微高地上に立地している。この付近は庄川が形成した扇状地の末端部にあたり、湧水の豊富なことで知られている。

周辺には、北西側一帯に西木津遺跡、木津神社遺跡があり、南側から南西側にかけて泉ヶ丘遺跡、下佐野遺跡、諏訪遺跡が位置する。これらの遺跡は、縄文時代晩期に始まり弥生時代後期～中世にかけて営まれた遺跡群と思われる。東木津遺跡は、数々の調査により弥生時代後期から奈良・平安時代を中心とする遺跡であることが知られ、南の下佐野遺跡と接する。平成10年度に実施した月安地区の調査では、奈良・平安時代の掘立柱建物址が検出され、多量の土器類も出土しており、古代の中核的な遺跡の１つであることが確認された。遺跡範囲は南北250ｍ×東西600ｍを計る。



第18図　東木津遺跡調査地区位置図（１／5,000）

調査に至る経緯

今回は東木津遺跡で行なった３地区の調査についてまとめて記載した。各調査地区の概要については遺構・遺物ともに個別にまとめた。

堀井地区；平成10年３月頃に、地主の堀井真雄氏より問い合わせがあり、当該地における資材置場建設を知った。その後、協議を行い、承諾を得て、試掘調査を実施することとなった。

セーブオン地区；仲介の不動産業者を通して、当該地における店舗建設計画を知った。その後、協議を行い、地主の丹羽政文氏の承諾を得て、試掘調査を実施することとなった。

チックタック地区；仲介の不動産業者を通して、当該地における店舗建設計画を知った。その後、協議を行い、地主の上野繁夫氏の承諾を得て、試掘調査を実施することとなった。

堀井地区は、木津集落の南東側に当たり、昨年実施した月安地区の北側に位置する。セーブオン地区は平成９年度の丹羽地区の北側に隣接し、チックタック地区は道路を挟んだ南東側に位置する。両地区ともに泉ヶ丘団地の北東側に接する所に位置する。

調査経過

堀井地区；発掘調査は、平成11年６月25日から同年８月20日まで実施した。調査地区は遺跡の北東端部に当たり、範囲確認を念頭に試掘坑（トレンチ）を５箇所設定した。各トレンチはバックフォーにより表土を除去し、調査地区内に積み上げた。中でも第３トレンチは遺物が集中的に出土したため、重点的に調査を行った。また、このトレンチに限り基準杭を設定し平面図を作成した。調査地区内は湧水が激しく排水に手間取った。なお、実測図は調査地区全体図として第19図に図示し、第３トレンチ遺構図として第20図に示した。調査対象面積は2,036㎡、発掘した面積は270㎡である。

セーブオン地区；発掘調査は、平成11年10月25日から同年12月28日まで実施した。調査地区は遺跡の北西側に当たる。調査対象面積は496.4㎡、発掘した面積は410㎡である。

チックタック地区；発掘調査は、平成11年10月26日から同年12月28日まで実施した。調査地区は遺跡の中央部南側に当たる。調査対象面積は1,322㎡、発掘した面積は676㎡である。

セーブオン地区、チックタック地区ともに、調査開始が年末の天候不順な時期に重なり、作業可能な日が限定され予定より期間が延びた。テントを使用することにより作業の進展を図った。

基本層序

堀井地区；厚さ20㎝前後の表土（耕作土・１層）を除去すると、厚さ10～20㎝で暗褐色土と地山土との混土層（整地層・２層）がある。この下層には順に厚さ10～40㎝で黒色シルト層（遺物包含層・３層）があり、その下層に40㎝以上の厚さで褐色粘質土層（遺物包含層・４層）が現れ、さらに黄褐色シルト、青灰色粘質土の地山土が現れる。谷部は暗茶褐色粘質土層に漸移的に移行するが地山土との境目が明確でない。地形は調査地区北東側に向かって落ち込み谷地形となり、２ｍ以上の深さを計る。第１トレンチでは表土下約70㎝で地山（青灰色砂）が検出され、東側の下佐野集落へ向けて次第に高くなる地形と思われる。第３トレンチでは、遺物が２・３層中から多く出土しており、地下水位が高く木製品が多数遺存していた。

セーブオン地区；厚さ20㎝前後の表土（耕作土）を除去すると、黒褐色土の遺物包含層が現れる。主に奈良・平安時代の遺物が出土している。この下に黄褐色砂質土・粘質土からなる地山がある。調査地区中央部は、黒褐色土層が厚くなり浅い落ち込みとなり、北東から南方向へ溝状に続いている。

チックタック地区；厚さ20㎝の表土（耕作土）を除去すると、黄褐色砂の地山が現れる。

検出遺構

各調査地区で検出した遺構は以下の通りである。セーブオン地区、チックタック地区では検出面の状況により性格を判断した。一部掘り下げた遺構以外の深さは未確認である。

堀井地区：溝２条（ＳＤ48・49)、凹地１基（ＳＸ06)

セーブオン地区：土坑11基（ＳＫ42～52)、溝９条（ＳＤ07・08・10・12・50～54)、畝状遺構３基（ＳＸ07～09)

チックタック地区：掘立柱建物址５棟（ＳＢ02～06)、柵址２条（ＳＡ04・05)、土坑47基（ＳＫ53～99)、溝５条（ＳＤ55～59)、畝状遺構１基（ＳＸ10)

遺構番号は平成10年度の調査で使用した番号の連番としている。

出土遺物

各調査地区の出土遺物は以下の通りである。

堀井地区

土器類：土師器、須恵器

土製品：土錘

木製品：①木簡－木簡、木簡形

②祭祀用品－人形、鳥形、馬形、舟形、琴柱形、刀子形、斎串

③服飾具－横櫛、針

④容器－曲物

⑤雑具－火鑽板、火鑽杵、物差、刻み目（刻み目のある木製品)、楔

⑥棒状品－棒状品、箸

⑦部材－細部材、部材

石製品：砥石

セーブオン地区

土器類：土師器、須恵器

土製品：土錘

木製品：曲物

石製品：管玉、磨製石斧、砥石

その他：鉄滓

チックタック地区

土器類：土師器、須恵器、越中瀬戸

土製品：土錘

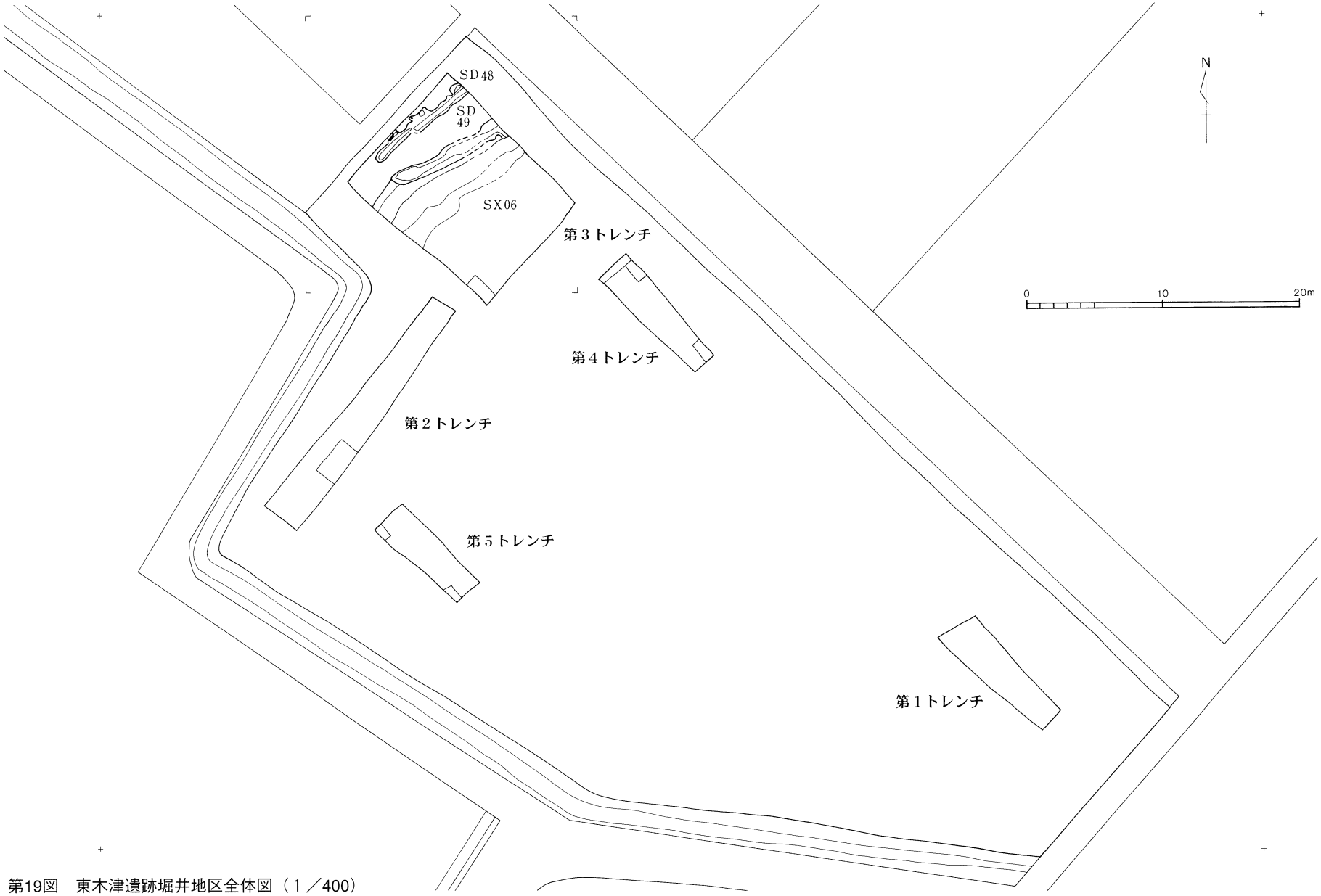
グリッド

調査地区のグリッドは平面直角座標系の第７座標系（原点は北緯36°00′00″、東経137°10′00″）に合わせた。遺構図のメッシュは５ｍ区画である。

堀井地区；調査区全体は概略図として把握するに止め、第３トレンチに限り基準杭を設定して、平面図を座標に合わせた。Ｘ＝１、Ｙ＝１の地点は、原点より西へ15.180km、北へ80.710kmの位置である。

セーブオン地区；Ｘ＝１、Ｙ＝１の地点は、原点より西へ15.390km、北へ80.690kmの位置である。

チックタック地区；Ｘ＝１、Ｙ＝１の地点は、原点より西へ15.350km、北へ80.650kmの位置である。



第19図　東木津遺跡堀井地区全体図（1／400）

Ⅱ 遺　構

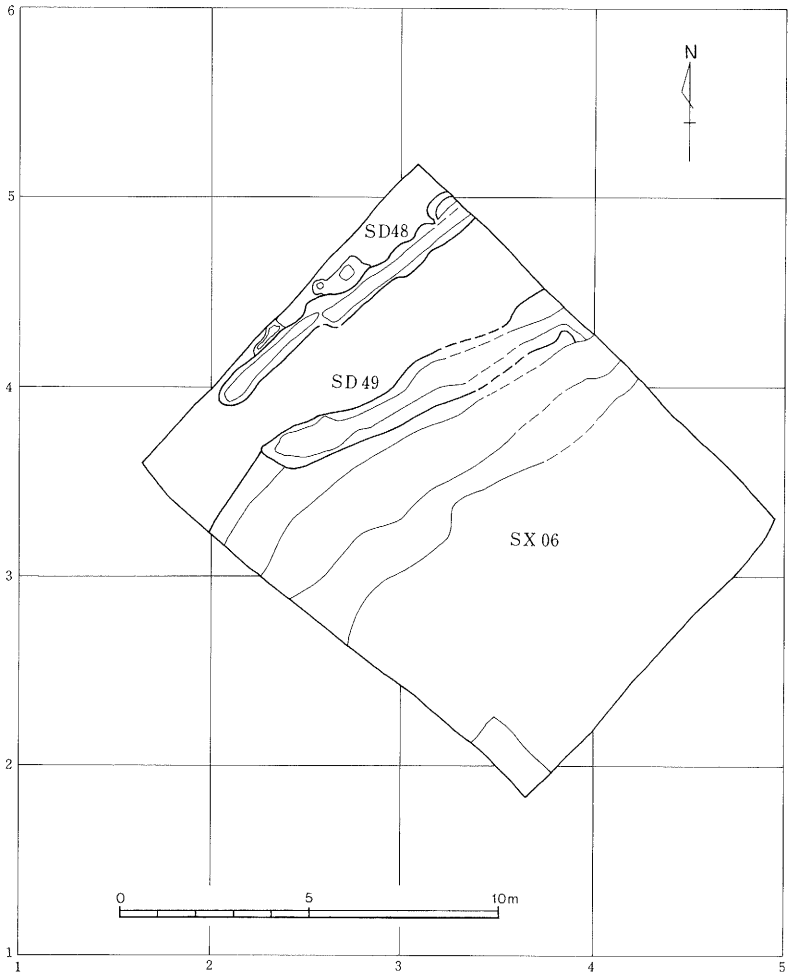
1．堀井地区

溝ＳＤ48

第３トレンチの北東側で検出された。北東～南西方向に延びる溝である。規模は長さ8.15m以上、幅0.5～1.0m、深さ27cmを計る。北東側は調査地区外へ延びる。出土遺物は土師器、須恵器がある。図示した遺物は図面７－3039・3056、図面９－3099である。

溝ＳＤ49

第３トレンチの中央部北側で検出された。北東～南西方向に延びる溝である。 規模は長さ8.9m以上、幅0.8～1.4m、深さ63cmを計る。北東、南西側で調査地区外へ延びる。北東端部では南東側に屈曲し延びると思われる。出土遺物は土師器、須恵器がある。図示した遺物は図面５－3010・3011、図面９－3089である。



第20図　東木津遺跡堀井地区第３トレンチ遺構図（１／200）

凹地ＳＸ06

第３トレンチの南東側で検出された。南東方向へ緩やかに落ち込む凹地である。この落ち込みは、遺跡の位置する微高地の北東～西側に拡がる谷地形となると思われる。遺物は主に谷地形の黒色シルト層（３層）・褐色粘質土層（４層）より出土している。各時代の遺物が混在していることから明確に時期ごとの分層ができないが、おおむね奈良時代中頃～平安時代前期と思われる。出土遺物は、土師器、須恵器、木製品（木簡、木簡形、人形、鳥形、馬形、舟形、琴柱形、刀子形、斎串、横櫛、針、曲物、火鑽板、火鑽杵、物差、刻み目、楔、棒状品、箸、細部材、部材）がある。

2．セーブオン地区

土坑ＳＫ42

調査地区の北端部（４，７）区で検出された。平面形は方形である。規模は一辺0.4ｍを計る。北側は調査地区外へ拡がる。

土坑ＳＫ43

調査地区の北端部（４，７）区で検出された。平面形は楕円形である。規模は長軸0.4ｍ以上、短軸0.4ｍを計る。ＳＸ07に切られている。

土坑ＳＫ44

調査地区の北端部（４，６・７）区で検出された。平面形は楕円形である。規模は長軸0.7ｍ以上、短軸0.3ｍを計る。西側は調査地区外へ拡がる。ＳＸ07を切っている。

土坑ＳＫ45

調査地区の北端部（４，６）区で検出された。平面形は楕円形である。規模は長軸0.7ｍ、短軸0.5ｍを計る。ＳＫ46に切られている。

土坑ＳＫ46

調査地区の北端部（４，６）区で検出された。平面形は長楕円形である。規模は長軸0.8ｍ、短軸0.5ｍを計る。ＳＫ45を切っている。

土坑ＳＫ47

調査地区の北端部（４，６）区で検出された。平面形は楕円形である。規模は長軸0.5ｍ、短軸0.4ｍを計る。

土坑ＳＫ48

調査地区の中央北側（３，５）区で検出された。平面形は長楕円形である。規模は長軸1.5ｍ、短軸0.5ｍを計る。ＳＤ52に切られている。

土坑ＳＫ49

調査地区の中央東側（５，４）区で検出された。平面形は不定楕円形で、規模は長軸1.1ｍ以上、短軸0.6ｍを計る。東側は調査地区外へ拡がる。ＳＸ08を切っている。

土坑ＳＫ50

調査地区の南西側（２，３）区で検出された。平面形は長方形で、規模は長軸0.6ｍ、短軸0.5ｍを計る。ＳＸ09に切られている。

土坑ＳＫ51

調査地区の南西側（２，３）区で検出された。平面形は楕円形で、規模は長軸0.6ｍ、短軸0.5ｍを計る。ＳＤ53、ＳＸ09を切っている。

土坑ＳＫ52

調査地区の南西側（１・２，２・３）区で検出された。平面形は楕円形で、規模は長軸0.6ｍ、短軸0.4ｍを計る。ＳＸ09を切っている。

溝ＳＤ07

調査地区の南端部で検出された。北北東～南南西方向に走る溝である。規模は長さ4.9ｍ以上、幅0.7ｍ、深さ17㎝を計る。ＳＤ08と平行して走る。南側は調査地区外へ延びる。平成９年度の丹羽地区で検出された

ＳＤ07と同一の遺構と思われる。出土遺物には須恵器がある。図示した遺物は図面11－4029である。

溝ＳＤ08

調査地区の南端部で検出された。北北東～南南西方向に走る溝である。規模は長さ6.2m以上、幅0.8m、深さ22cmを計る。ＳＤ07と平行して走る。南側は調査地区外へ延びる。平成９年度の丹羽地区で検出されたＳＤ08と同一の遺構と思われる。

溝ＳＤ10

調査地区の南半部で検出された。北西～南方向に湾曲しながら走る溝である。規模は長さ20.3m以上、幅0.5～0.9m、深さ28cmを計る。ＳＤ52とほぼ平行して走り、北西側、南側で調査地区外へ延びる。平成９年度の丹羽地区で検出されたＳＤ10とつながるものと思われる。ＳＤ12の上層を切っている。出土遺物は土師器、須恵器である。図示した遺物は図面10－4004・4017、図面11－4019・4024・4030・4035・4042・4043、図面12－4060である。

溝ＳＤ12

調査地区の中央部を北東～南西方向に直線的に走る溝である。規模は28.5m以上、幅0.6～1.8mを計る。北東側、南西側で調査地区外へ延びる。平成９年度の丹羽地区で検出されたＳＤ12とつながるものと思われる。ＳＤ10・52に切られている。北側でＳＤ50を切っている。出土遺物は須恵器である。図示した遺物は図面12－4058である。

溝ＳＤ50

調査地区の北側で検出された。 北東～南西方向に湾曲しながら走る溝である。規模は長さ7.3m以上、幅0.3～1.0mを計る。北側で調査地区外へ延びる。南西側でＳＤ12に切られている。

溝ＳＤ51

調査地区の北西側で検出された。北東～南西方向に湾曲しながら走る溝である。規模は長さ13.0m以上、幅1.0～2.0mを計る。北側は調査地区外へ延びる。南西側はＳＤ52と交差しているが、切り合いは不明である。出土遺物は須恵器、曲物である。

溝ＳＤ52

調査地区の中央部で検出された。北西～南東方向に走る溝である。規模は長さ19.0m以上、幅0.5～1.4mを計る。北西側、南東側は調査地区外へ延びる。北西側でＳＫ48、ＳＤ12を切っている。ＳＤ51と交わるが切り合いは不明である。

溝ＳＤ53

調査地区の南西側で検出された。北北東～南南西方向に走る溝である。 規模は長さ6.1m以上、幅0.5～1.2mを計る。ＳＫ51、ＳＸ09に切られている。南西側で調査地区外へ延びる。

溝ＳＤ54

調査地区の南側で検出された。北東～南西方向に走る溝である。規模は長さ3.7m以上、幅0.5～0.8mを計る。北東端部は検出されておらず未確認である。

畝状遺構ＳＸ07

調査地区の北端部で検出された。幅0.2～0.4mの小規模な溝が６条走る。約40cmの間隔で北西～南東方向に走る溝と、北東～南西方向のものに分けられ、一部交差している。遺構覆土は黒褐色土からなる。ＳＤ12・51周辺の浅い落ち込みと、周囲の遺構を切っていることから一段階新しい時期に造られたと思われる。確認した範囲が少ないが、周辺の小溝も含め今回は畝状遺構とした。

畝状遺構ＳＸ08

調査地区の中央部東側で検出された。幅50cm前後の小規模な溝が６条走る。約0.4～0.6ｍの間隔で北東～南西方向にほぼ平行に走る。一部で直交する小溝も見られる。

畝状遺構ＳＸ09

調査地区の南西側で検出された。幅0.2～0.5ｍの小規模な溝が10条走る。短い溝が折り重なるように交差しており、北西～南東方向に走るものと、北東～南西方向のものに分けられる。

第21図　東木津遺跡セーブオン地区遺構図（１／200）

3．チックタック地区

掘立柱建物址ＳＢ02

調査地区の南部で検出された。棟の方向を北西～南東方向にとる総柱の掘立柱建物址である。検出面で確認した状況では、建物の規模は、桁行３間（6.2m）×梁行２間（5.3m）である。柱間寸法は桁行（1.9～2.2m）、梁行（2.1～2.4m）である。棟方向はＮ－43度－Ｗである。掘り方の平面形は方形で、規模は一辺が0.8～1.2mを計る。全ての掘り方で柱痕を検出し、一部では柱根が見られた。北西側の掘り方はＳＤ57を切っている。出土遺物は土師器、須恵器である。図示した遺物は図面13－5012～5014・5016～5019である。

掘立柱建物址ＳＢ03

調査地区の北西部で検出された。棟の方向を北西～南東方向にとる側柱の掘立柱建物址である。北東側に１間分の庇をもつ。検出面で確認した状況では、建物の規模は、桁行３間（6.2m）×梁行２間（4.8m）である。庇の幅は3.0mである。柱間寸法は、桁行（1.9～2.3m）、梁行（2.2～2.4m）である。棟方向はＮ－46度－Ｗである。掘り方の平面形は庇を含め方形と楕円形のものがあり、規模は一辺が0.9～1.0mを計る。全ての掘り方で柱痕を検出し、一部では柱根、礎板が見られた。南西側で掘り方をＳＤ56に切られる。出土遺物は土師器、須恵器である。図示した遺物は図面13－5008・5020・5022・5023・5025である。

掘立柱建物址ＳＢ04

調査地区の北西部で検出された。棟の方向を北西～南東方向にとる総柱の掘立柱建物址である。検出面で確認した状況では、建物の規模は、桁行２間以上（3.2m以上）×梁行２間（6.0m）である。北西側は調査地区外へ拡がる。柱間寸法は、桁行（2.0m）、梁行（2.8～3.2m）である。棟方向はＮ－43度－Ｗである。掘り方の平面形は方形で、規模は一辺0.6～1.0mを計る。出土遺物は土師器、須恵器である。

掘立柱建物址ＳＢ05

調査地区の北東部で検出された。棟の方向を北西～南東方向にとる側柱の掘立柱建物址である。検出面で確認した状況では、規模は、桁行３間（6.4m）×梁行２間以上（5.0m以上）である。柱間寸法は、桁行（2.1m）、梁行（2.5m）である。棟方向はＮ－43度－Ｗである。掘り方の平面形は楕円形で、規模は一辺が0.7～1.2mを計る。北東側は調査地区外へ拡がる。

掘立柱建物址ＳＢ06

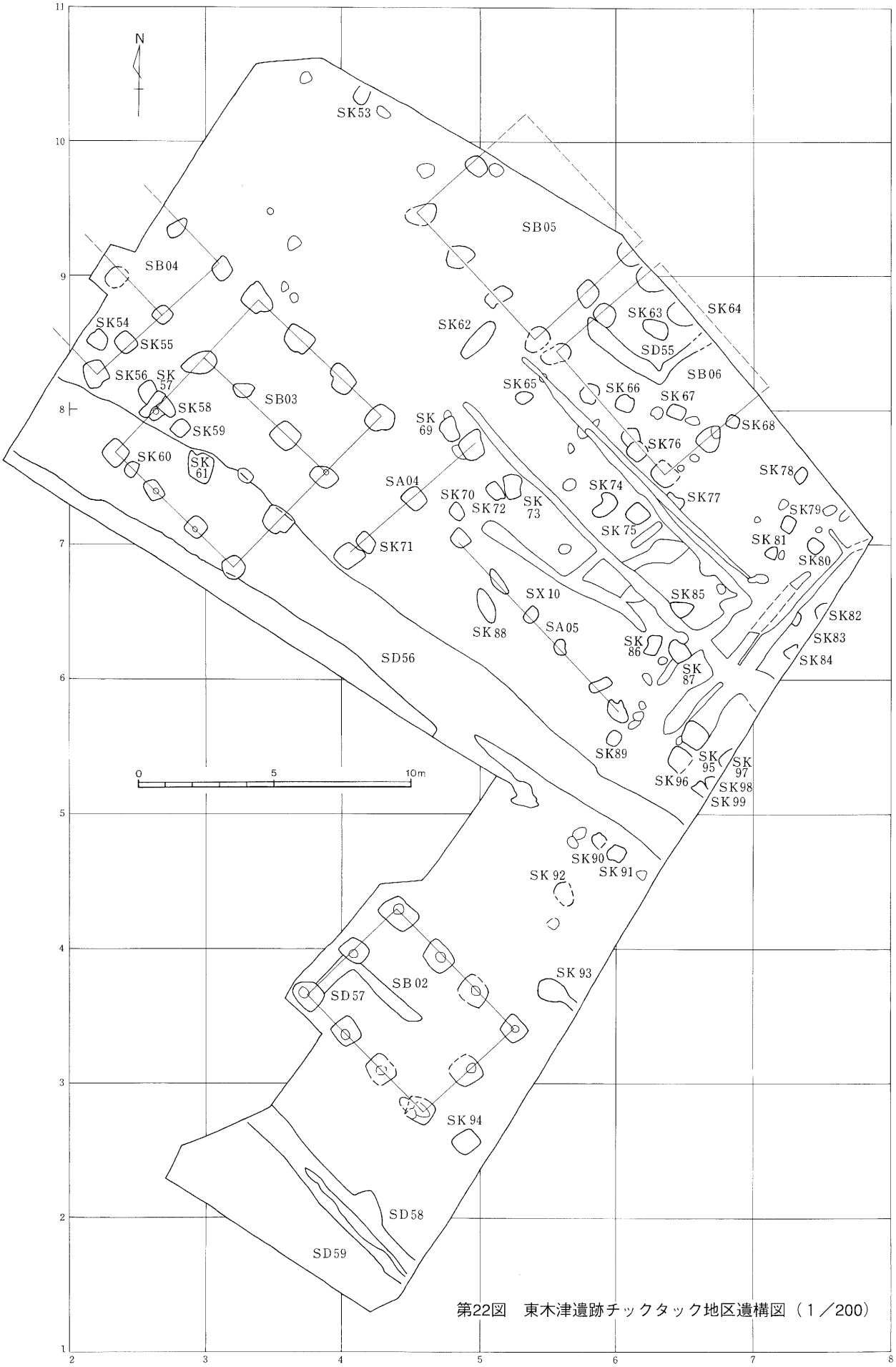
調査地区の北東部で検出された。棟の方向を北西～南東方向にとる側柱の掘立柱建物址である。検出面で確認した状況では、規模は、桁行３間（6.0m）×梁行２間以上（4.5m以上）である。柱間寸法は、桁行（2.0m）、梁行（2.3m）である。棟方向はＮ－43度－Ｗである。掘り方の平面形は方形、楕円形のものがあり、規模は一辺が0.7～1.2mを計る。北東側は調査地区外へ拡がる。

柵址ＳＡ04

調査地区の中央部で検出された。北東～南西方向に延びる柵址である。規模は２間（6.0m）を計る。方位は真北に対し東に45度偏っている。掘り方の規模は一辺0.7～1.0mで、柱間は3.0mを計る。

柵址ＳＡ05

調査地区の中央部で検出された。北西～南東方向に延びる柵址である。規模は５間（8.6m）を計る。方位は真北に対し西に43度偏っている。掘り方の規模は一辺0.5～1.0mと不揃いで、柱間も1.2～2.2mと一定ではないが、今回は周辺の掘立柱建物址と向きを同じくする土坑群を柵址とした。



第22図　東木津遺跡チックタック地区遺構図（1／200）

土坑ＳＫ53

調査地区の北端部（４，10）区で検出された。平面形は楕円形である。規模は長軸0.7m以上、短軸0.5mである。北東側で調査地区外へ拡がる。

土坑ＳＫ54

調査地区の北西部（２，８）区で検出された。平面形は方形である。規模は一辺0.7mを計る。掘立柱建物址の掘り方の可能性もあるが、今回は単独の土坑とした。

土坑ＳＫ55

調査地区の北西部（２，８）区で検出された。平面形は方形である。規模は一辺0.7mを計る。掘立柱建物址の掘り方の可能性もあるが、今回は単独の土坑とした。

土坑ＳＫ56

調査地区の北西部（２，８）区で検出された。平面形は不定形である。規模は長軸0.7m、短軸0.5mを計る。南東側でＳＫ57に切られている。

土坑ＳＫ57

調査地区の北西部（２，７・８）区で検出された。平面形は長方形である。規模は長軸1.2m、短軸0.3mを計る。ＳＢ03の掘り方、ＳＫ56・58を切っている。

土坑ＳＫ58

調査地区の北西部（２，７・８）区で検出された。平面形は楕円形である。規模は長軸0.7m、短軸0.5mを計る。ＳＢ03の掘り方を切り、ＳＫ57に切られている。

土坑ＳＫ59

調査地区の北西部（２，７）区で検出された。平面形は方形である。規模は一辺0.6mを計る。

土坑ＳＫ60

調査地区の北西部（２，７）区で検出された。平面形は楕円形である。規模は長軸0.6m、短軸0.45mを計る。遺構上面をＳＤ56に切られている。

土坑ＳＫ61

調査地区の北西部（２・３，７）区で検出された。平面形は方形である。規模は一辺1.0mを計る。遺構上面をＳＤ56に切られている。

土坑ＳＫ62

調査地区の中央部北側（４・５，８）区で検出された。平面形は長楕円形である。規模は長軸1.7m、短軸0.5mを計る。

土坑ＳＫ63

調査地区の北東部（６，８）区で検出された。平面形は不定楕円形である。規模は長軸1.0m、短軸0.5mを計る。出土遺物は須恵器がある。図示した遺物は図面13－5021である。

土坑ＳＫ64

調査地区の北東部（６，８）区で検出された。平面形は楕円形である。規模は長軸1.0m以上、短軸0.7mを計る。北東側で調査地区外へ延びる。

土坑ＳＫ65

調査地区の北東部（５，８）区で検出された。平面形は楕円形である。規模は長軸0.6m、短軸0.45mを計る。

土坑ＳＫ66

調査地区の北東部（６，８）区で検出された。平面形は方形である。規模は一辺0.7mを計る。

土坑ＳＫ67

調査地区の北東部（６，７・８）区で検出された。平面形は方形である。規模は一辺0.7mを計る。

土坑ＳＫ68

調査地区の北東部（６，７）区で検出された。平面形は方形である。規模は一辺0.5mを計る。

土坑ＳＫ69

調査地区の中央部（４，７）区で検出された。平面形は不定楕円形である。規模は長軸0.9m、短軸0.5mを計る。北側でピットを切っている。

土坑ＳＫ70

調査地区の中央部（４，７）区で検出された。平面形は方形である。規模は長軸0.6m、短軸0.5mを計る。

土坑ＳＫ71

調査地区の中央部（４，６・７）区で検出された。平面形は不定形である。規模は長軸0.7m、短軸0.6mを計る。

土坑ＳＫ72

調査地区の中央部（５，７）区で検出された。平面形は方形である。規模は長軸0.8m、短軸0.5mを計る。

土坑ＳＫ73

調査地区の中央部（５，７）区で検出された。平面形は不定形である。規模は長軸0.9m、短軸0.6mを計る。

土坑ＳＫ74

調査地区の東部（５・６，７）区で検出された。平面形は不定楕円形である。規模は長軸1.1m、短軸0.5mを計る。

土坑ＳＫ75

調査地区の東部（６，７）区で検出された。平面形は方形である。規模は一辺0.7mを計る。

土坑ＳＫ76

調査地区の東部（６，７）区で検出された。平面形は方形である。規模は一辺0.7mを計る。ＳＢ06の掘り方を切っている。

土坑ＳＫ77

調査地区の東部（６，７）区で検出された。平面形は不定形である。規模は長軸0.7m、短軸0.4mを計る。南東側をＳＸ10に切られている。

土坑ＳＫ78

調査地区の東部（７，７）区で検出された。平面形は方形である。規模は長軸0.6m、短軸0.4mを計る。

土坑ＳＫ79

調査地区の東部（７，７）区で検出された。平面形は方形である。規模は一辺0.5mを計る。

土坑ＳＫ80

調査地区の東部（７，６・７）区で検出された。平面形は方形である。規模は長軸0.6m、短軸0.5mを計る。

土坑ＳＫ81

調査地区の東部（７，６）区で検出された。平面形は略三角形である。規模は一辺0.5mを計る。

土坑ＳＫ82

調査地区の東部（７，６）区で検出された。平面形は不定形である。規模は長軸0.6m以上、短軸0.4mを計る。南東側で調査地区外へ拡がる。

土坑ＳＫ83

調査地区の東部（７，６）区で検出された。平面形は方形である。規模は長軸0.5m、短軸0.2mを計る。北西側をＳＸ10に切られている。

土坑ＳＫ84

調査地区の東端部（７，６）区で検出された。平面形は不定形である。規模は長軸0.6m以上、短軸0.5mを計る。南東側は調査地区外へ拡がる。

土坑ＳＫ85

調査地区の東部（６，６）区で検出された。平面形は不定形である。規模は長軸0.8m、短軸0.7mを計る。ＳＸ10に切られている。

土坑ＳＫ86

調査地区の東部（６，６）区で検出された。平面形は不定形である。規模は長軸0.8m、短軸0.6mを計る。

土坑ＳＫ87

調査地区の東部（６，６）区で検出された。平面形は不定形である。規模は長軸0.9m、短軸0.6mを計る。ＳＸ10を切っている。

土坑ＳＫ88

調査地区の中央部（４・５，６）区で検出された。平面形は長楕円形である。規模は長軸1.4m、短軸0.6mを計る。

土坑ＳＫ89

調査地区の東部（５・６，５）区で検出された。平面形は方形である。規模は一辺0.5mを計る。

土坑ＳＫ90

調査地区の東部南側（５，４）区で検出された。平面形は方形である。規模は一辺0.45mを計る。南東側を近世の溝に切られている。

土坑ＳＫ91

調査地区の東部南側（５・６，４）区で検出された。平面形は不定形である。規模は長軸0.75m、短軸0.6mを計る。

土坑ＳＫ92

調査地区の東部南側（５，４）区で検出された。平面形は楕円形である。規模は長軸0.9m、短軸0.7mを計る。上層を近世の溝に切られている。

土坑ＳＫ93

調査地区の南部（５，３）区で検出された。平面形は不定楕円形である。規模は長軸1.5m以上、短軸0.8mを計る。南東側は調査地区外へ延びているが、単独の土坑とした。

土坑ＳＫ94

調査地区の南部（４，２）区で検出された。平面形は方形である。規模は長軸0.9m、短軸0.8mを計る。

掘立柱建物址の掘り方と思われるが、今回は単独の土坑とした。

土坑ＳＫ95

調査地区の東部（６，５）区で検出された。平面形は方形である。規模は長軸1.0m、短軸0.9mを計る。ＳＸ10を切っている。

土坑ＳＫ96

調査地区の東部（６，５）区で検出された。平面形は方形である。規模は一辺0.8mを計る。南東側を近世の溝に切られている。

土坑ＳＫ97

調査地区の東端部（６，５）区で検出された。平面形は楕円形と思われる。 規模は長軸0.9m以上、短軸0.3mを計る。南東側は調査地区外へ拡がる。

土坑ＳＫ98

調査地区の東端部（６，５）区で検出された。平面形は楕円形と思われる。規模は0.5m以上、短軸0.4mを計る。南東側で調査地区外へ拡がる。

土坑ＳＫ99

調査地区の東端部（６，５）区で検出された。平面形は楕円形と思われる。規模は0.6m以上、短軸0.45mを計る。南東側で調査地区外へ拡がる。

溝ＳＤ55

調査地区の北東部で検出された。北西から北東方向にＬ字状に屈曲する溝である。規模は長さ6.1m以上、幅0.6mを計る。北東側で調査地区外へ延びる。

溝ＳＤ56

調査地区の西部から南東部へかけて検出された。北西～南東方向に走る溝である。規模は長さ28.5m以上、幅1.3～3.5m、深さは30cmを計る。北西側と南西側は調査地区外へ延びる。ＳＢ03南側の掘り方の上層、ＳＫ60・61を切っている。出土した遺物から近世以降の溝と思われる。出土遺物は土師器、須恵器、越中瀬戸がある。図示した遺物は図面13－5003である。

溝ＳＤ57

調査地区の南部で検出された。南西から南東方向にＬ字状に屈曲する溝である。規模は長さ5.4m、幅0.5mを計る。西側をＳＢ02の掘り方に切られている。

溝ＳＤ58

調査地区の南端部で検出された。北西～南東方向に走る溝である。規模は長さ8.2m以上、幅0.4～1.0mを計る。ＳＤ59と平行に走り、北東側で１本の溝になる。北西側、南東側で調査地区外へ延びる。

溝ＳＤ59

調査地区の南端部で検出された。北西～南東方向に走る溝である。規模は長さ8.5m以上、幅0.2～0.5mを計る。ＳＤ58と平行に走り、北東側で１本の溝になる。南東側で調査地区外へ延びる。出土遺物は須恵器である。図示した遺物は図面13－5009である。

畝状遺構ＳＸ10

調査地区の東部で検出された。幅0.2～0.5mの小規模な溝が10条走る。これらは北西～南東方向に走るものと、北東～南西方向のものに分けられる。一部短い溝が折り重なるように交差している。これらの小規模な溝を畝状遺構とした。

Ⅲ 遺　物

1．堀井地区土器類

土師器［1］　古式土師器である。

高杯　図面5－3001～3003。高杯の脚部で、外下方に拡がるものである。3001は円孔が2箇所残存しており、全体として6箇所付くものと思われる。焼成前に穿孔されている。内外面とも赤彩され、調整はヘラ磨きである。3002は内外面ともに赤彩され、調整はヘラ磨きである。3003の調整はヘラ磨きである。

壺　図面5－3005～3007。3005・3006は有段口縁の壺の口縁部である。外面に稜が付き外上方に拡がるものである。3006は赤彩され、内外面の調整が刷毛目の後、ヘラ磨きである。3007は壺の胴下部である。

器台　図面5－3008・3009。小型の器台である。3008は内外面とも赤彩され、調整はヘラ磨きである。3009は器台の脚部で、円孔が4箇所つき外下方に拡がるものである。

甕　図面5－3012～3017。3012～3014は有段口縁の甕である。3012は口縁部外面に擬凹線文が付く。3015～3017は、「くの字」状の口縁部を持つ甕である。3015は口端部外面が面取りされ肥厚している。

蓋　図面5－3010・3011。赤彩された小型の蓋である。3010は外面がヘラ磨き、内面は指圧痕が見られる。

てづくね土器　図面5－3004。鉢形のミニチュア土器である。

土師器［2］　古墳時代中期の土師器である。

杯　図面5－3018～3021。口端部の形状が外反するものと内湾するものがある。

甕　図面5－3022、図面6－3023・3024。口縁部が外反し、外上方に延びるものである。

土師器［3］　奈良・平安時代の土師器である。

甕　図面6－3027～3033。甕の口縁部・肩部である。3027・3028は胴部外面の調整が刷毛目で縦に入っている。3033は口縁部を巻き込むように終わるものである。

甕底部　図面6－3034～3036。甕の底部である。

椀　図面6－3025・3026。3026は内黒の椀で、高台を貼り付けるものである。

鍋　図面6－3037・3038。鍋の口縁部・胴上部である。口端部外面に面を取り肥厚するものである。

須恵器

杯A　図面7－3039～3065。高台の付かない杯である。3043は内外面に漆が付着している。3045・3060は内面にヘラ記号が付く。

杯B　図面8－3066～3083。高台の付く杯である。3066は内面にヘラ記号が付く。3077は底部外面にヘラ記号が見られる。3083は口端部が内屈して立ち上がる。

稜杯　図面8－3084・3085。稜の付く杯（椀）である。外面に稜をなして、口縁部は外上方へやや外反して拡がる。底部は欠損している。

杯蓋　図面9－3086～3106。3086～3089は内面に身受けのかえりを持つ蓋である。3091・3092・3100は転用硯である。3090～3105は口端部が下方に短く折れ曲がる。3106はつまみ外面に墨書が見られる。

壺　図面9－3107・3108。3107は広口壺の口縁部である。3108は直口壺の口縁部・肩部片である。

甕　図面8－3109・3112、図面9－3110・3111・3113。3110・3111は中型の甕の口縁部・肩部片である。3109・3112・3113は大型の甕の口縁部片である。

2．セーブオン地区土器類

土師器

杯　図面10－4001～4003。杯の底部片である。4002・4003は内黒の杯である。

甕　図面10－4004～4016。4004～4012は甕の口縁部片である。4013～4016は甕の底部である。

鍋　図面10－4017。鍋の口縁部である。口縁部が外反して延び、口端部は肥厚する。

須恵器

杯A　図面11－4018～4032。高台の付かない杯である。

杯B　図面11－4033～4046。高台の付く杯である。4046は底部外面に墨書があり、「万呂」と書かれている。

杯蓋　図面12－4047～4053。4047は内面にヘラ記号が付く。

鉢　図面12－4054。大型の鉢で、体部は直線的に延びる。

長頸瓶　図面12－4055～4057。4055・4056は長頸瓶の肩部である。4056は肩部外面に線刻が付く。4057は長頸瓶の口縁部である。

横瓶　図面12－4058・4059。4058はほぼ完形を止める。胴部外面は平行叩き目と刷毛目が付く。内面は指圧痕が付く。4059は横瓶の口縁部である。

平瓶　図面12－4060。平瓶の把手と思われる。

甕　図面12－4061・4062。甕の口縁部・肩部である。

3．チックタック地区土器類

土師器

椀　図面13－5001。椀の口縁部である。赤彩されている。

皿　図面13－5002～5005。5002・5003は皿の底部で高台が付くものである。いずれも赤彩されている。5004・5005は皿の口縁部である。いずれも赤彩されている。

杯類蓋　図面13－5006・5007。杯や皿類の蓋である。全体的に赤彩されている。5006は大型の杯ないし皿の蓋になると考えられる。5007は小型の蓋である。

甕　図面13－5008。小型の甕の口縁部・胴上部である。

須恵器

杯A　図面13－5009・5010。高台の付かない杯である。

杯B　図面13－5011～5015。高台の付く杯である。5015の底部外面には墨書が付く。

杯口縁部　図面13－5017～5020。杯の口縁部である。

杯蓋　図面13－5021～5024。口縁部は短く下方に屈曲し、つまみは宝珠形を残しながらも偏平である。

椀　図面13－5016。稜椀である。

壺蓋　図面13－5025。壺蓋の長い宝珠形のつまみ部である。

甕　図面13－5026～5028。甕の口縁部・肩部片である。

4．木製品

木製品として記載した遺物については、堀井地区より出土したものである。

木簡　図面14－7001～7005。出土した木簡は全部で５点である。いずれも欠損し、２次的に加工されているが、一部文字の判読できるものである。文字の判読、釈文については奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部史料調査室の館野和己室長、山下信一郎氏、吉川聡氏、渡辺晃宏氏にご教示いただいた。

木簡１（図面14－7001）。長さ（152）mm、幅28mm、厚さ８mmを計る。

・×□二月六日便」

〔郡ヵ〕

・×□□□□□□」

二月の上に文字があるが「年」、「十」か判然としない。「便」の意味については不明である。 柾目板を用いている。上端については欠損し、両側面は平滑に削られている。下端は削りの後、凹んでいる。

木簡２（図面14－7002）。長さ（142）mm、幅20mm、厚さ11mmを計る。

〔粮物ヵ〕　〔日ヵ〕

・「□　□」□□百束十□×

・「□　□」戸主高田国足×

「百束」は量としてかなり多い。柾目材を用いている。上端、側面は削られ、下端は欠損している。

木簡３（図面14－7003）。長さ（118）mm、幅17mm、厚さ10mmを計る。

・「□□□□□　□」□□×

［申ヵ］

・「□□十□×

十の上に文字があるが「申」、「中」か不明である。柾目材を用いている。上端は荒く削られ、裏面は一部面取りしてある。両面の下半分は削られ、２次調整されている。側面は割った後未調整である。

木簡４（図面14－7004）。長さ（66）mm、幅（８）mm、厚さ７mmを計る。

［申ヵ］

×□□□×

裏面は墨痕などを確認できない。一番下は「申」の可能性が高い。柾目材を用いている。上端は削られ、下端は欠損している。両側面は２次的に削られている。

木簡５（図面14－7005）。長さ（112）mm、幅（14）mm、厚さ10mmを計る。

×	到	□ 十	□ □	×

字は片面のみに書かれている。字を区切る刻界が見られ、針などの鋭いもので引かれている。板状の木簡を横方向に割り、２次的に加工し、細長い板材にしている。板目材を用いている。上面、下面は割った後未調整のままである。左端部は削り尖らせ、右側は欠損している。

木簡形木製品　図面14－7006～7008。付け札状に上部に抉りが入るが文字が確認できないものである。

人形　図面15－7009～7019。木製の人形である。頂部を圭頭状に整えており、肩の表現が撫で肩、怒り肩の２種類が見られる。7009は片面に目、鼻、口、眉が表記されている。7013は赤外線像で片面に目が表記されていることを確認した。7019は板目材を用い、これ以外は全て柾目材である。

鳥形　図面16－7020。ほぼ完形品で長さ24.4cm、幅4.5cm、厚さ0.9cmを計る。板目材を用いている。

馬形　図面16－7021～7023。7021は中央部で２つに折れているが全体形を止める。柾目材を用いている。7022は尾部片で、柾目材を用いている。7023は胴部片で頭部・尻部が欠損している。板目材を用いている。

舟形　図面16－7024。上面は水平で掘り窪めていない。断面形は逆台形である。３つに割れており、尾部が欠損している。柾目材を用いている。

琴柱形　図面16－7025・7026。山形、台形の板材の頂部・底部に抉りを入れて整形している。

刀子形　図面16－7027・7028。いずれも欠損しているが刀身・柄を表現している。

斎串　図面17－7029～7038。斎串の上部・下部片である。7029は木口を圭頭状にし、左右に切れこみが入る。下部は欠損している。

横櫛　図面17－7039。背は水平で、肩は角張っている。歯の密度は３cmにつき13本である。表面は平滑に磨かれている。右半分と挽歯の歯先が欠損している。柾目材を用いている。

針　図面17－7040～7042。断面形が円形で、先を尖らせた棒状の木製品を針とした。

曲物　図面18－7043～7054。曲物の底板である。7043～7048には周縁部に木釘孔が見られる。

火鑽板　図面19－7055～7057。割材の側面に縦に溝を彫り、溝に接して窪（臼部）を作るものである。

火鑽杵　図面19－7058～7063。棒の周囲を細かく面取りし断面形は円形に整えている。7059・7062・7063は先端に焦げ目がある。

物差　図面20－7064。ばらつきがあるが両面に約五分（1.5cm）間隔で目盛りを墨書する。

刻み目　図面20－7065～7070。板材や棒の側面に溝が刻まれているものである。7069は上の木口がつまみ状に削られている。7067は全体に焦げ目が見られる。

楔　図面20－7071・7072。板材の木口が両面より斜めに削られ、斧頭状になるものを楔とした。

棒状品　図面21－7073～7082。上端部・側面を面取りし、下端を削って尖らせた棒状の木製品である。

箸　図面22－7083～7086。箸状の木製品の断片である。側面を面取りし丸く仕上げている。

細部材　図面22－7087～7093。加工痕のある板状・棒状の木製品のうち、比較的細いものを細部材とした。

部材　図面23－7094～7099。加工痕のある板状・棒状の木製品のうち、比較的大型のものである。

５．その他の遺物

土製品

土錘　図面24－8002～8005。8002は堀井地区出土のものである。8003・8004はセーブオン地区出土のものである。8005はチックタック地区出土のものである。いずれも土師質である。

石製品

砥石　図面24－8009～8011。8009は堀井地区出土のものである。8010・8011はセーブオン地区出土のものである。

管玉　図面24－8012。セーブオン地区出土のものである。鉄石英製の管玉で実大で図示した。完存品で、穿孔途中の未製品である。大きさは径3.5mm、長さ3.7cm、孔径3.0mmである。

磨製石斧　図面24－8013。セーブオン地区出土のものである。磨製石斧の刃部である。縄文時代のもので、石材は常願寺川流域の硬質砂岩である。実大で図示した。

No	番号	図面	図　版	種　別	細　別	備　　考
01	7001	14	36	木簡	木簡	片面に「二月六日便」と記す。
02	7002	14	36	木簡	木簡	片面に「戸主高田国足」と記す。
03	7003	14	36	木簡	木簡	両面に墨書、「十」の文字あり。
04	7004	14	36	木簡	木簡	片面に墨書、判読できず。
05	7005	14	36	木簡	木簡	片面に「到」「十」の文字あり。
06	7006	14	36	木簡	木簡形	
07	7007	14	36	木簡	木簡形	
08	7008	14	36	木簡	木簡形	
09	7009	15	37－1	祭祀用品	人形	片面に目、鼻、口、眉を記す。
10	7010	15	37－1	祭祀用品	人形	手の部分が分離している。
11	7011	15	37－1	祭祀用品	人形	
12	7012	15	37－1	祭祀用品	人形	
13	7013	15	37－1	祭祀用品	人形	片面に目を記す。
14	7014	15	37－1	祭祀用品	人形	
15	7015	15	37－1	祭祀用品	人形	
16	7016	15	37－1	祭祀用品	人形	
17	7017	15	37－1	祭祀用品	人形	
18	7018	15	37－1	祭祀用品	人形	
19	7019	15	37－1	祭祀用品	人形	
20	7020	16	38－1	祭祀用品	鳥形	
21	7021	16	38－1	祭祀用品	馬形	2つに分割している。
22	7022	16	38－1	祭祀用品	馬形	
23	7023	16	38－1	祭祀用品	馬形	
24	7024	16	38－2	祭祀用品	舟形	3つに分割している。
25	7025	16	38－2	祭祀用品	琴柱形	
26	7026	16	38－2	祭祀用品	琴柱形	
27	7027	16	37－2	祭祀用品	刀子形	
28	7028	16	37－2	祭祀用品	刀子形	
29	7029	17	39－1	祭祀用品	斎串	
30	7030	17	39－1	祭祀用品	斎串	
31	7031	17	39－1	祭祀用品	斎串	
32	7032	17	39－1	祭祀用品	斎串	
33	7033	17	39－1	祭祀用品	斎串	

第1表　東木津遺跡堀井地区木製品一覧［1］

No.	番号	図面	図　版	種　別	細　別	備　　考
34	7034	17	39－1	祭祀用品	斎串	
35	7035	17	39－1	祭祀用品	斎串	
36	7036	17	39－1	祭祀用品	斎串	
37	7037	17	39－1	祭祀用品	斎串	
38	7038	17	39－1	祭祀用品	斎串	
39	7039	17	39－2	服飾具	横櫛	
40	7040	17	39－2	服飾具	針	
41	7041	17	39－2	服飾具	針	
42	7042	17	39－2	服飾具	針	
43	7043	18	40	容器	曲物	底板、木釘孔あり。
44	7044	18	40	容器	曲物	底板、木釘孔あり。
45	7045	18	40	容器	曲物	底板、木釘孔あり。
46	7046	18	40	容器	曲物	底板、木釘孔あり。
47	7047	18	40	容器	曲物	底板、木釘孔あり。
48	7048	18	40	容器	曲物	底板、木釘孔あり。
49	7049	18	40	容器	曲物	底板。
50	7050	18	40	容器	曲物	底板。
51	7051	18	40	容器	曲物	底板。
52	7052	18	40	容器	曲物	底板、周縁の一部が焦げている。
53	7053	18	40	容器	曲物	底板。
54	7054	18	40	容器	曲物	底板。
55	7055	19	41	雑具	火鑽板	一端が枘状の突起となり、部材の２次利用？
56	7056	19	41	雑具	火鑽板	
57	7057	19	41	雑具	火鑽板	
58	7058	19	41	雑具	火鑽杵	
59	7059	19	41	雑具	火鑽杵	
60	7060	19	41	雑具	火鑽杵	
61	7061	19	41	雑具	火鑽杵	
62	7062	19	41	雑具	火鑽杵	
63	7063	19	41	雑具	火鑽杵	
64	7064	20	42－2	雑具	物差	両面に墨書目盛り（５分間隔）。
65	7065	20	42－1	雑具	刻み目	刻み目のある木製品。
66	7066	20	42－1	雑具	刻み目	刻み目のある木製品。

第２表　東木津遺跡堀井地区木製品一覧［２］

No.	番号	図面	図　版	種　別	細　別	備　　考
67	7067	20	42－1	雑具	刻み目	刻み目のある木製品、全体的に焦げている。
68	7068	20	42－1	雑具	刻み目	刻み目のある木製品。
69	7069	20	42－1	雑具	刻み目	刻み目のある木製品。
70	7070	20	42－1	雑具	刻み目	刻み目のある木製品。
71	7071	20	42－2	雑具	楔	
72	7072	20	42－2	雑具	楔	約半分焦げている。
73	7073	21	43	棒状品	棒状品	
74	7074	21	43	棒状品	棒状品	
75	7075	21	43	棒状品	棒状品	
76	7076	21	43	棒状品	棒状品	
77	7077	21	43	棒状品	棒状品	
78	7078	21	43	棒状品	棒状品	
79	7079	21	43	棒状品	棒状品	
80	7080	21	43	棒状品	棒状品	
81	7081	21	43	棒状品	棒状品	両端とも焦げている。
82	7082	21	43	棒状品	棒状品	
83	7083	22	44	棒状品	箸	
84	7084	22	44	棒状品	箸	
85	7085	22	44	棒状品	箸	
86	7086	22	44	棒状品	箸	
87	7087	22	44	部材	細部材	
88	7088	22	44	部材	細部材	一端が尖る。
89	7089	22	44	部材	細部材	両端が枘状となり、ここに小孔が付く。
90	7090	22	44	部材	細部材	
91	7091	22	44	部材	細部材	
92	7092	22	44	部材	細部材	
93	7093	22	44	部材	細部材	
94	7094	23	45	部材	部材	枘穴が付く。
95	7095	23	45	部材	部材	枘穴が付く。
96	7096	23	45	部材	部材	枘穴が付く。
97	7097	23	45	部材	部材	把手状のものが付く。
98	7098	23	45	部材	部材	円孔が穿たれている。
99	7099	23	45	部材	部材	枘状の突起と、ここに小孔が付く。

第３表　東木津遺跡堀井地区木製品一覧［３］

Ⅳ 結　　語

東木津遺跡は、従来、奈良・平安時代を中心とする遺跡として知られてきた。平成10年度の資材置場建設に伴う月安地区の試掘調査、主要地方道下伏間江福田線の建設に伴う都市計画道路地区の発掘調査により、古代を中心に周辺の様相が明らかにされつつある。

堀井地区の調査

今回の調査で５箇所の試掘坑を設定した結果、第３トレンチでは微高地から落ち込む凹地ＳＸ06の拡がりを確認した。また、溝２条を検出した。時期は出土遺物から奈良・平安時代のものと思われる。ＳＸ06からは奈良・平安時代の土器類、木製品が多量に出土している。木製品の中には木簡や人形、舟形、琴柱形、斎串等の祭祀具が見られる。昨年の調査地区でも多数出土し、今回の調査地区周辺でも見られることから、これらは祭祀に使用され広範囲に廃棄されたものと思われる。木簡については、２次的な加工がなされ再使用されたものが多いことから、文書を繰り返し使用する官衙的な性格が想定される。

このほか、古式土師器から古墳時代中期の土器も出土しており、この時期の遺物も遺跡周辺に広範囲に分布していると思われる。今回は試掘調査のため検出した範囲は限られているが、北東側における遺跡範囲は今回の調査地区周辺と思われる。

セーブオン地区の調査

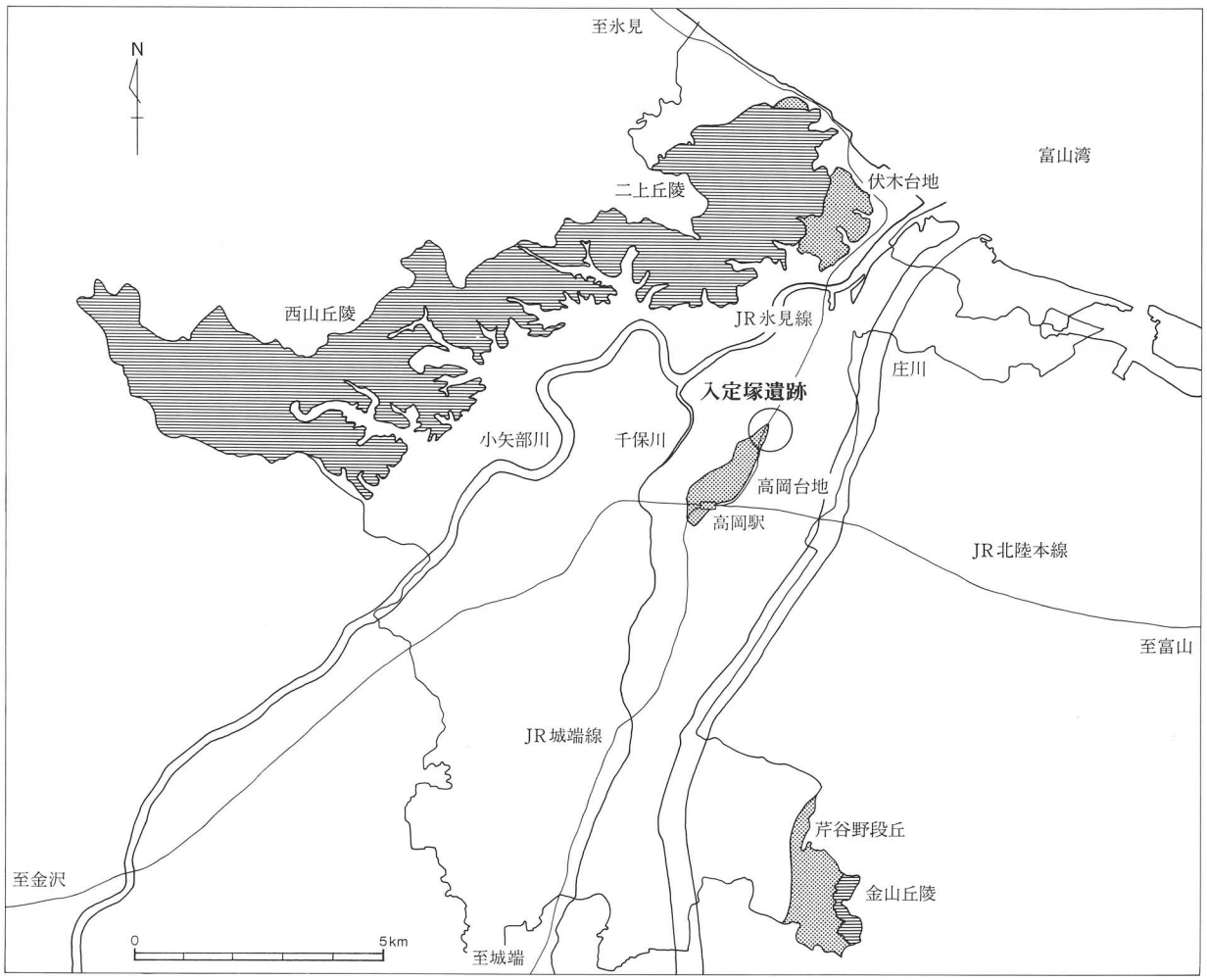
今回の調査では調査地区中央部に浅い落ち込みがあり、周辺に溝と畝状遺構を検出した。この落ち込みは南西側の丹羽地区（平成９年度調査）でも検出され、当調査地区から南西方向に向かって深くなっている。溝は落ち込みの上層のＳＤ10・52と、下層の落ち込みに沿うものと２種類ある。周囲の畝状遺構は下層の溝を切っていることから、上層の溝と時期的に近いと思われる。丹羽地区、チックタック地区では南北方向に走る小溝が検出されており、同様の性格を持つ遺構と考えられる。遺物は包含層と落ち込みから多数出土し、奈良・平安時代の土器類がほとんどを占める。中には「万呂」と人名の書かれた墨書土器が見られる。また、古墳時代のものと思われる管玉１点が出土した。丹羽地区でも古墳時代の倣製鏡が出土しており、周辺に古墳時代の遺構が存在していた可能性が考えられる。

チックタック地区の調査

調査地区は、昨年度の都市計画道路地区の南側に隣接している。都市計画道路地区では掘立柱建物址が多数検出され、関連する施設が存在することが予想された。今回、遺構は、掘立柱建物址５棟、柵址、多数の土坑、溝を検出した。掘立柱建物址、柵址は主に棟方向を北西～南東方向にとり、一定の規格性を持って建てられている。ＳＢ02・03では柱根、礎板が残る掘り方も見られ、比較的遺存状態は良好であった。泉ヶ丘団地寄りでも１棟検出され、南側にも集落が拡がる可能性が高まった。遺構の時期については、完掘していないが、奈良・平安時代に推定している。出土遺物は、西側のセーブオン地区より少ないが、奈良・平安時代のものが多い。特に、赤彩土師器が他の調査地区に比べてまとまって出土している。弥生～古墳時代、中世の遺物は見られなかった。

これらの調査結果により、奈良・平安時代を中心とする集落遺跡の規模が下伏間江福田線周辺より南北へさらに拡がる可能性が高まった。木簡や祭祀に伴う遺物も多く、集落遺跡として官衙的な性格を持つことと思われる。

4．入定塚遺跡



第23図　入定塚遺跡位置図［1］（1／15万）

入定塚遺跡、目次

Ⅰ　序　　説 …… 51

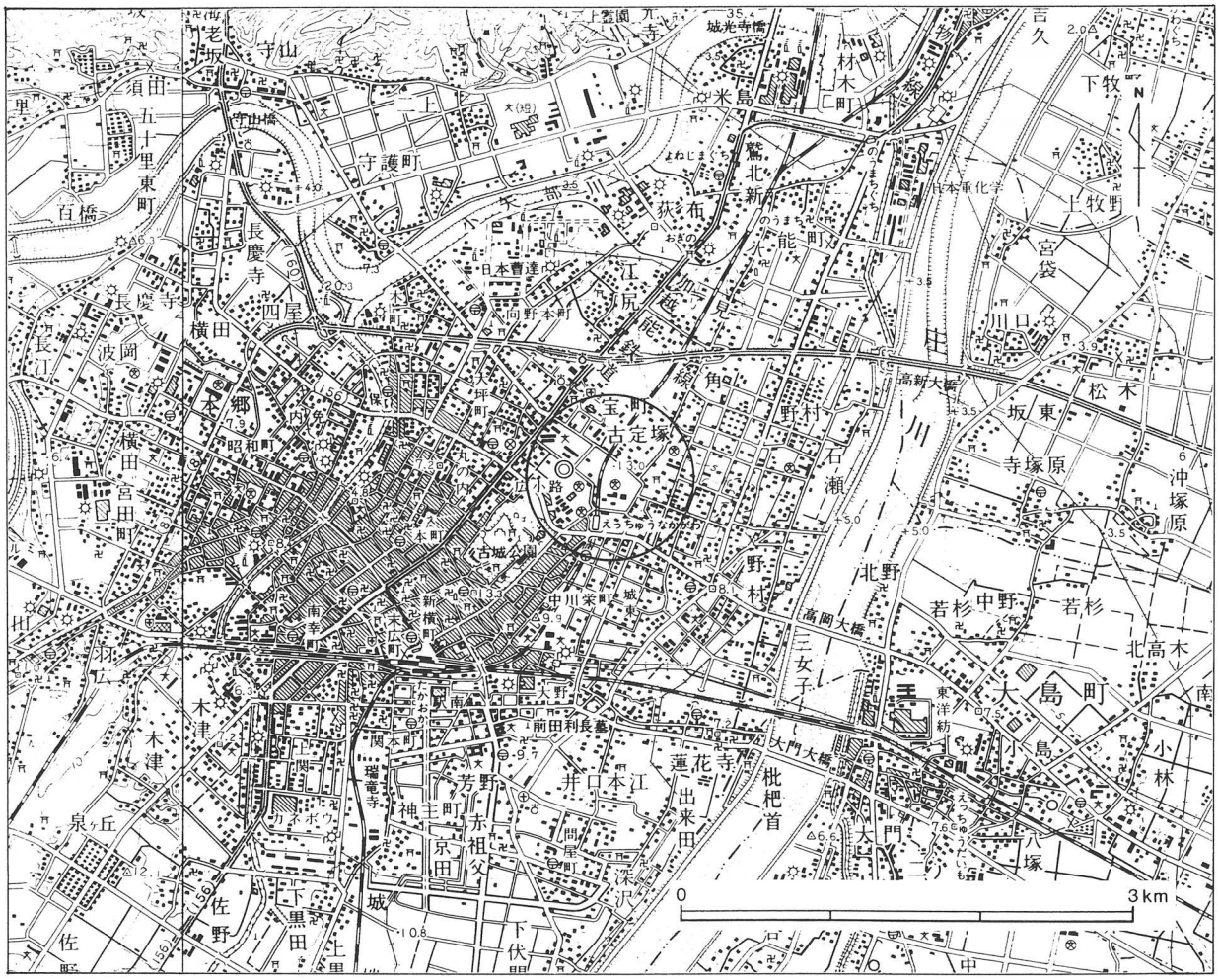
Ⅱ　遺　　構 …… 53

1．吉田地区 …… 53

2．参道地区 …… 53

Ⅲ　関連調査地区 …… 55

Ⅳ　結　　語 …… 56



第24図　入定塚遺跡位置図［2］（1／5万）

Ⅰ 序　説

遺跡概観

当「入定塚遺跡」は、高岡市街地の東側、ＪＲ高岡駅の北東約1.8kmに位置する。古城公園（高岡城跡）の北東側に位置する。遺跡の北西側をＪＲ氷見線が走る。遺跡範囲は県立高岡高校グラウンドの一部も含まれている。このグラウンドの北西隅の一角は、古くから塚状の高まりがあり、この周辺を地元では昔から「ポンポン山」と称してきた。この塚については様々な伝承が知られる。現在は宅地化が進み、富山県高岡文化ホールや高岡市民病院に囲まれる住宅地となっている。標高９～10mを計る高岡台地の北東側縁辺部にあたる。遺跡の位置する古定塚町の地名はこの入定塚に由来するものである。

周辺にはこの遺跡と重複する古定塚遺跡があり、旧石器が採集されている。南西側の高岡台地上には中川遺跡、小竹藪遺跡があり、古くから縄文時代の遺跡として周知されている。平成７年度には大手口遺跡が確認され、縄文土器が採集されている。また、近世に入り、慶長14（1609）年には前田利長により高岡城が築城された。明治時代以降公園化され、古城公園として整備されている。高岡城跡である。

第25図　入定塚遺跡調査地区位置図（１／5,000）

調査に至る経緯

平成10年度夏頃に、地主の吉田氏より問い合わせがあり、当該地の住宅建設計画を知った。またこれとは別に、入定塚の北側にある墓地へ至る参道を整備することが地元自治会で計画されていた。調査地区周辺では、平成６年度に隣接地で行った試掘調査で中・近世の遺構、遺物が確認されている。両地区とも遺跡範囲内にあることが確実であることから、施主の吉田静示氏、並びに地元自治会と協議し、調査を実施することとなった。住宅建設予定地を吉田地区とし、参道建設予定地を参道地区とした。調査地区は、県立高岡高校の北側、ＪＲ氷見線古定塚踏切の南東側に位置する。

今回の調査報告に関連して、平成６年度に実施した佐藤地区の調査概要について記載した。当該地における店舗付き住宅建設に伴い、施主の佐藤賢了氏と協議、承諾を得て平成６年11月に試掘調査を実施した。調査地区は吉田地区の南東側に隣接する所である。なお、建設工事にあたっては、遺構部分にかからないように配慮していただいた。また、公共座標は設定せず、任意の測量である。

調査経過

発掘調査は、全体として平成11年７月21日から同年９月27日まで実施した。表土除去はバックフォーによって行い、調査地区内に積み上げた。その後、遺構の検出、記録の作成を順次行なった。全体の調査対象面積は993㎡で、発掘面積は79㎡である。

吉田地区；発掘調査は平成11年７月21日から同年９月27日まで実施した。掘削した土砂が多量で、排土地の場所確保のため調査地区は小規模なものとなった。調査中は湧き水が絶えず排水に手間取った。調査対象面積は943㎡で、発掘面積は60㎡である。

参道地区；発掘調査は平成11年８月２日から同年９月20日まで実施した。調査地区は北側部分を先に設定し、後に南側部分を拡張した。北側部分を北側調査地区とし、南側の拡張部分を南側調査地区とした。調査対象面積は50㎡で、発掘面積は19㎡である。

基本層序

調査地区内は樹木が植栽され、厚さ１ｍ前後の盛土が行われていた。その下層に塵芥を多く含む厚さ20～40㎝の暗灰色土と地山土との混土層が現れる。さらに厚さ約40㎝の黒褐色土からなる遺物包含層が堆積していた。地山土は黄褐色砂質土である。

検出遺構

各調査地区で検出した遺構は以下の通りである。

吉田地区：溝２条（ＳＤ02・03）

参道地区：土坑２基（ＳＫ03・04）、溝３条（ＳＤ04～06）

平成６年度に実施した調査（佐藤地区）で、土坑２基（ＳＫ01・02）と溝１条（ＳＤ01）を検出しており、その連番とした。

出土遺物

出土遺物は以下の通りである。遺物については、いずれも細片のため図示していない。

土器類：弥生土器、須恵器、肥前

グリッド

調査地区のグリッドは平面直角座標系の第７座標系（原点は北緯35°00′00″、東経137°10′00″）に合わせた。Ｘ＝１、Ｙ＝１の地点は、原点より西へ12.045㎞、北へ83.265㎞の位置である。遺構図のグリッドは５ｍ区画である。

Ⅱ 遺　構

1．吉田地区

溝ＳＤ02

調査地区の南西側で検出された。北西～南東方向に走る溝である。規模は長さ7.65m以上、幅1.1～1.3m、深さ89cmを計る。土層断面は逆台形を呈する。断面を観察すると２回に渡り掘られており、Ｖ字形に掘られた後一旦埋まり、Ｕ字形に掘り直されている。北西側、南東側は調査地区外へ延びる。北西側の参道地区では、調査地区を拡張したところ、同じ規模の溝は検出できなかった。遺構覆土から時期を中・近世と想定した。出土遺物は弥生土器である。

溝ＳＤ03

調査地区の西側隅部で検出された。北北東～南南西に走る溝である。規模は長さ1.4m以上、幅0.4m、深さ21cmを計る。北側でＳＤ02に切られている。南側は調査地区外へ延びる。遺構覆土はＳＤ02下層土と同じくするため、ほぼ同時期に存在した遺構と推定する。

2．参道地区

土坑ＳＫ03

北側調査区の北側（２，８）区で検出された。平面形は方形である。規模は長軸1.1m、短軸0.8m、深さ22cmを計る。ＳＤ04の上層を切っている。

土坑ＳＫ04

南側調査区の南側（１，５）区で検出された。平面形は楕円形である。規模は長軸0.52m、短軸0.3m、深さ4.8cmを計る。遺構覆土中に礫が集中して検出されている。

溝ＳＤ04

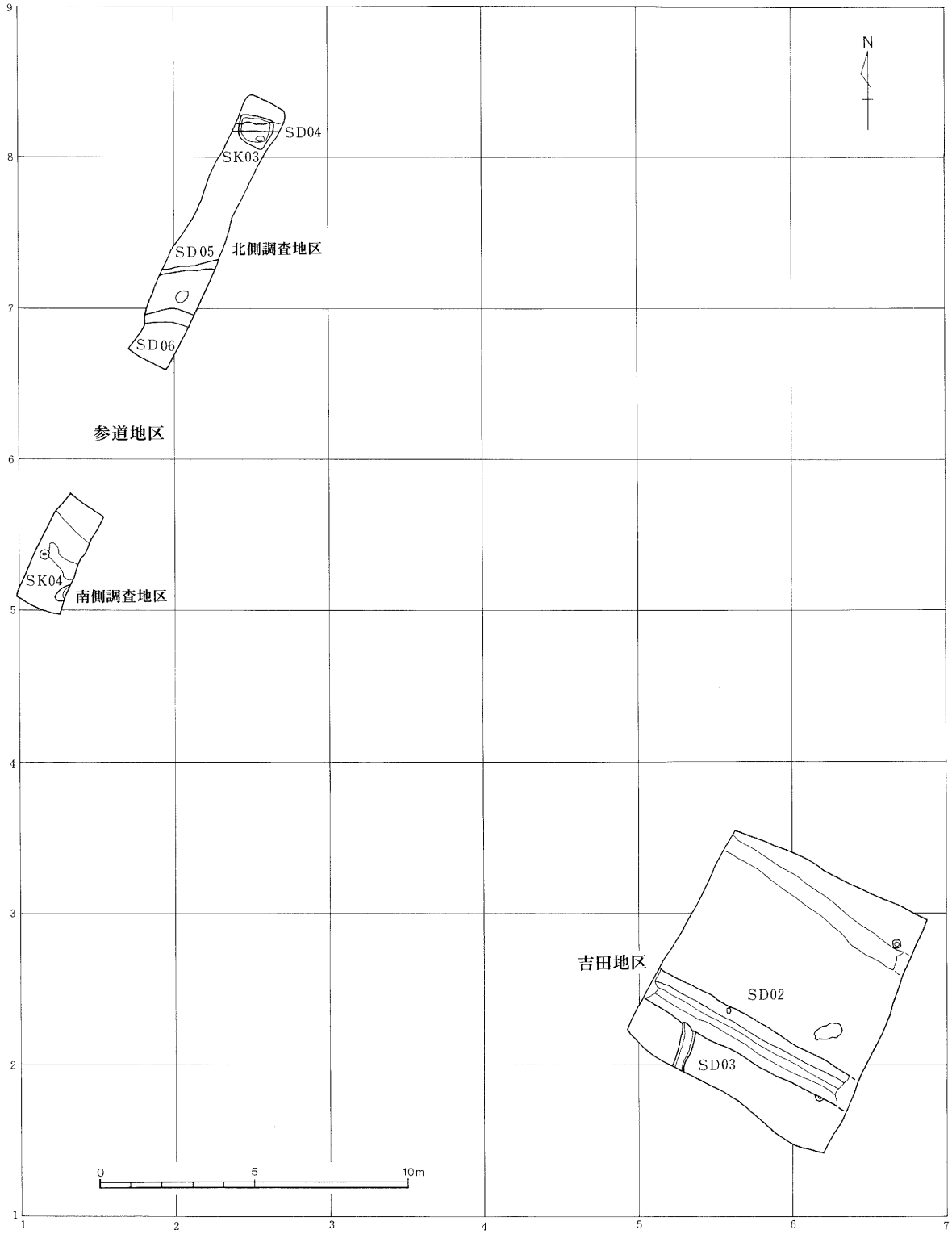
北側調査区の北側で検出された。ほぼ東西方向に走る溝と思われる。規模は長さ1.6m以上、幅0.2～0.3m、深さ25.5cmを計る。東側、西側は調査地区外へ延びる。中央部上層をＳＫ03に切られている。

溝ＳＤ05

北側調査区の中央南側で検出された。ほぼ東西方向に走る溝と思われる。規模は長さ1.9m以上、幅0.15～0.3m、深さ18cmを計る。東側、西側は調査地区外へ延びる。

溝ＳＤ06

北側調査区の南側で検出された。ほぼ東西方向に走る溝と思われる。規模は長さ1.5m以上、幅0.3～0.5m、深さ28cmを計る。東側、西側は調査地区外へ延びる。



第26図　入定塚遺跡吉田・参道地区遺構図（1／200）

Ⅲ　関連調査地区

はじめに

平成６年度に入定塚遺跡の「佐藤地区」の試掘調査を実施した。これは個人の店舗付住宅の建設に伴うものである。今回報告の「吉田地区」の南東側に隣接する敷地である。関連する地区であるが今まで未報告であったので、ここで報告する。

調査地区の概要

所在地：高岡市古定塚86－3、　対象面積：456㎡

調査期間：平成６年11月７日～同年11月９日、　調査原因：店舗付き住宅建設

調査概要

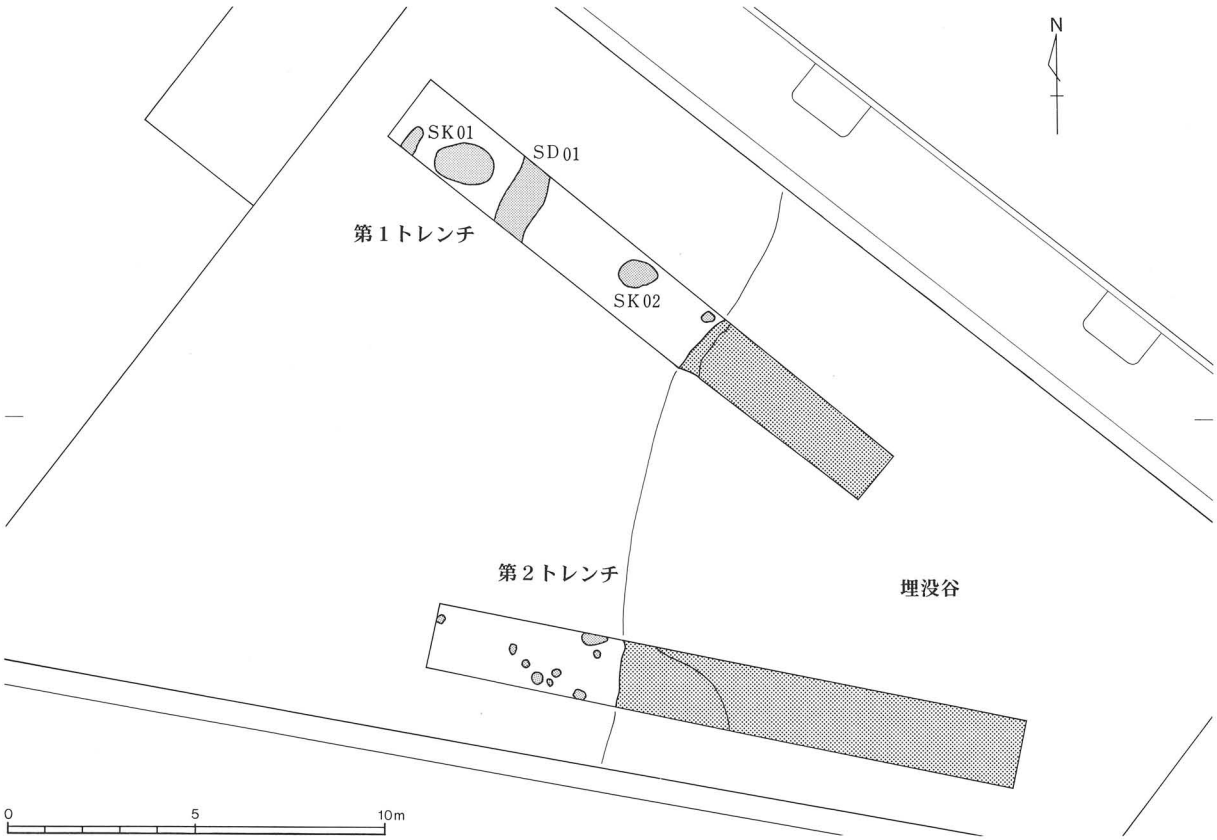
調査面積：58㎡

検出遺構：土坑２基（ＳＫ01・02）、溝１条（ＳＤ01）、ピット多数、埋没谷

出土遺物：土師器、瀬戸美濃

調査結果

調査地区のほぼ中央を境にして、西側が台地の方へ向かい高くなり、東側は低地部分となっている。遺構は西側で確認された。出土遺物は中世末～近世頃であり、近世の塚とされる「入定塚」との関連が想定される。



第27図　入定塚遺跡佐藤地区遺構図（１／200）

Ⅳ 結　　語

当「入定塚遺跡」は、中・近世の塚を中心とする遺跡である。高岡台地の北東部の台地縁辺部上にあたる。この台地の下はかつて低湿地が拡がっており、今回の調査地区は低湿地へ落ち込む台地縁辺部にあたる。

この塚には、様々な説が伝わっており、地元では古い伝承のある場所として知られている。『越の下草』『加能越三州地理志稿』『越中志徴』『北陸人類学會志』には、塚に関連する記事が見られる。

1．『加能越三州地理志稿』

富田景周（1745～1828）著、津田鳳卿（1778～1847）補、天保元年(1830)成立

「入定塚　在中川村領。墳圍三十間計。相傳。昔時行者入定之地。」

2．『越の下草』

宮永正運（1774～1781）著、天明６年（1876）成立

「一　越中射水郡高岡ノ西北に定塚村といふ所有。中川村ノ隣村ノよし。此所に明應の頃、華雲寺といふ日蓮寺あり。此寺の住僧利長法師、行法厳重にして、生きながら入定しける。其跡一本松と号して今に残れるよし。」

3．『越中志徴』

森田柿園（1886～1909）編、明治18～30年頃成立、昭和26年（1951）刊行

「或云、いにしへ此地邊に利長坊といへる行者ありて、常に善事をなし、此世に再生せば領主と成て、思ふままに善事をすべしと遺言して没せり。定塚は則利長坊の古墳なりと。」

「寶永誌に、中川村領内入定塚と申塚有之候。塚の廻り三拾間計、高さ壹間計の塚にて御座候。昔行人被致入定候由申傳候。按ずるに、いにしへ僧侶或は行者の生ながら土中に入て自滅せし塚とて、入定塚と稱するもの加越能に多し。」

4．『北陸人類学會志　第１編』

田中正太郎著「同郡定塚（ヂャウヅカ）村の古墳」（1896）

「高岡市公園は城址なり、其北麓を定塚村といふ、茲に一個の小高き處あり、頂上側面等に狐狸の出入せしと思ほしき小孔數ヶ所あり、是内部の空虚を示すものにして疑もなく古墳なりとす、土人ハリチヨウ塚といふ、」

これらの史料を見ると、少なくとも近世後半にはこの塚の存在や入定塚に関連する伝承が広く知られていたと思われる。また、明治期には塚の一部が開口していた様子が伺われる。

平成６年度には、今回の調査地区の南西側で試掘調査を実施し、中・近世の遺構、遺物を検出した。南東側は落ち込みとなっており低湿地であった旧地形の一端を確認した。塚以外に遺構、遺物が検出されたことで、遺跡の内容、範囲が再認識された。

平成７年度には当市教育委員会により遺跡分布調査が実施され、遺跡範囲、内容の確認と総括がなされた。

今回の調査では、台地に沿った形で掘られた溝ＳＤ02が検出された。確認した範囲では全体の規模は不明である。その他の小規模な遺構を含めて出土遺物等からおおむね中世から近世にかかる遺構と思われる。

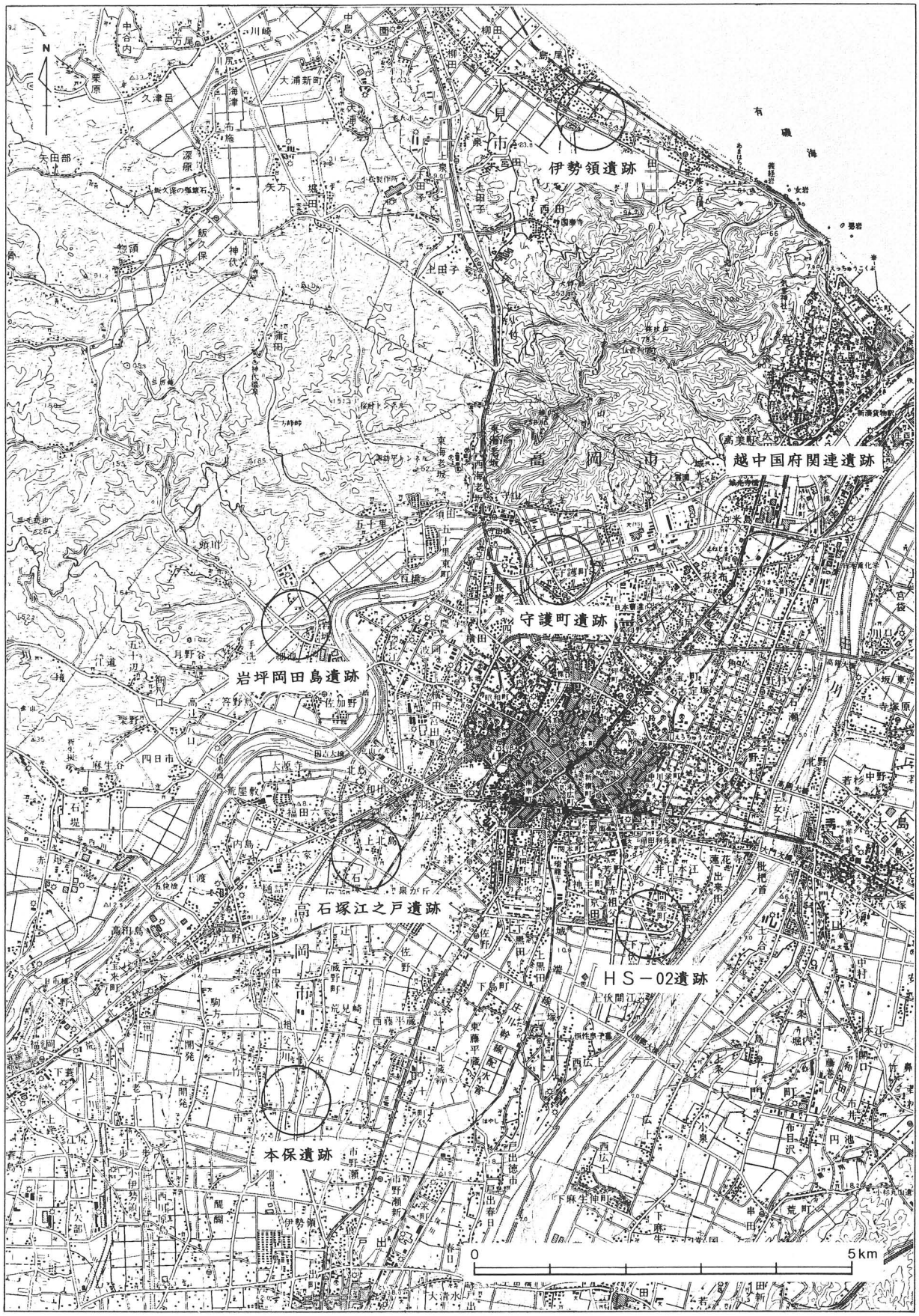
遺物は、中世末から近世初頭の遺物がみられる。また、中には弥生土器と思われるものがあり、周辺にこの時期の遺構、遺物が存在する可能性がある。

今回の調査でも、台地縁辺部において中・近世の遺構、遺物を検出し、塚との関連が想定される。

5．試掘調査地区

試掘調査地区、目次

Ⅰ．伊勢領遺跡山田地区 …… 59
Ⅱ．守護町遺跡大角地区 …… 60
Ⅲ．ＨＳ－02遺跡小沢１・２地区 …… 61
Ⅳ．岩坪岡田島遺跡林地区 …… 62
Ⅴ．越中国府関連遺跡日本重化学地区 …… 63
Ⅵ．本保遺跡中島地区 …… 64
Ⅶ．石塚江之戸遺跡リーフィー地区 …… 65



第28図　試掘調査地区関連遺跡位置図（１／７万５千）

Ⅰ　伊勢領遺跡山田地区

遺跡概観

当「伊勢領遺跡」は、高岡市街地の北8.5km、ＪＲ高岡駅の北側約9.1kmに位置する。

基本層序

厚さ20cmの表土（耕作土）の下に、厚さ10cmの褐色砂層があり、その下層に黄褐色砂層が現れ、一部、小礫が含まれる。地山は褐色砂、青灰色砂で、硬くしまっている。

調査概要

所在地：高岡市太田中村420、　対象面積：137㎡、　発掘面積：４㎡

調査期間：平成11年４月21日、　調査原因：住宅建設

調査結果

遺構は検出されなかった。遺物は土師器が出土している。

第29図　伊勢領遺跡山田地区位置図（１／5,000）

Ⅱ　守護町遺跡大角地区

遺跡概観

当「守護町遺跡」は、高岡市街地の北郊、ＪＲ高岡駅の北約３㎞に位置する。遺跡の南側を小矢部川が蛇行しながら北東方向へ流れ、北側一帯には西山丘陵が拡がる。この小矢部川と千保川との交流点に位置する。

基本層序

厚さ約50㎝の盛土（耕作土）の下層に、厚さ約10㎝の暗灰土粘質土の層がある。その下層が基盤層となる。

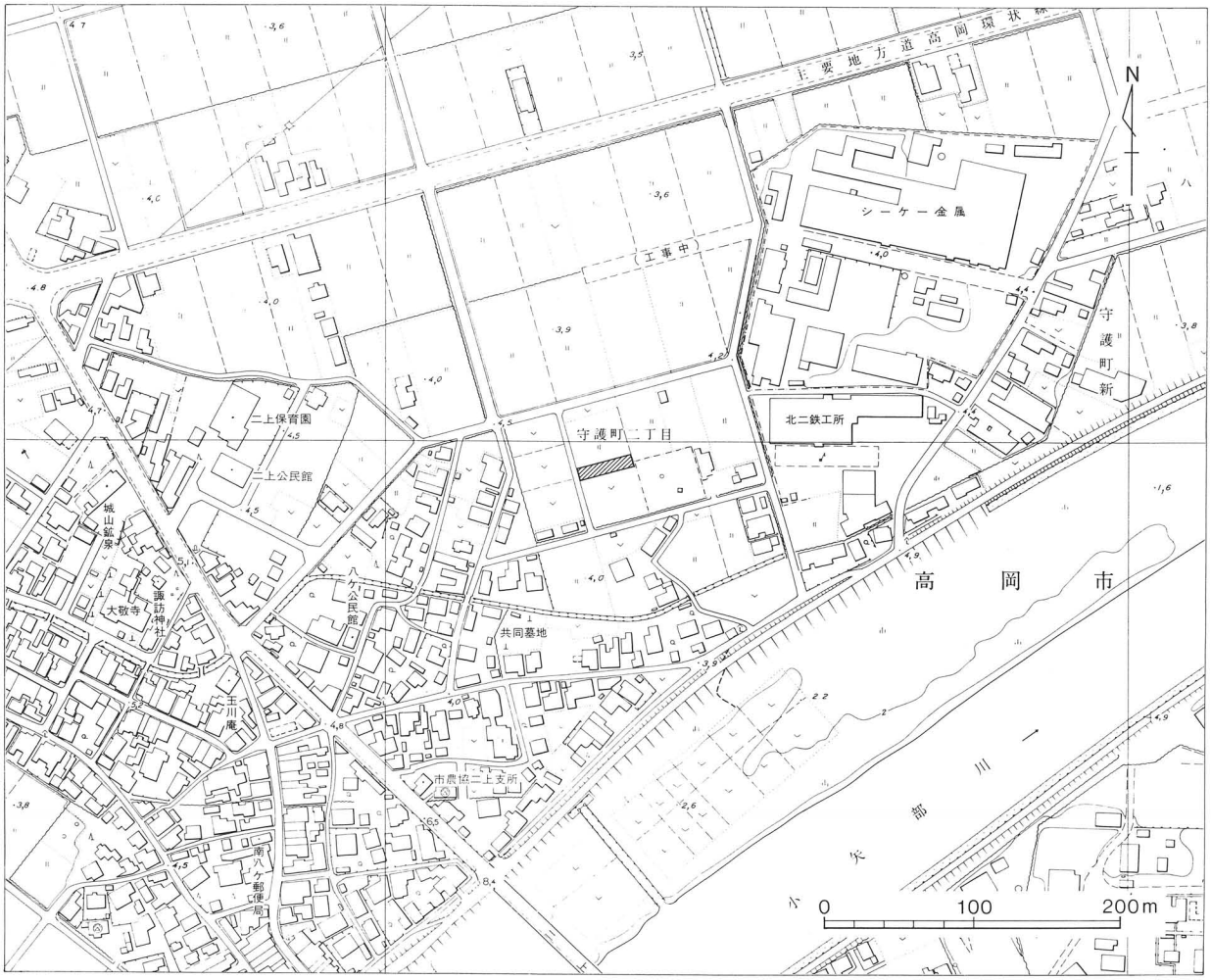
調査概要

所在地：高岡市守護町２丁目252、　対象面積：281㎡、　発掘面積：10㎡

調査期間：平成11年５月17日、　調査原因：個人住宅の建設

調査結果

遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。



第30図　守護町遺跡大角地区位置図（１／5,000）

Ⅲ　ＨＳ－02遺跡小沢１・２地区

遺跡概観

当「ＨＳ－02遺跡」は、高岡市街地の南側、ＪＲ高岡駅の南約1.5㎞に位置する。

基本層序

厚さ20㎝前後の表土下に、厚さ20㎝の明褐色砂質土と、厚さ20㎝の黒褐色腐植土層を経て、基盤層に至る。

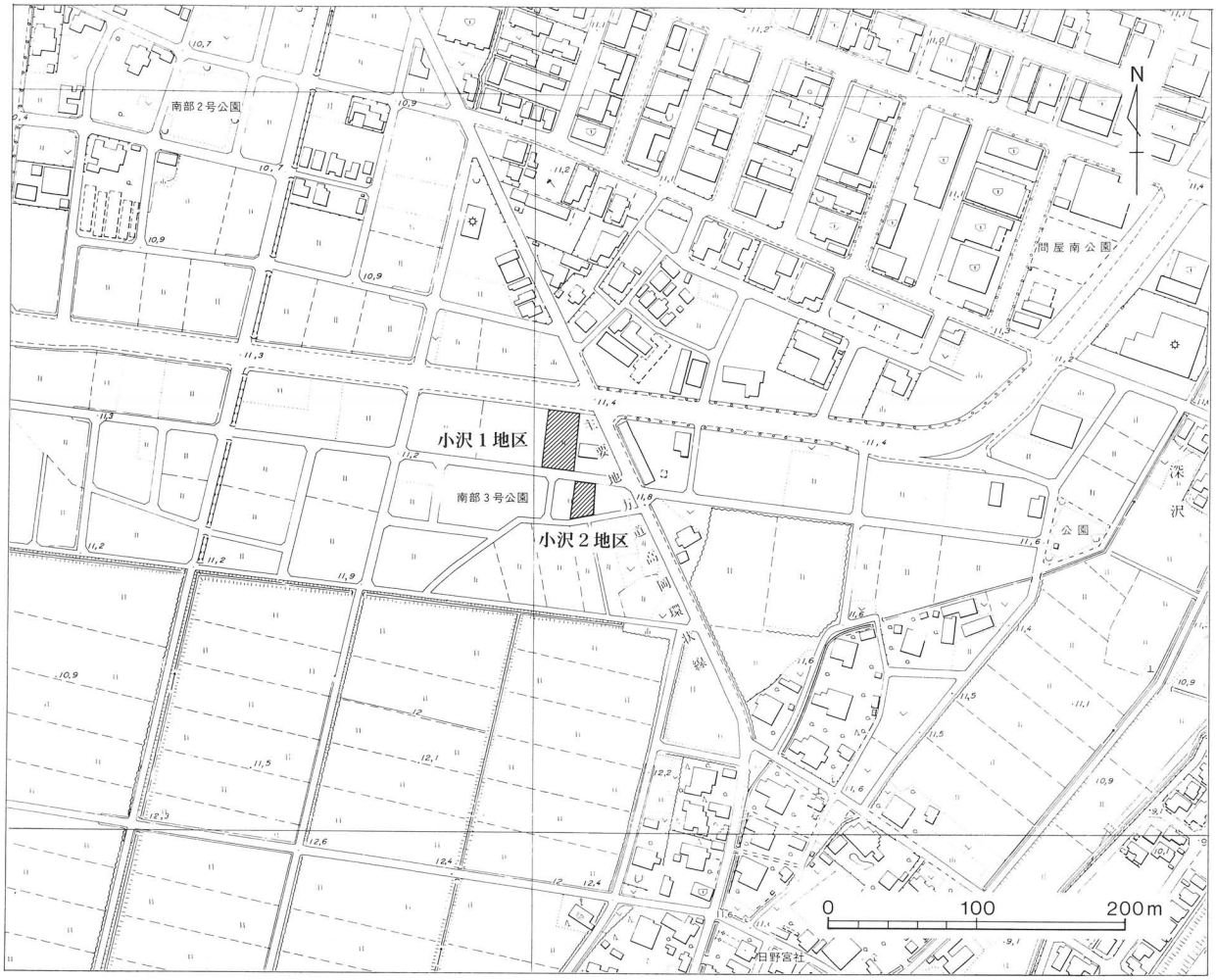
調査概要

１．小沢１地区　所在地：高岡市下伏間江576、　対象面積：871㎡、　発掘面積：18㎡
　　調査期間：平成11年６月28日、　調査原因：店舗建設

２．小沢２地区　所在地：高岡市下伏間江580、　対象面積：400㎡、　発掘面積：９㎡
　　調査期間：平成11年６月28日、　調査原因：駐車場建設

調査結果

遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。



第31図　ＨＳ－02遺跡小沢１・２地区位置図（１／5,000）

Ⅳ　岩坪岡田島遺跡林地区

遺跡概観

当「岩坪岡田島遺跡」は、高岡市街地の北西郊、ＪＲ高岡駅の北西約4.6kmに位置する。遺跡の西側を小矢部川が蛇行しながら北流し、北側から西側一帯には西山丘陵が拡がる。遺跡周辺は古代の東大寺領荘園「須加荘」の１つに比定されている。

基本層序

厚さ約50cmの盛土（耕作土）の下層に、厚さ約１ｍの暗灰色粘質土の層がある。その下層が基盤層となる。

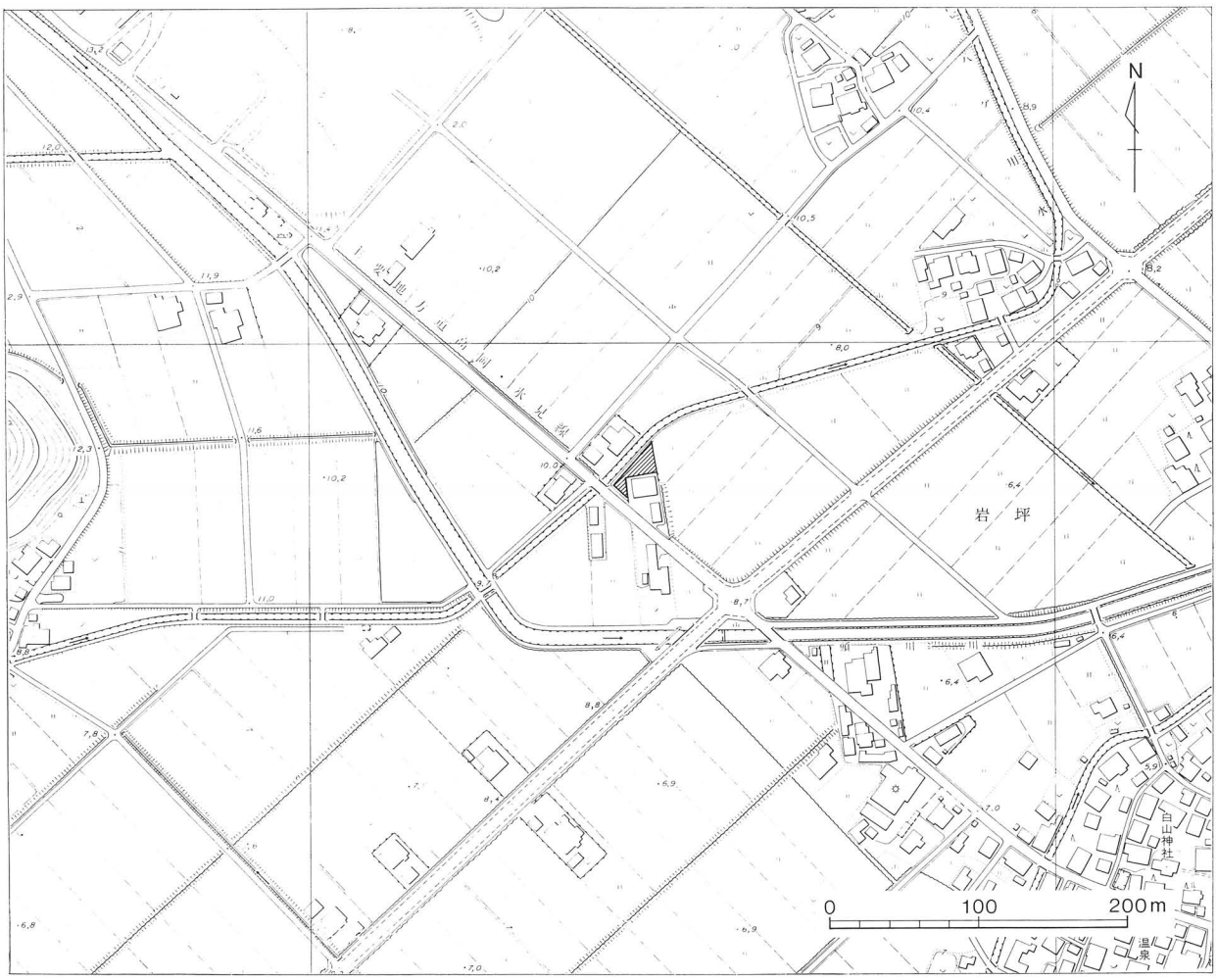
調査概要

所在地：高岡市国吉1335、　対象面積：880m²、　発掘面積：10m²

調査期間：平成11年７月６日、　調査原因：個人住宅の建設

調査結果

遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。



第32図　岩坪岡田島遺跡林地区位置図（１／5,000）

V　越中国府関連遺跡日本重化学地区

遺跡概観

当「越中国府関連遺跡」は、高岡市街地の北東側、伏木台地一帯に位置する。調査地区内では昭和6年の道路工事の際、経筒、遺物が出土し、経塚（白山経塚）が確認されている。出土品は、昭和36年に市指定考古資料となっている。

基本層序

旧社宅地内は赤褐色粘質土の基盤層が露出し、周辺では厚さ10～20cmの表土が乗る。

調査概要

所在地：高岡市伏木古府元町476、　対象面積：6,954㎡、　発掘面積：294㎡

調査期間：平成11年9月13日～16日、　調査原因：住宅団地建設

調査結果

遺構は検出されなかった。遺物は須恵器が出土している。

第33図　越中国府関連遺跡日本重化学地区位置図（1／5,000）

Ⅵ　本保遺跡中島地区

遺跡概観

当「本保遺跡」は、高岡市街地南西郊の5.9km、ＪＲ高岡駅の南西約６kmに位置する。

基本層序

厚さ20cmの表土（耕作土）の下に、厚さ20～40cmの地山土と黒褐色土との混土層があり、区画整理の整地層と思われる。その下層に黄褐色砂質土の基盤層が現れる。一部、旧河道と思われる砂礫層を検出している。

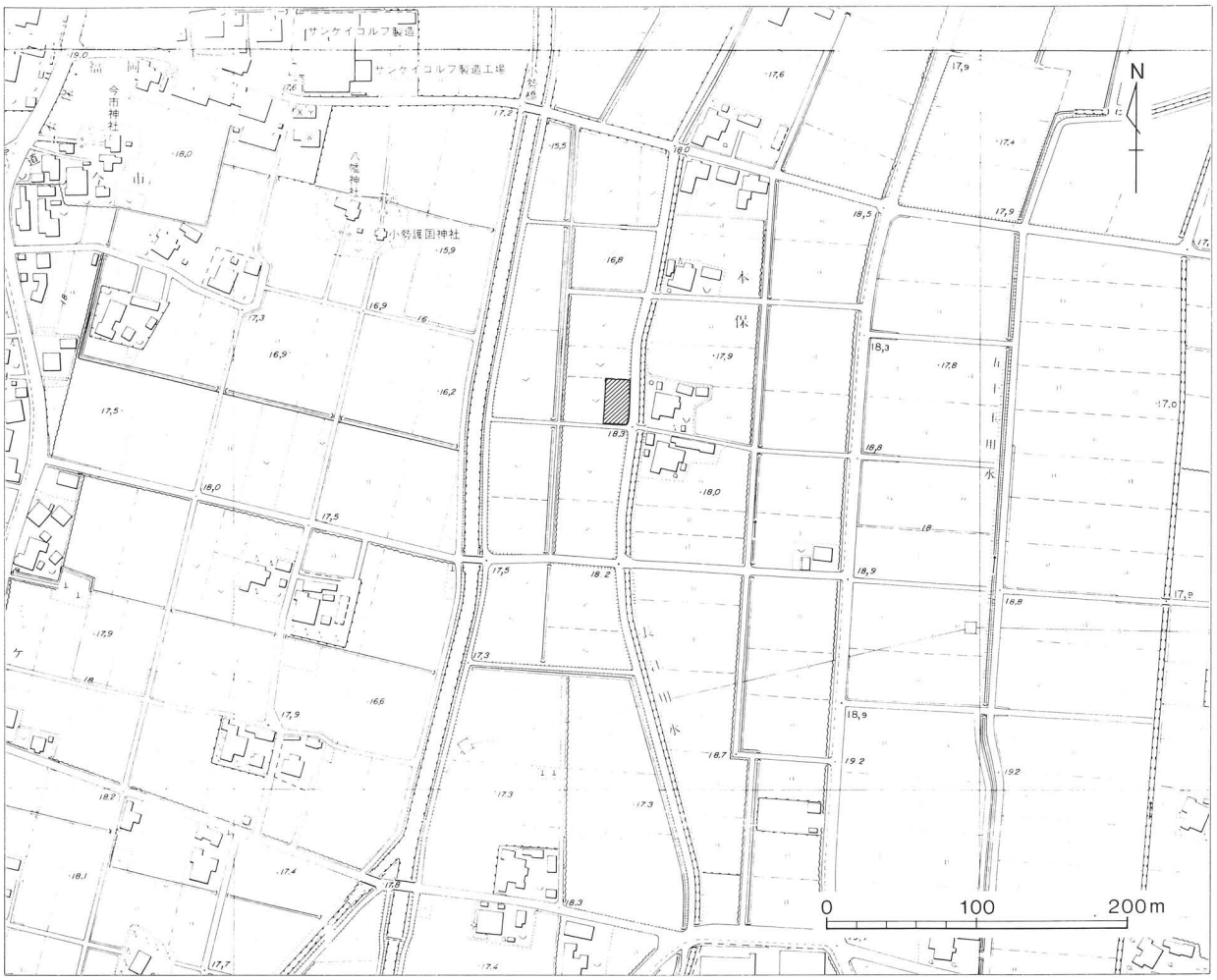
調査概要

所在地：高岡市本保467－2、　対象面積：499m²、　発掘面積：60m²

調査期間：平成11年11月５日、　調査原因：住宅建設

調査結果

遺構は検出されなかった。遺物は弥生土器、土師器、須恵器、青磁が出土している。



第34図　本保遺跡中島地区位置図（１／5,000）

Ⅶ　石塚江之戸遺跡リーフィー地区

遺跡概観

当「石塚江之戸遺跡」は、高岡市街地の南西郊、ＪＲ高岡駅の西南西約3.4kmに位置する。遺跡の西側を祖父川が蛇行しながら北流し、国道８号線が北東～南西方向に走る。遺跡北側を都市計画道路下伏間江福田線が走る。遺跡範囲は、南北150m×東西125mを計る。

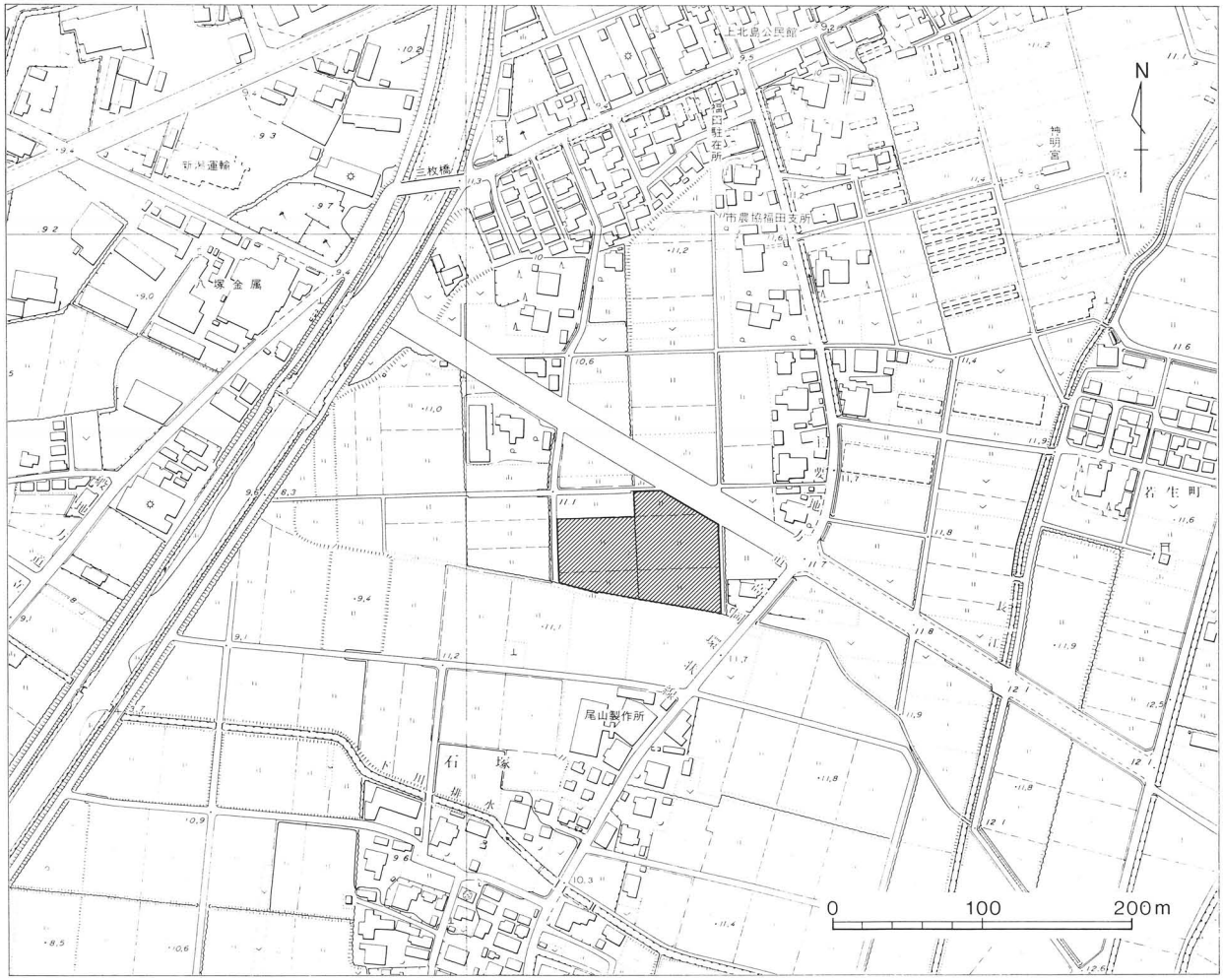
基本層序

厚さ約20cmの表土の下に、厚さ10～30cmの黒褐色粘質土層がある。その下に黄褐色粘質土、青灰色砂質土の地山土がある。谷部は黒褐色土の下層に、赤褐色土乃至暗灰色土が堆積している。全体的に暗灰色土層からは中世の遺物が出土している。調査地区の東側は表土の下に地山層が現れる。

調査概要

所在地：高岡市上北島205他、　対象面積：6,273㎡、　発掘面積：684㎡

調査期間：平成11年11月10日～同年12月９日、　調査原因：店舗建設



第35図　石塚江之戸遺跡リーフィー地区位置図（１／5,000）

検出遺構

土坑、溝、埋没谷（中世）が検出された。

出土遺物

土師器、珠洲、八尾、瀬戸、越中瀬戸、肥前が出土している。今回は遺物が多数出土したため、図面１－6001～6008に図示した。

土師器

皿　図面１－6001・6002。非ロクロ調整の小皿である。

珠洲

鉢　図面１－6003～6005。6003は口縁部、6004は体部、6005は底部である。6004・6005はオロシ目が付く。

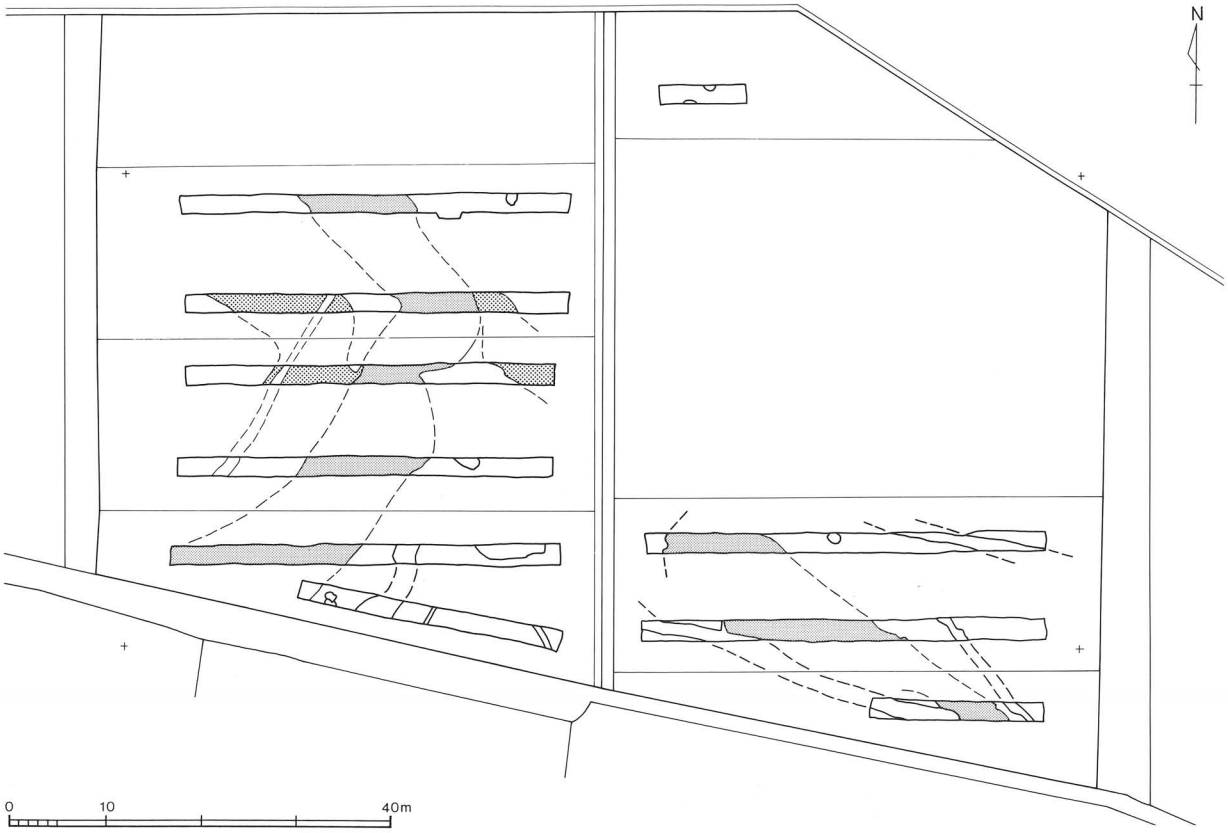
甕　図面１－6006・6007。甕の口縁部である。

瀬戸美濃

皿　図面１－6008。オロシ皿の底部である。

調査結果

調査地区東側では地山層が少し高くなっており、西側では南北に伸びる谷地形へ緩やかに落ち込む地形となっている。遺構は調査地区全域で検出された。遺物は珠洲等の中世の遺物が多く出土している。



第36図　石塚江之戸遺跡リーフィー地区遺構図（１／800）

No.	遺跡名	調査地区名	地番・住所	対象面積	発掘面積	調査期間
1	出来田南遺跡	大和ハウス地区	高岡市出来田135	1,166㎡	270㎡	990421～990423
2	伊勢領遺跡	山田地区	高岡市太田中村420	137㎡	4㎡	990421～990421
3	岩坪岡田島遺跡	釜土地区	高岡市国吉2002他	1,037㎡	330㎡	990510～990714
4	岩坪岡田島遺跡	山口地区	高岡市国吉2005他	917㎡	310㎡	990511～990709
5	岩坪岡田島遺跡	岡崎１地区	高岡市国吉1887他	736㎡	400㎡	990513～990716
6	守護町遺跡	大角地区	高岡市守護町2－252	281㎡	10㎡	990517～990517
7	岩坪岡田島遺跡	岡元地区	高岡市国吉1880－2	1,002㎡	380㎡	990518～990719
8	岩坪岡田島遺跡	岡崎２地区	高岡市国吉1879－2	394㎡	200㎡	990518～990719
9	東木津遺跡	堀井地区	高岡市木津1084	2,036㎡	270㎡	990625～990820
10	ＨＳ－０２遺跡	小沢１地区	高岡市下伏間江576	871㎡	18㎡	990628～990628
11	ＨＳ－０２遺跡	小沢２地区	高岡市下伏間江580	400㎡	9㎡	990628～990628
12	岩坪岡田島遺跡	林地区	高岡市国吉1335	880㎡	10㎡	990706～990706
13	入定塚遺跡	吉田地区	高岡市中川園町88－1	943㎡	60㎡	990721～990927
14	入定塚遺跡	参道地区	高岡市中川園町92－2	50㎡	19㎡	990802～990920
15	越中国府関連遺跡	日本重化学地区	高岡市伏木古府元町476	6,954㎡	294㎡	990913～990916
16	東木津遺跡	セーブオン地区	高岡市佐野871－1	496.4㎡	410㎡	991025～991228
17	東木津遺跡	チックタック地区	高岡市佐野885－4	1,322㎡	676㎡	991026～991228
18	本保遺跡	中島地区	高岡市本保467－2	499㎡	60㎡	991105～991105
19	石塚江之戸遺跡	リーフィー地区	高岡市上北島205他	6,273㎡	684㎡	991110～991209

第４表　調査地区一覧表

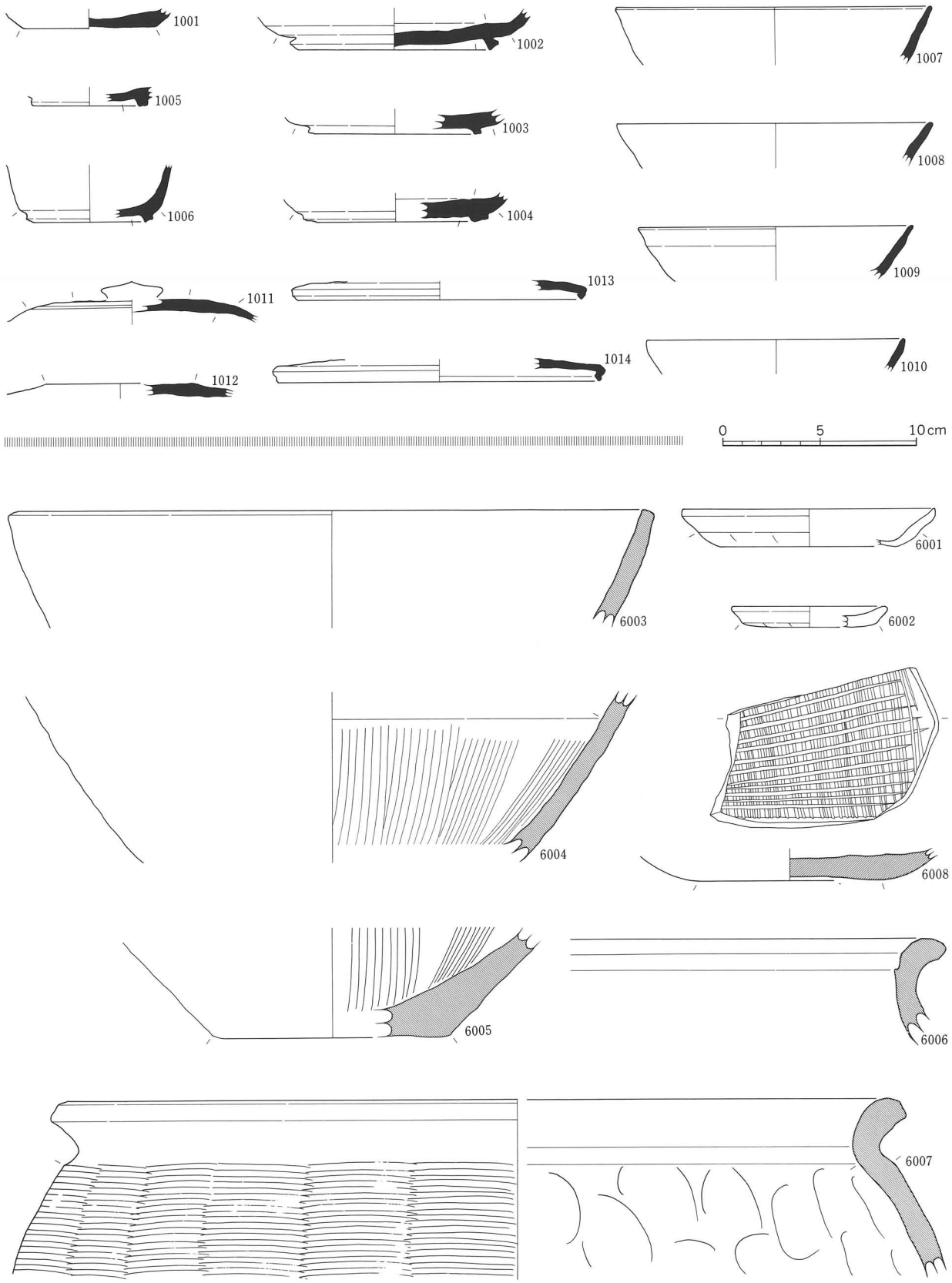
報告書抄録

ふりがな	しないいせきちょうさがいほうじゅう
書名	市内遺跡調査概報X
副書名	平成11年度、出来田南遺跡の調査他
巻次	
シリーズ名	高岡市埋蔵文化財調査概報
シリーズ番号	第45冊
編著者名	荒井隆
編集機関	高岡市教育委員会
所在地	〒933－0057　富山県高岡市広小路7番50号
発行年月日	西暦2000年3月31日

ふりがな 所収遺跡	所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
できでんみなみ 出来田南 だいわはうすちく 大和ハウス地区	とやまけんたかおかし 富山県高岡市 できでん 出来田	016202	202139	36° 43′ 34″	137° 02′ 00″	1999.04.21 ～ 1999.04.23	270m²	住宅建設
いわつぼおかだじまいせき 岩坪岡田島遺跡 かくちょうさちく 各調査地区	とやまけんたかおかし 富山県高岡市 いわつぼ 岩坪	016202	202233	36° 45′ 32″	136° 58′ 42″	1999.05.10 ～ 1999.07.19	1,620m²	住宅建設
ひがしきづいせき 東木津遺跡 かくちょうさちく 各調査地区	とやまけんたかおかし 富山県高岡市 きづ 木津	016202	202150	36° 43′ 36″	136° 59′ 42″	1999.06.25 ～ 1999.12.28	1,356m²	資材置場 店舗建設
いりじょうづかいせき 入定塚遺跡 よしだ・さんどうちく 吉田・参道地区	とやまけんたかおかし 富山県高岡市 なかがわそのまち 中川園町	016202	202133	36° 45′ 02″	137° 01′ 56″	1999.07.21 ～ 1999.09.27	79m²	住宅建設 道路建設
その他の地区	とやまけんたかおかしない 富山県高岡市内	016202				1999.04.21 ～ 1999.12.09	1,089m²	住宅建設他

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
出来田遺跡 大和ハウス地区	集落跡	奈良・平安	掘立柱建物址1棟 溝7条	土師器、須恵器	掘立柱建物址の検出
岩坪岡田島遺跡 各調査地区	集落跡	中世	井戸址2基 溝14条、土坑16基	土師器、珠洲	
東木津遺跡 各調査地区	集落跡	古墳・奈良 平安	掘立柱建物址5棟 柵址2条 土坑58基、溝16条 畝状遺構4基	土師器、須恵器 木簡、人形等の 木製品	掘立柱建物址群の検出
入定塚遺跡 吉田・参道地区	塚	中世・近世	溝5条、土坑2基	肥前	
その他の遺跡					※試掘調査地区

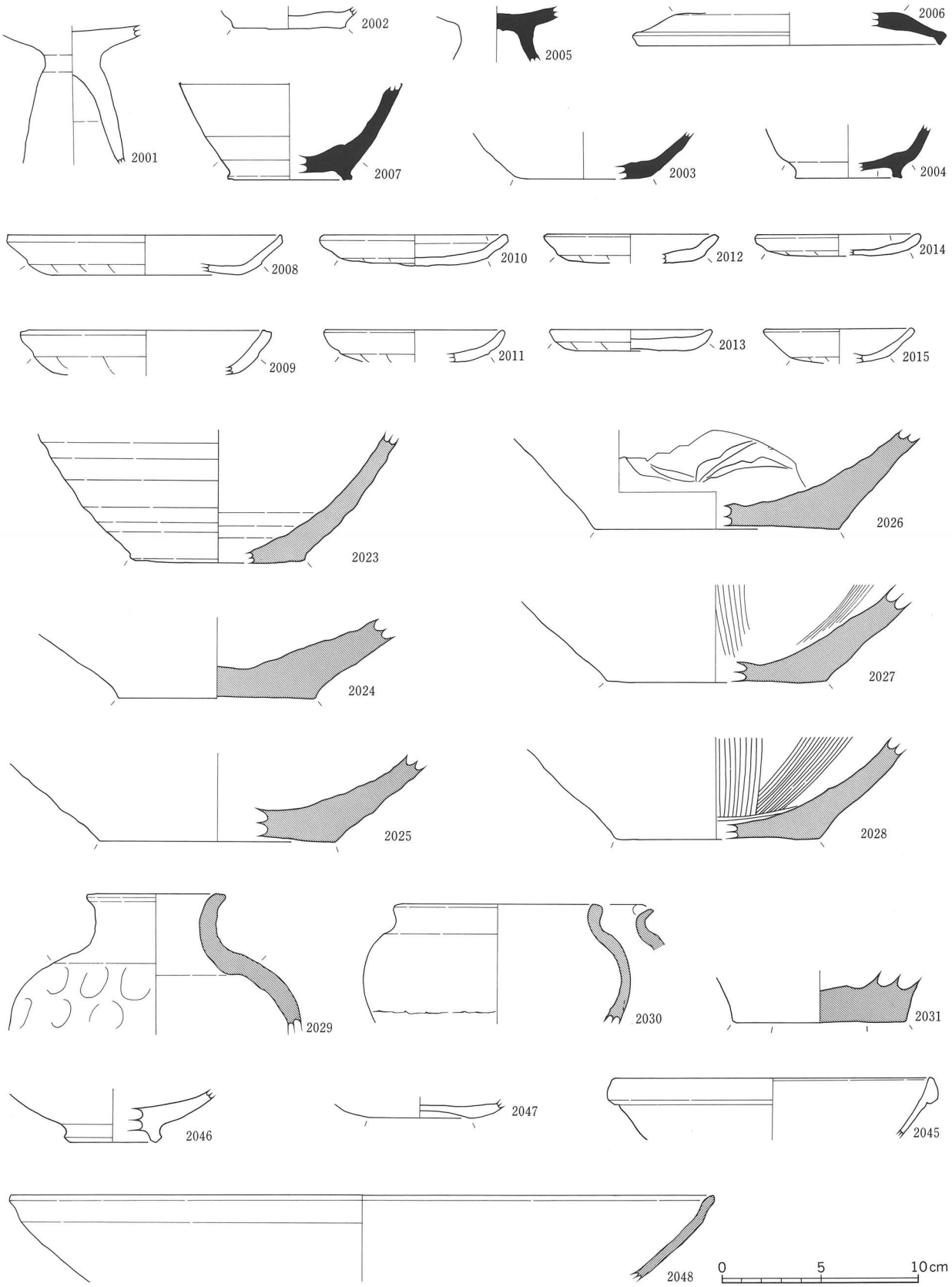
図　　面



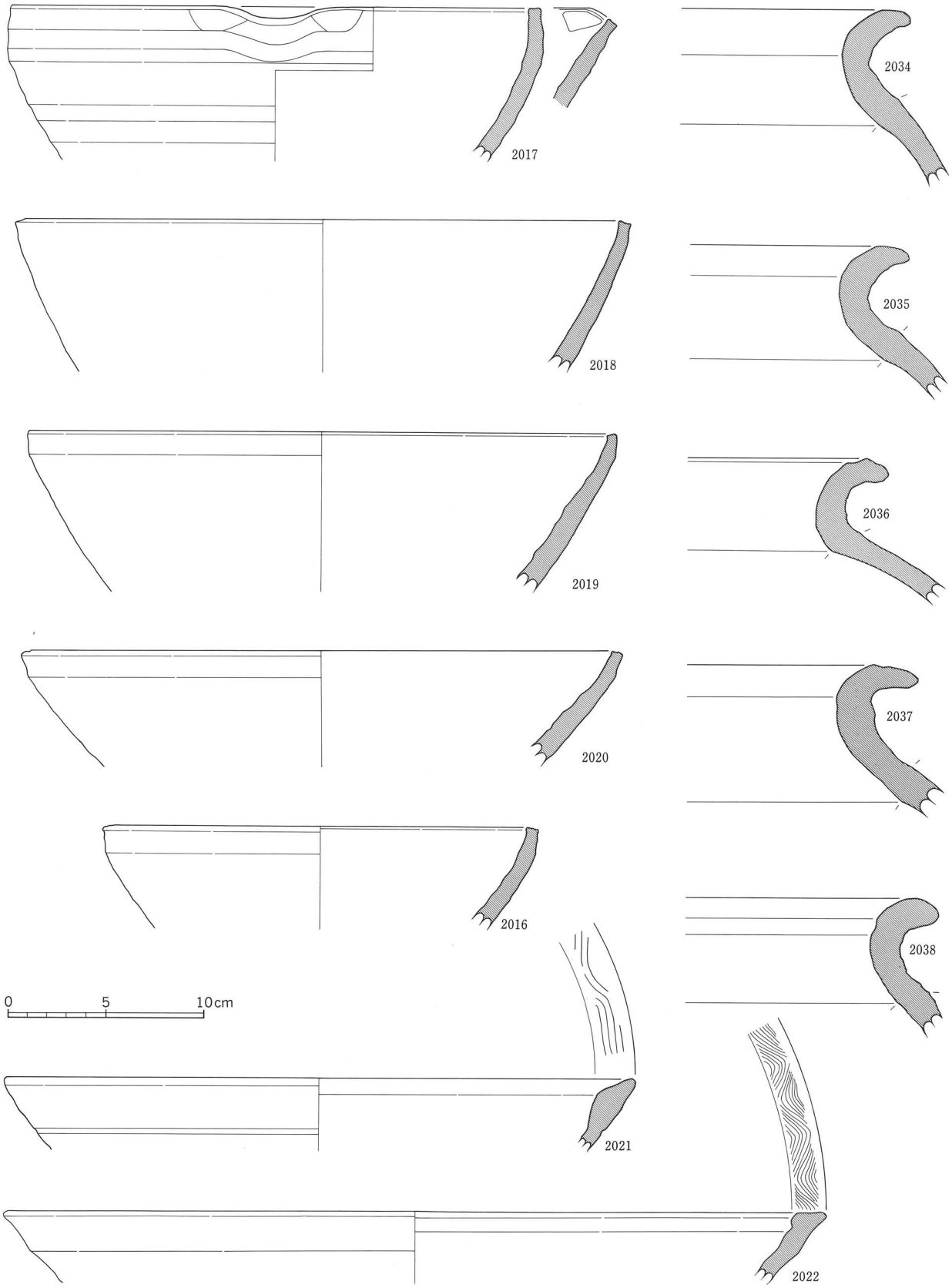
土器類　上段（出来田南遺跡）＝須恵器　　縮尺１／３

下段（石塚江之戸遺跡）＝土師器；6001・6002．珠洲；6003～6007．瀬戸美濃；6008

図面二　遺物実測図　岩坪岡田島遺跡

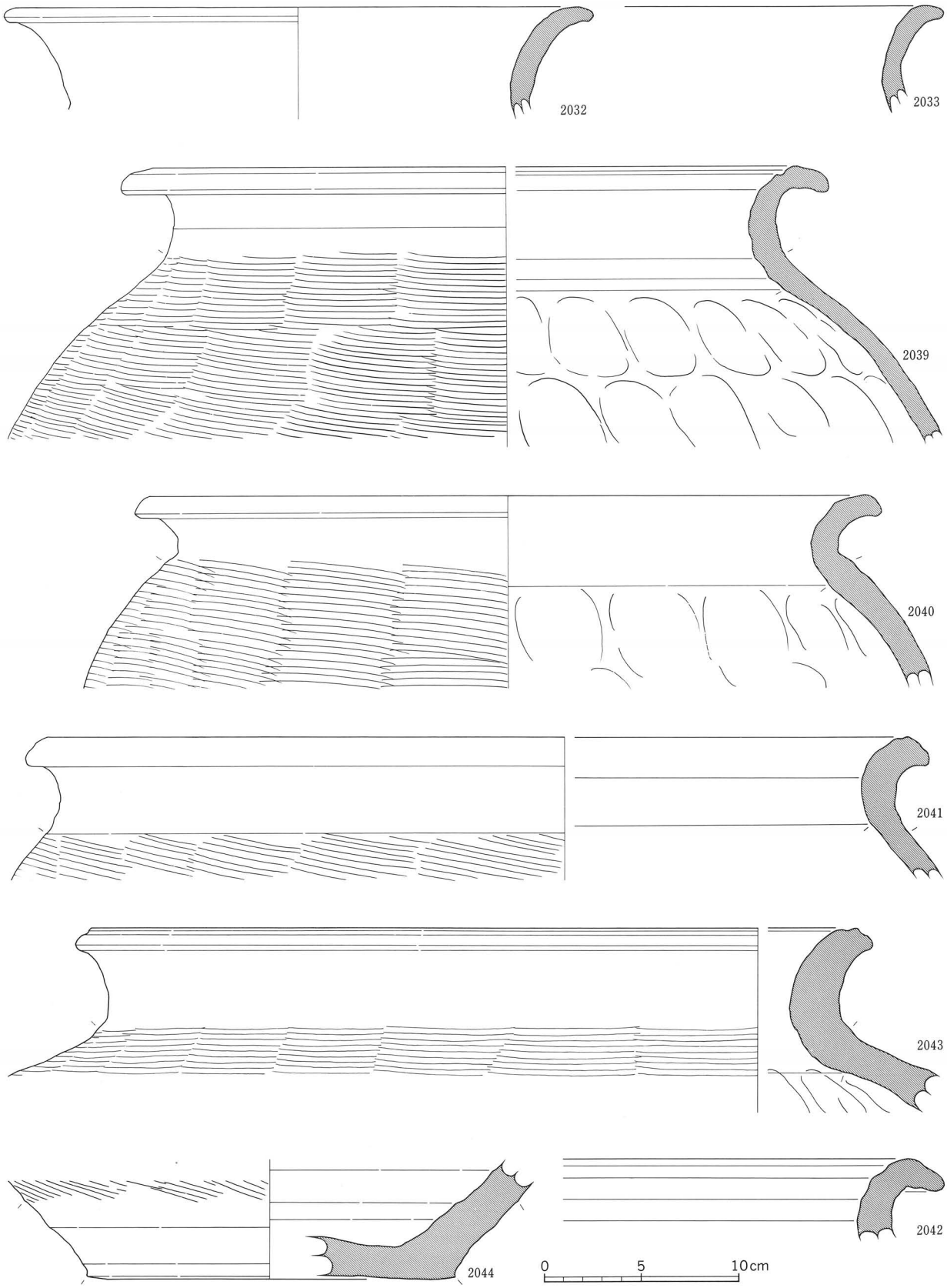


土器類＝古代土師器；2001・2002．須恵器；2003～2007．中世土師器；2008～2015　　縮尺１／３
珠洲；2023～2031．白磁；2045．青磁；2046・2047．瀬戸美濃；2048


2017
2018
2019
2020
2016
2021
2022
2034
2035
2036
2037
2038
0
5
10cm

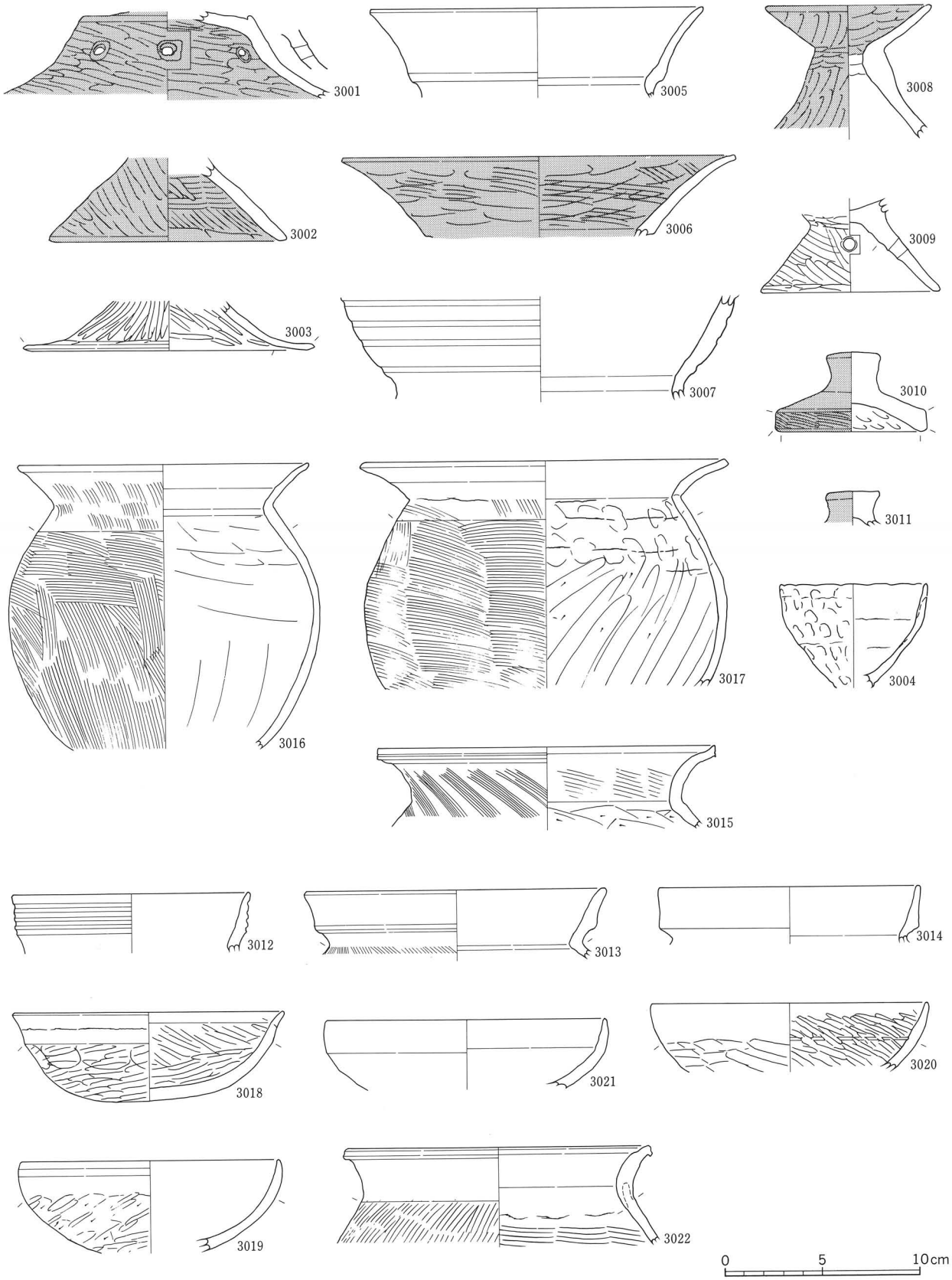
土器類＝珠洲

縮尺１／３



土器類＝珠洲

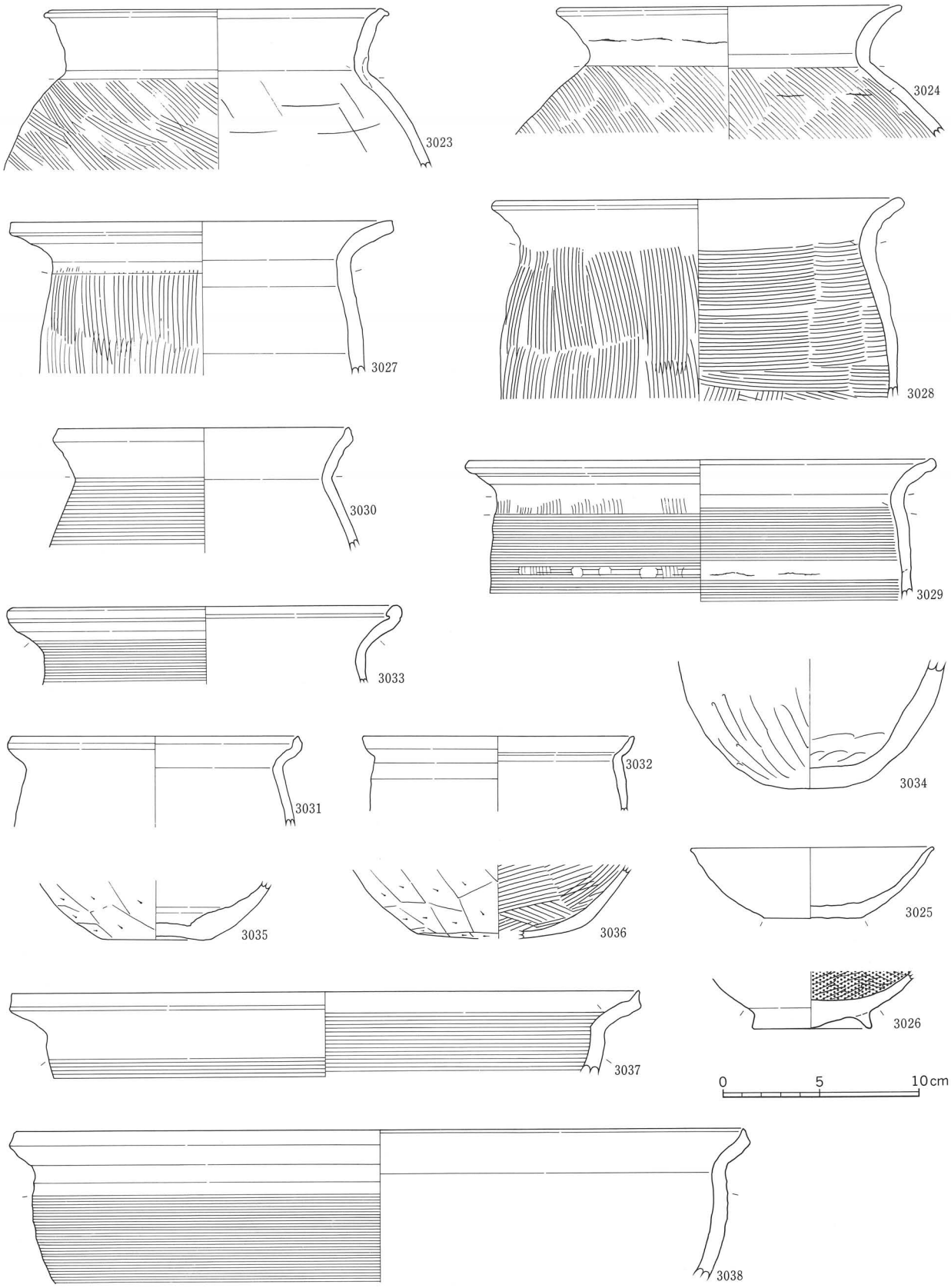
縮尺１／３


3001
3005
3008
3002
3006
3009
3003
3007
3010
3011
3016
3017
3004
3015
3012
3013
3014
3018
3021
3020
3019
3022
0
5
10cm

土器類＝土師器

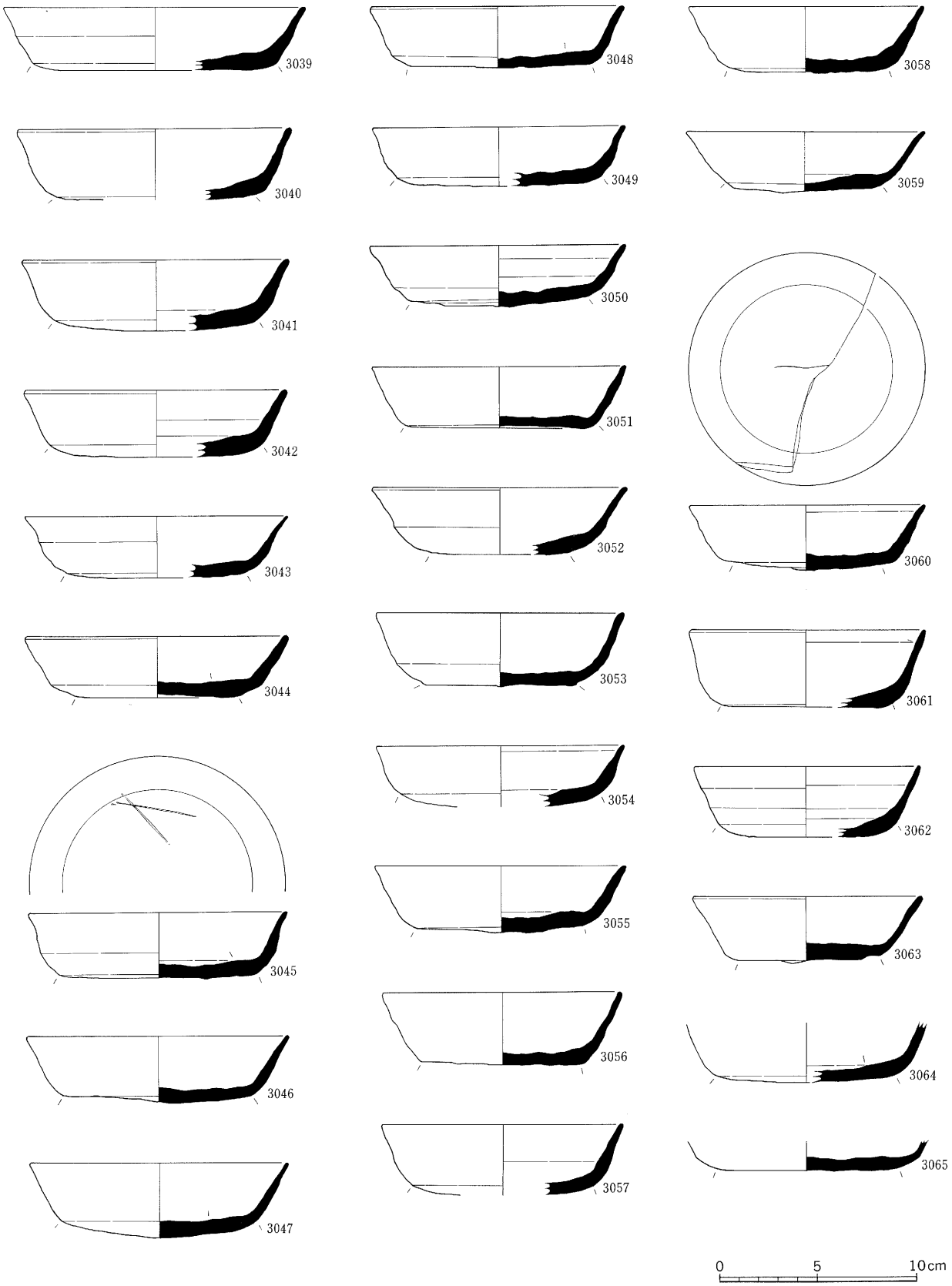
縮尺１／３

図面六　遺物実測図　東木津遺跡堀井地区



土器類＝土師器

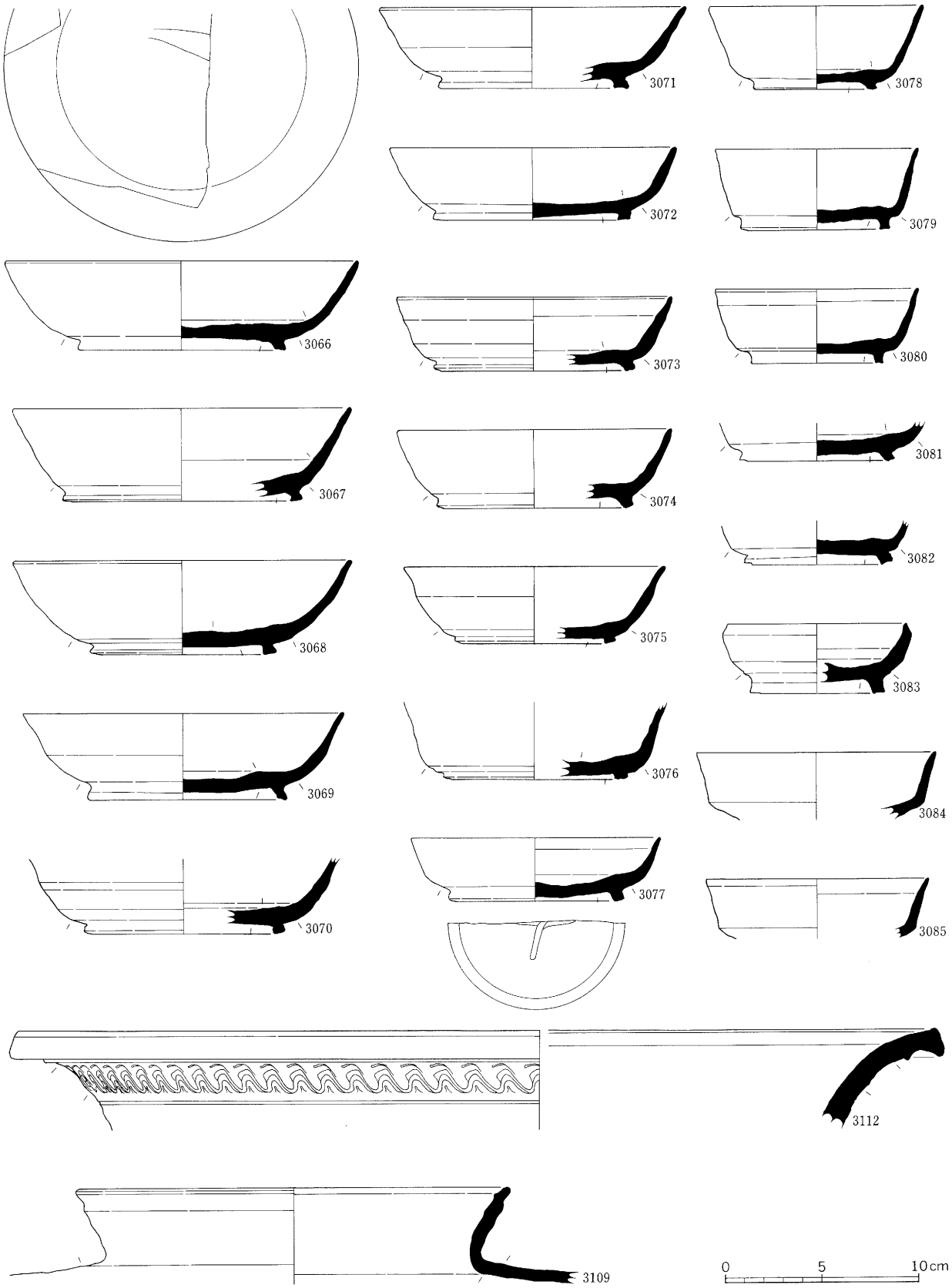
縮尺１／３


3039
3040
3041
3042
3043
3044
3045
3046
3047
3048
3049
3050
3051
3052
3053
3054
3055
3056
3057
3058
3059
3060
3061
3062
3063
3064
3065
0
5
10cm

土器類＝須恵器

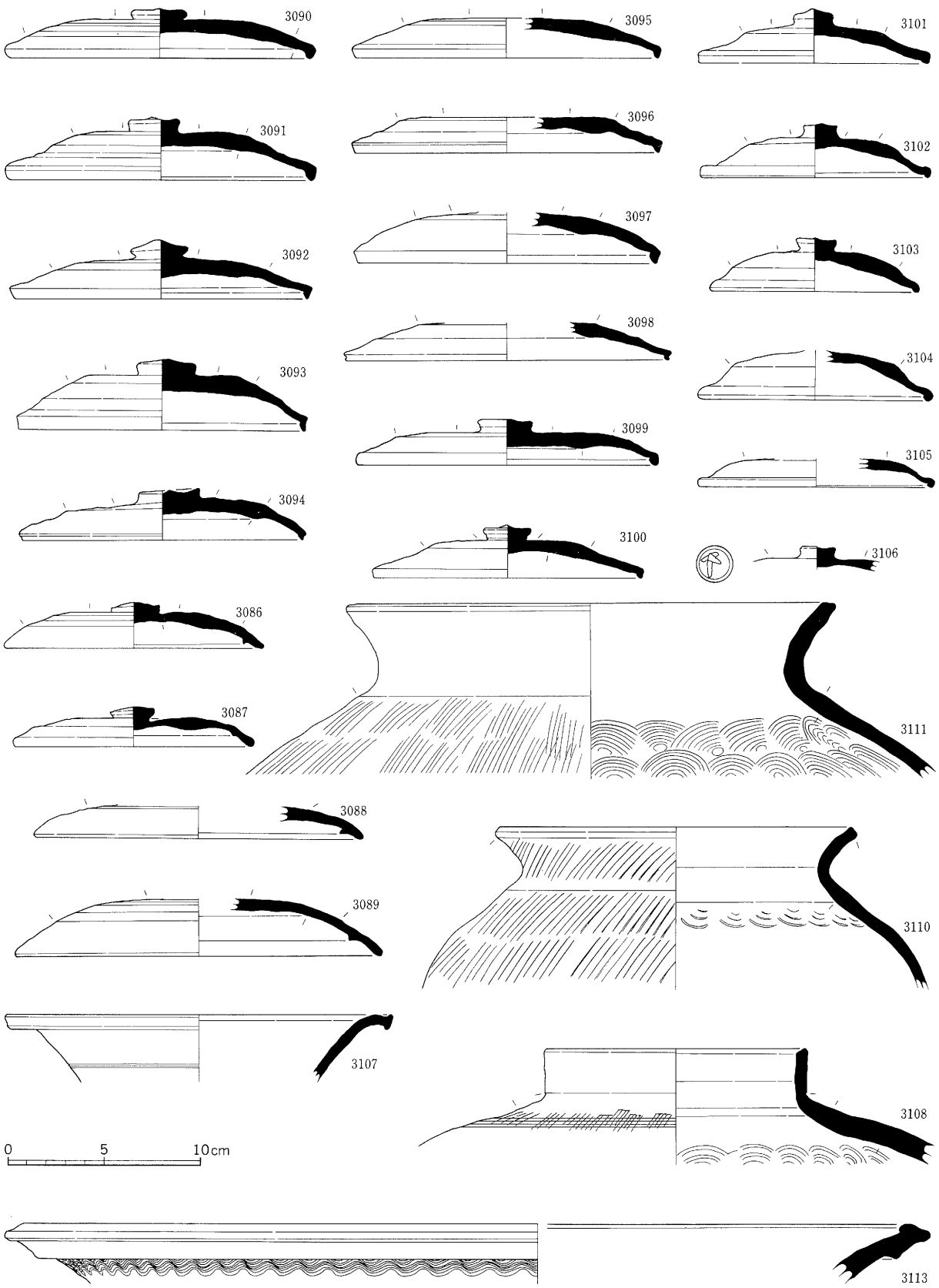
縮尺１／３

図面八　遺物実測図　東木津遺跡堀井地区



土器類＝須恵器

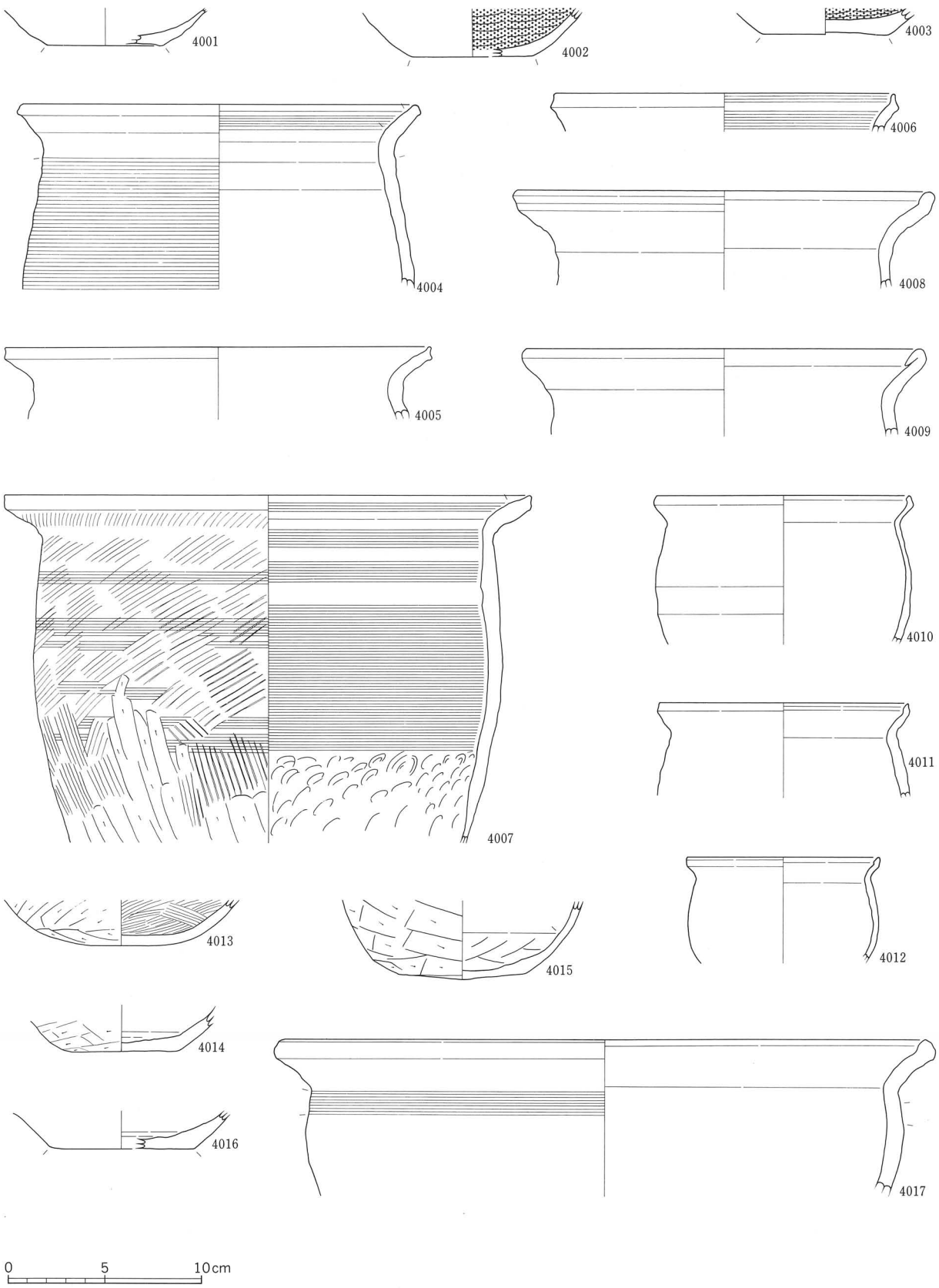
縮尺１／３


3090
3091
3092
3093
3094
3095
3096
3097
3098
3099
3100
3101
3102
3103
3104
3105
3106
3086
3087
3088
3089
3107
3108
3110
3111
3113
0
5
10cm

土器類＝須恵器

縮尺１／３

図面一〇　遺物実測図　東木津遺跡セーブオン地区



土器類＝土師器

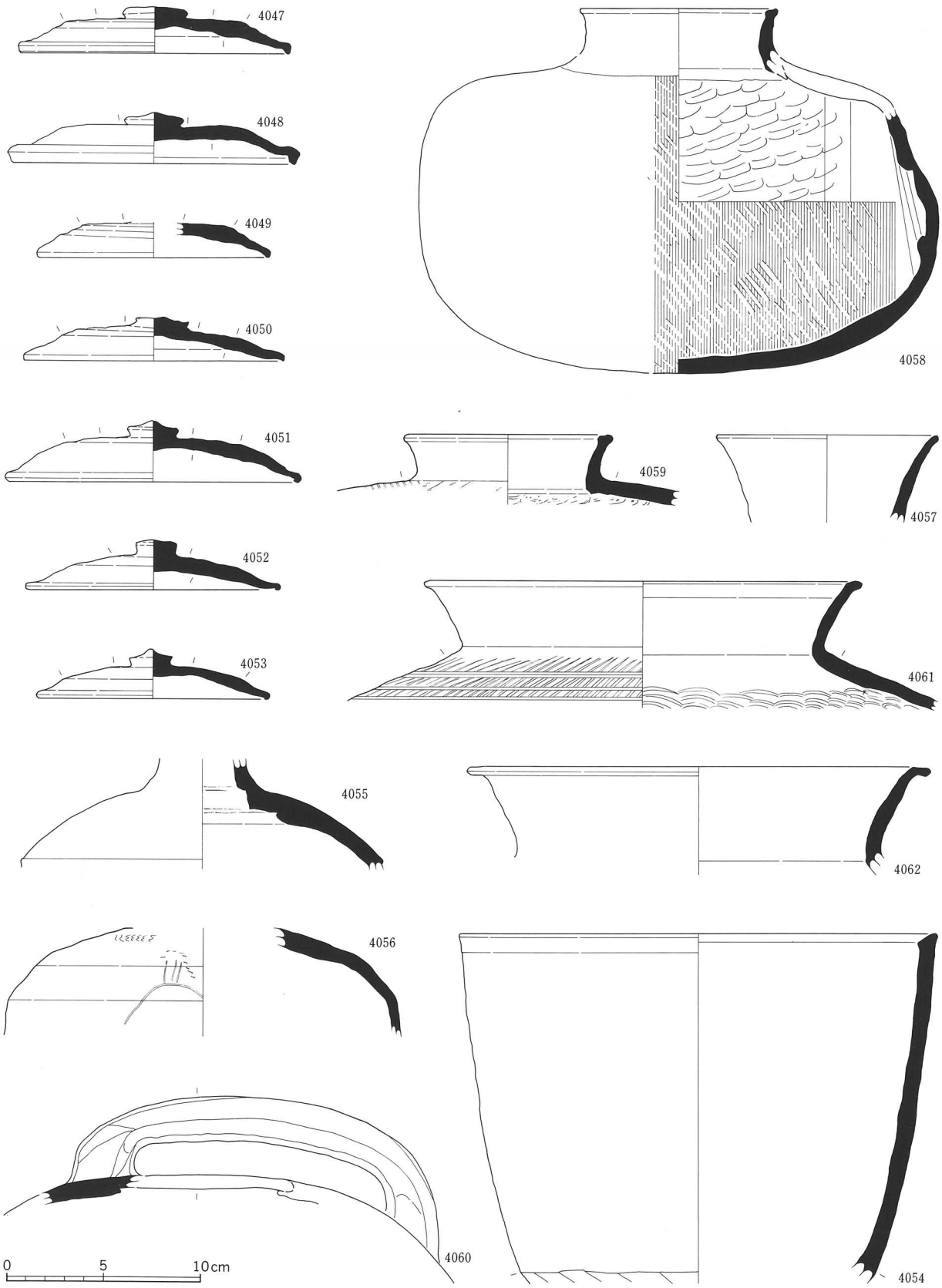
縮尺１／３

4018
4019
4020
4021
4022
4023
4024
4025
4026
4027
4028
4029
4030
4031
4032
4033
4034
4035
4036
4037
4038
4039
4040
4041
4042
4043
4044
4045
4046
0
5
10cm

土器類＝須恵器

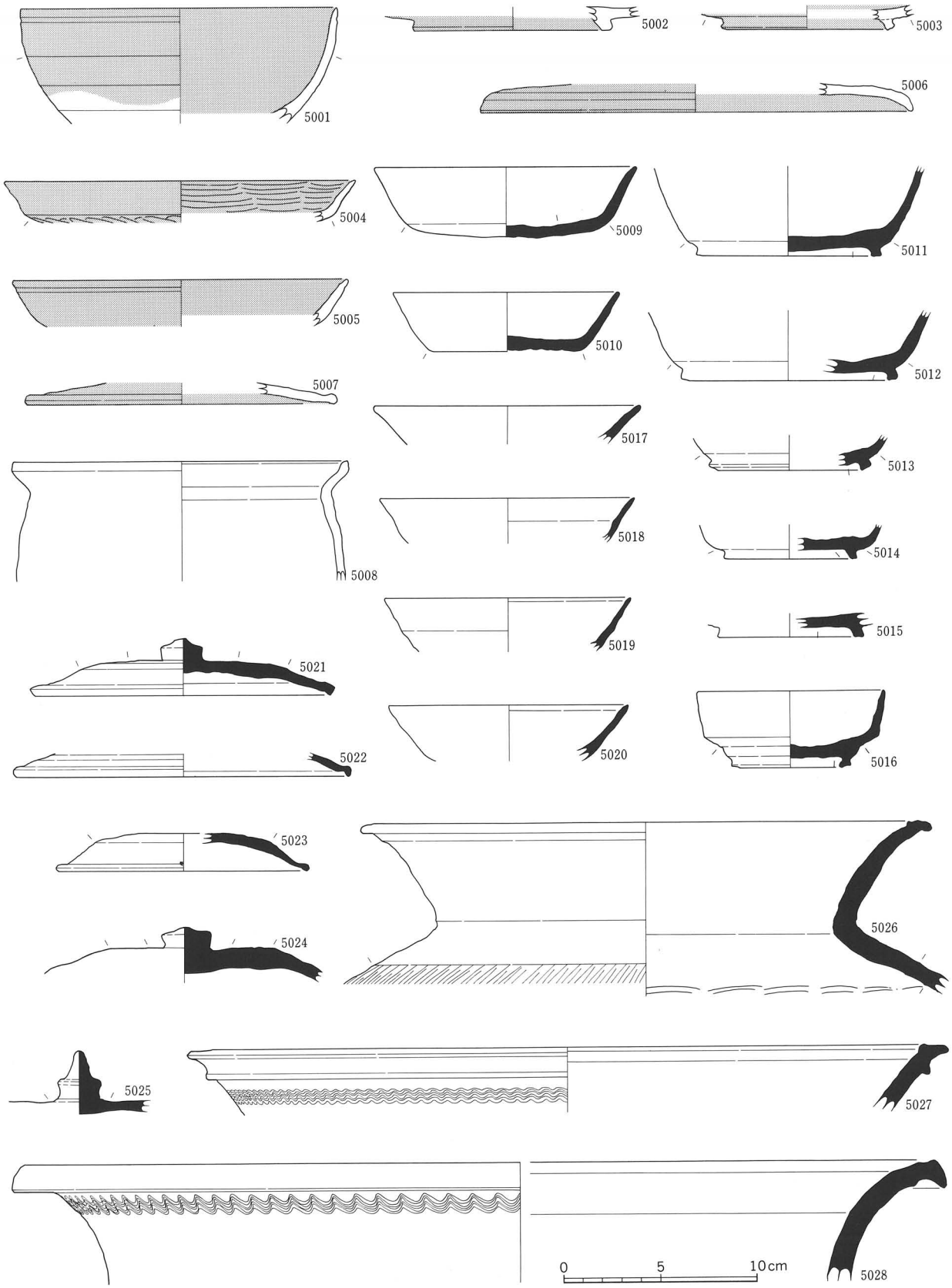
縮尺１／３

図面一二　遺物実測図　東木津遺跡セーブオン地区



土器類＝須恵器

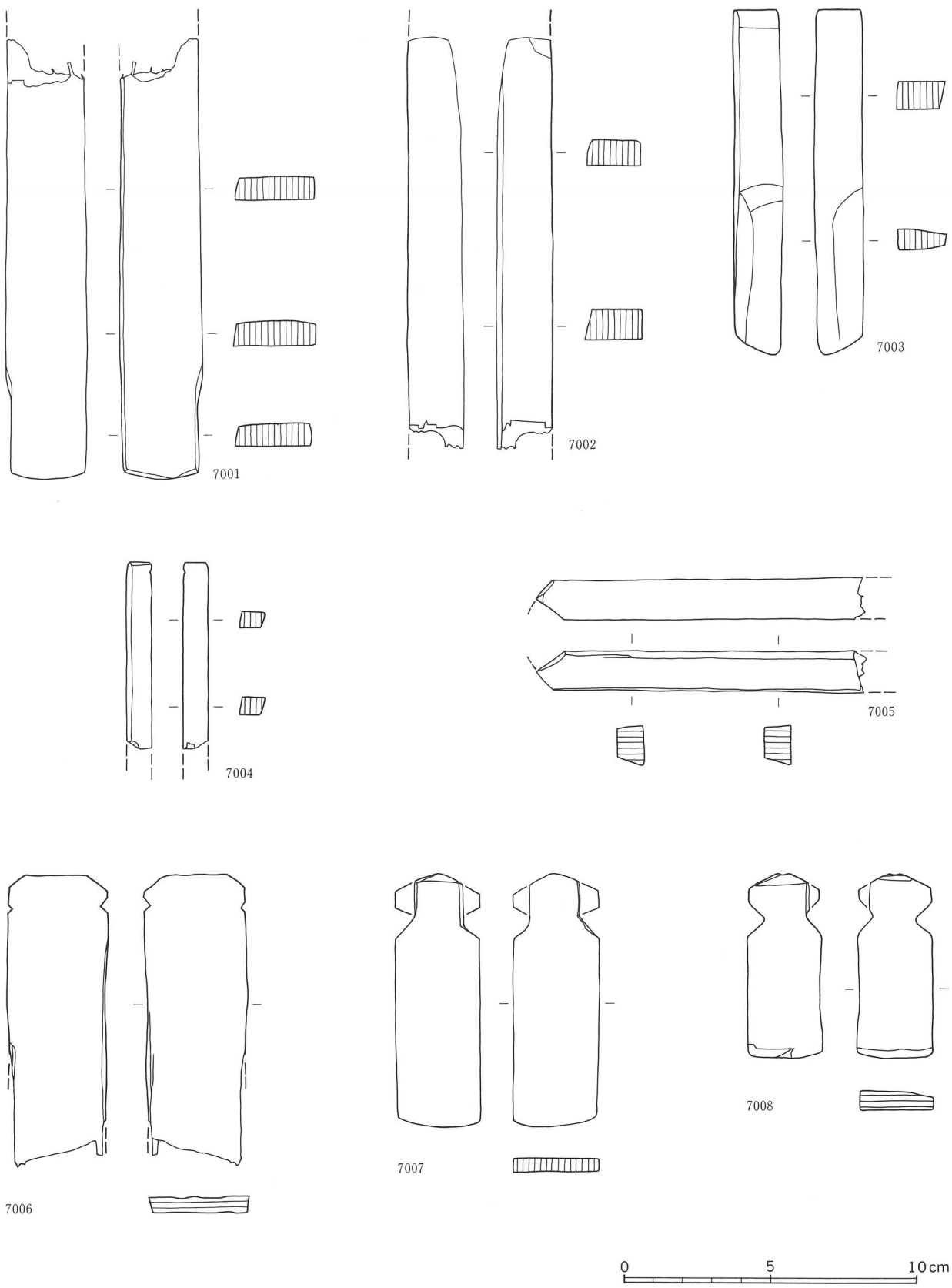
縮尺１／３



土器類＝土師器；5001～5008．須恵器；5009～5028

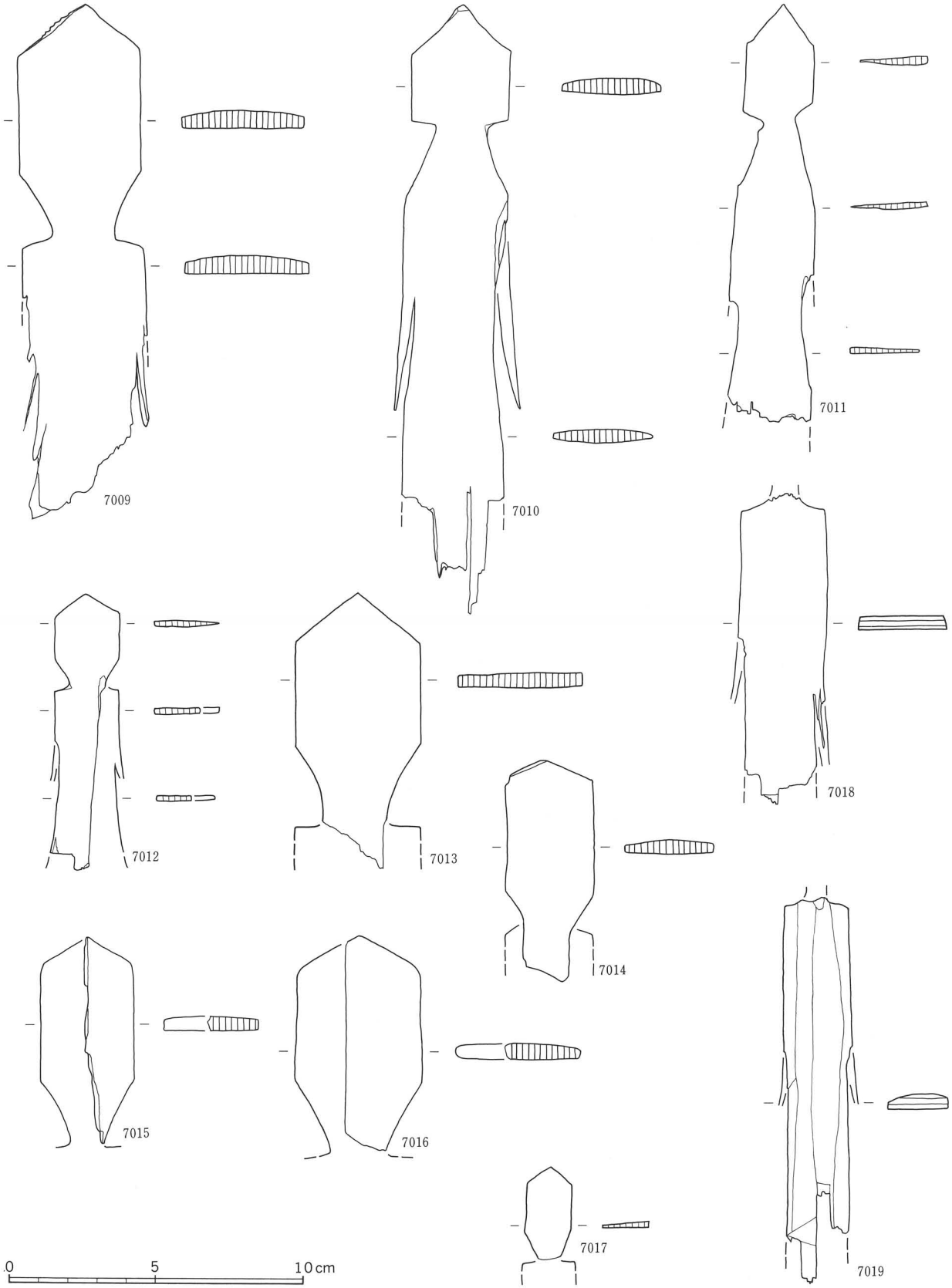
縮尺１／３

図面一四　遺物実測図　東木津遺跡堀井地区



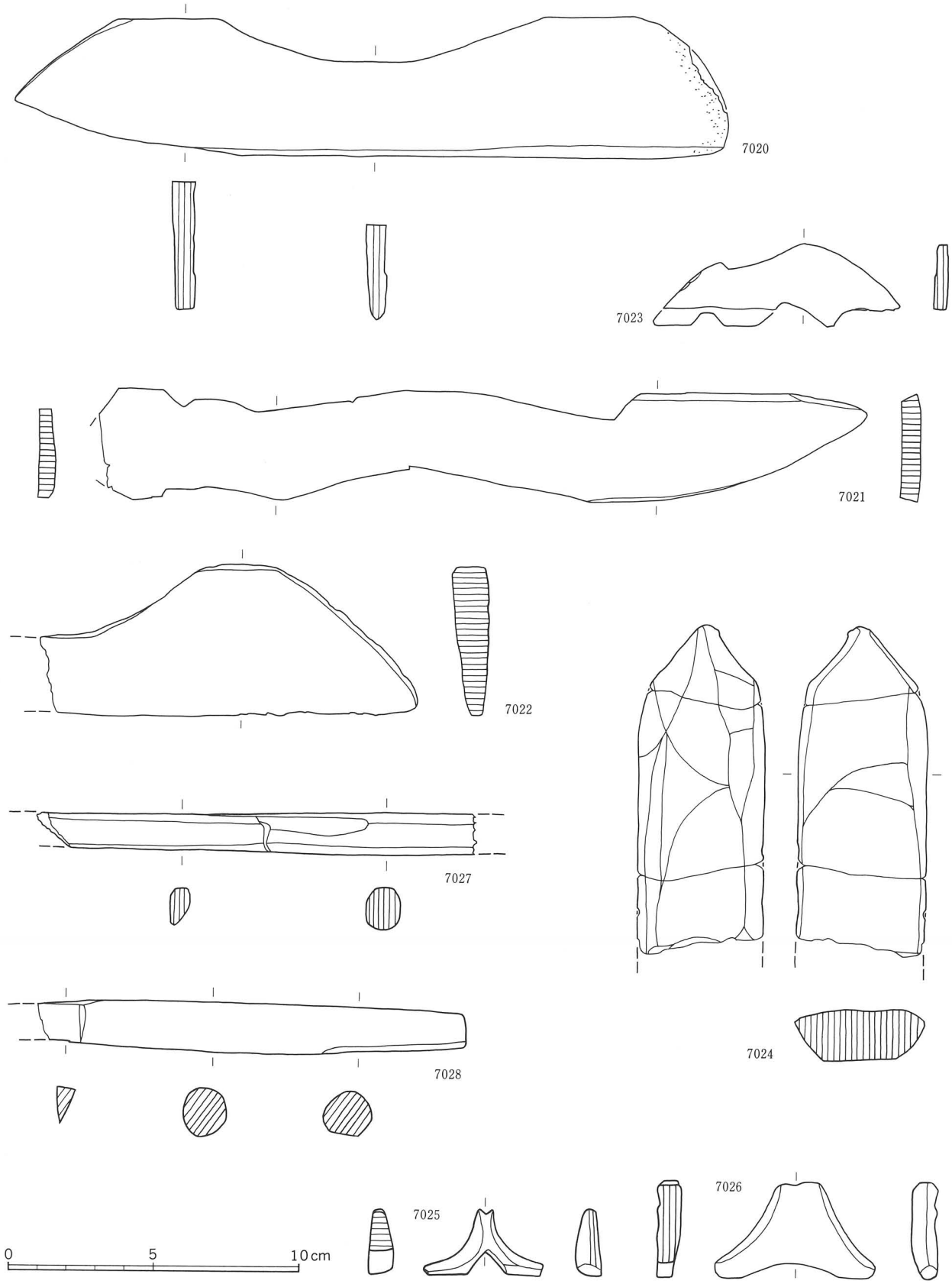
木製品＝木簡；7001～7005．木簡形；7006～7008

縮尺１／２

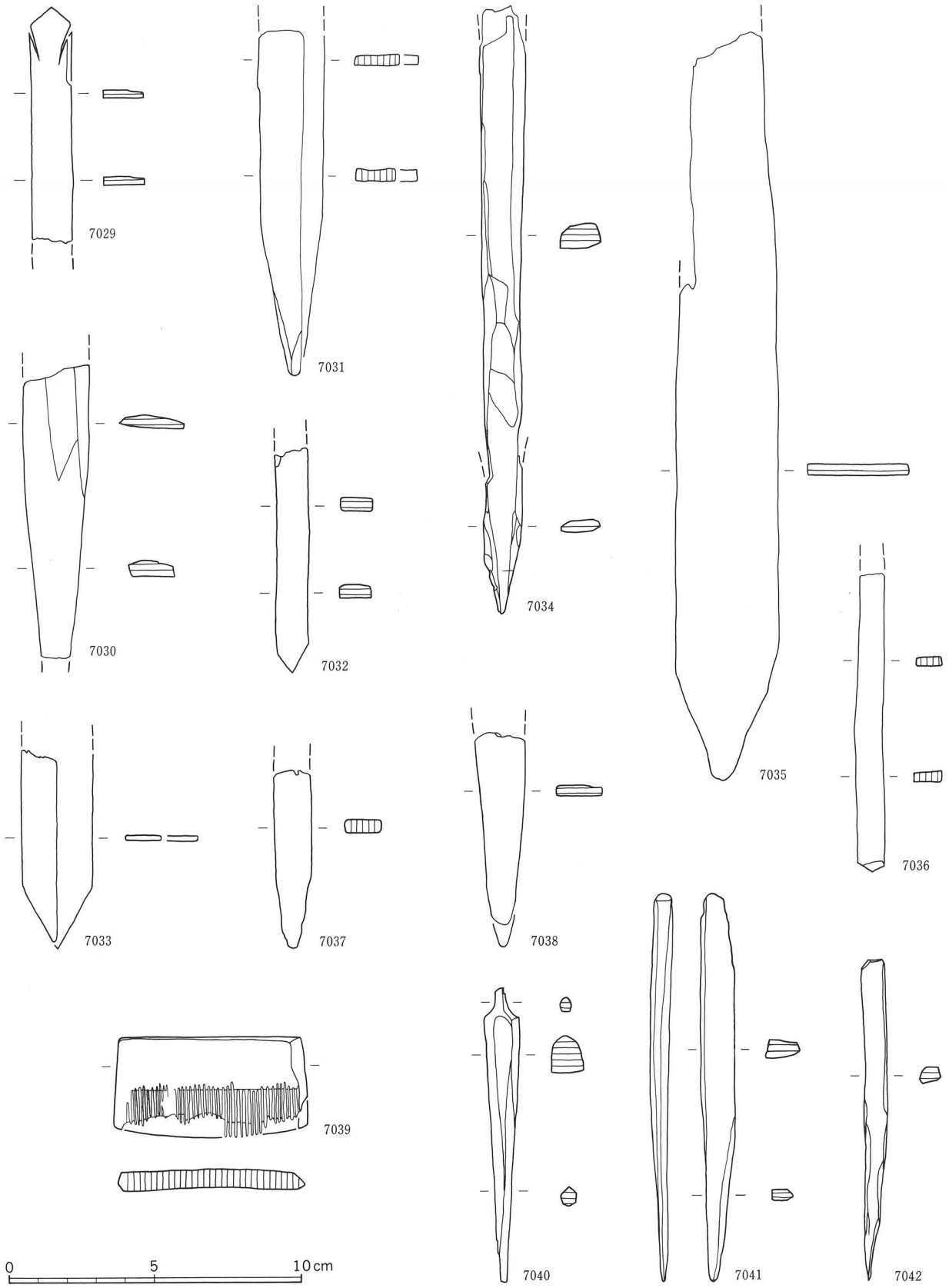

7009
7010
7011
7012
7013
7014
7015
7016
7017
7018
7019
0
5
10cm

木製品＝人形

縮尺１／２



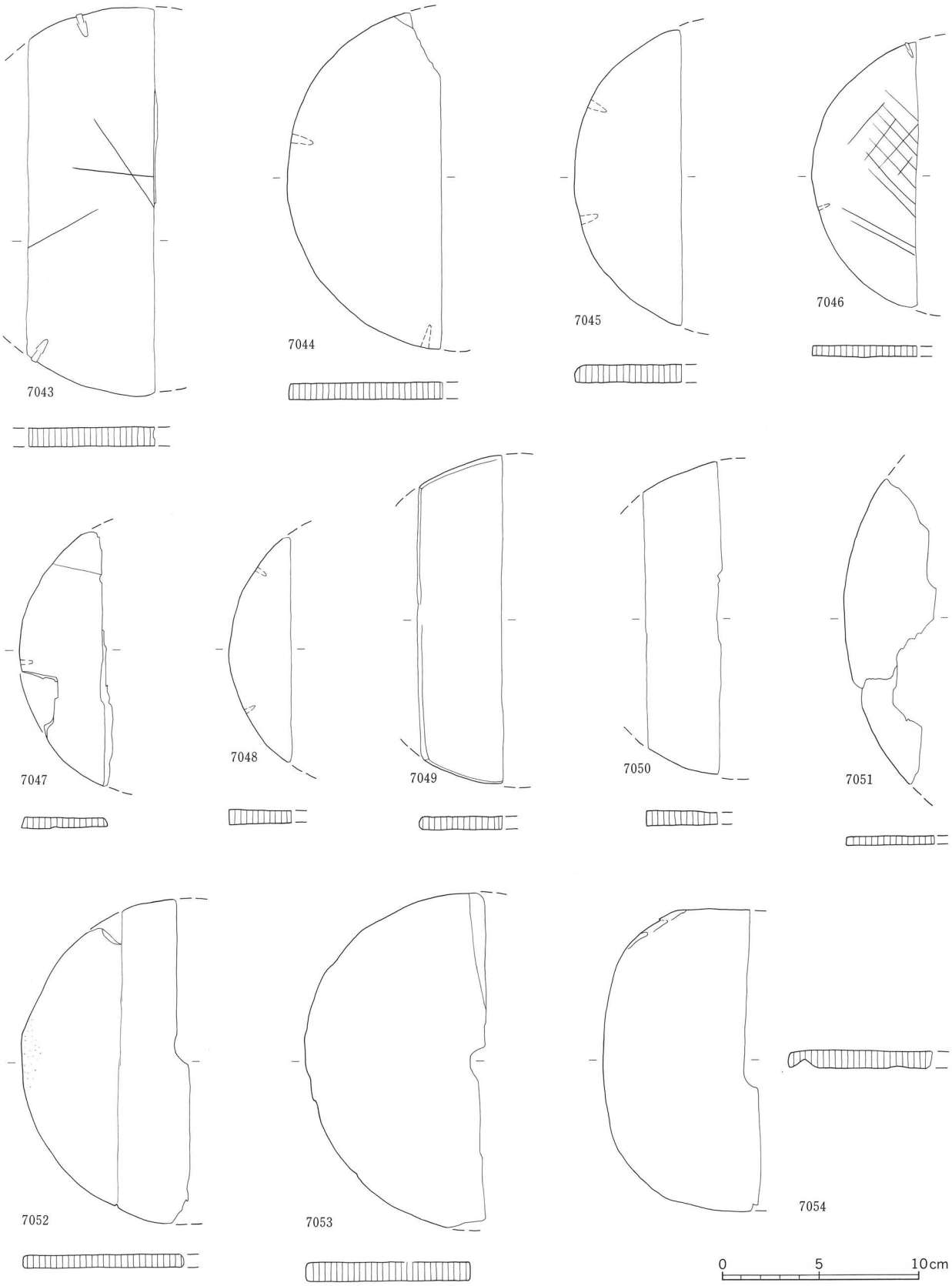
木製品＝鳥形；7020．馬形；7021～7023．舟形；7024．琴柱形；7025～7026．刀子形；7027～7028　　縮尺１／２



木製品＝斎串；7029～7038．横櫛；7039．針；7040～7042

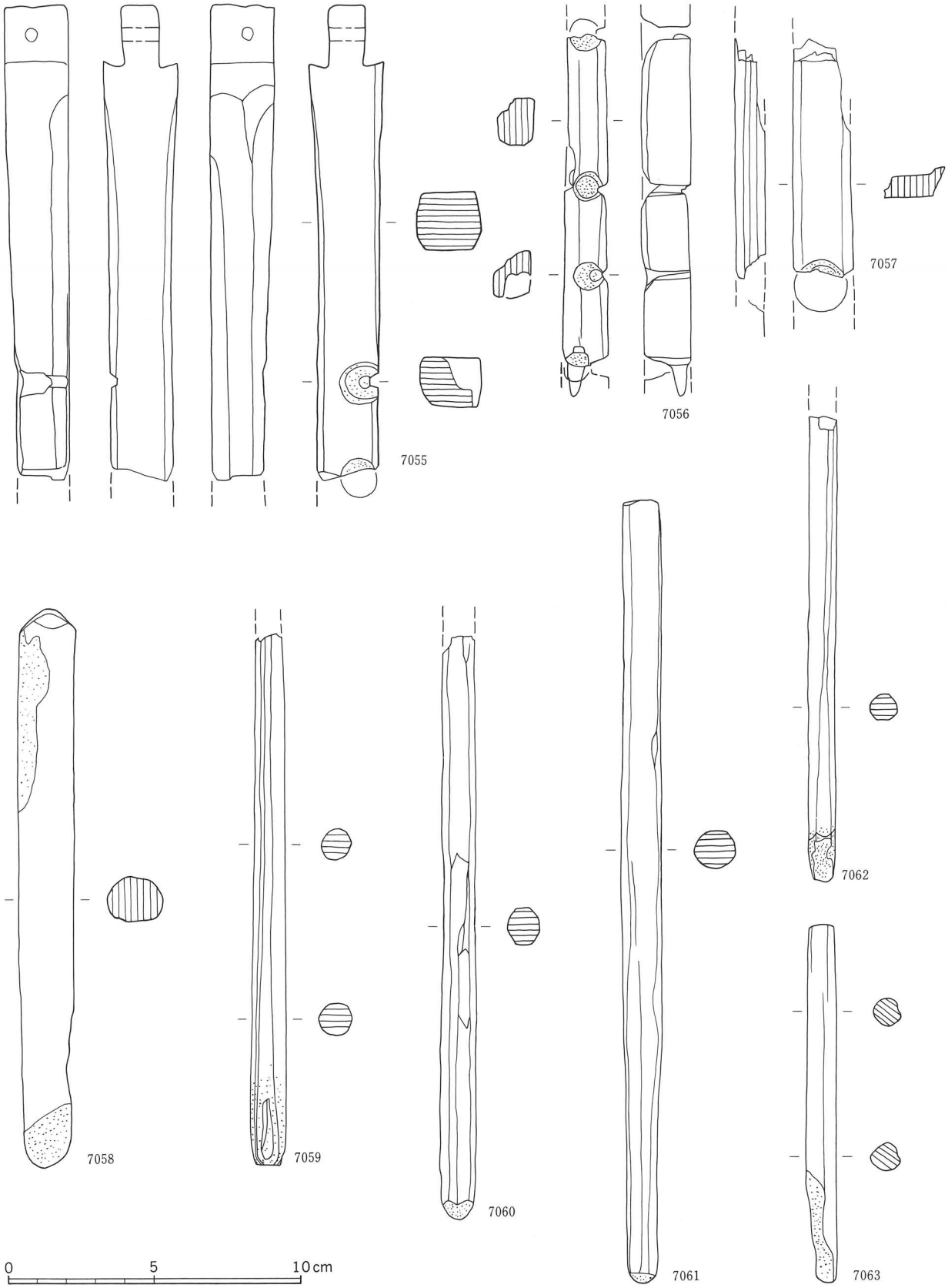
縮尺１／２

図面一八　遺物実測図　東木津遺跡堀井地区



木製品＝曲物底板

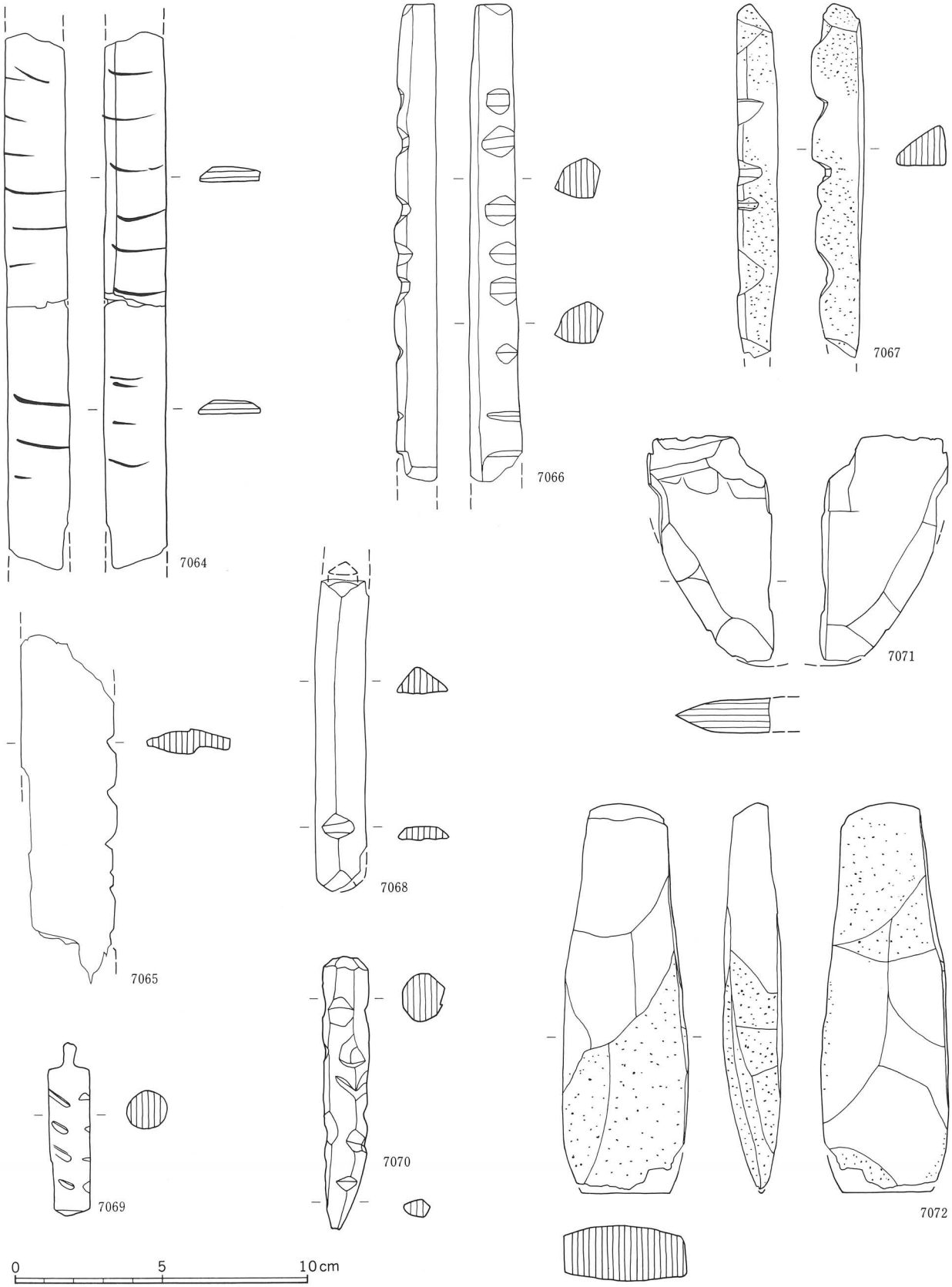
縮尺１／３



木製品＝火鑽板；7055～7057．火鑽杵；7058～7063

縮尺１／２

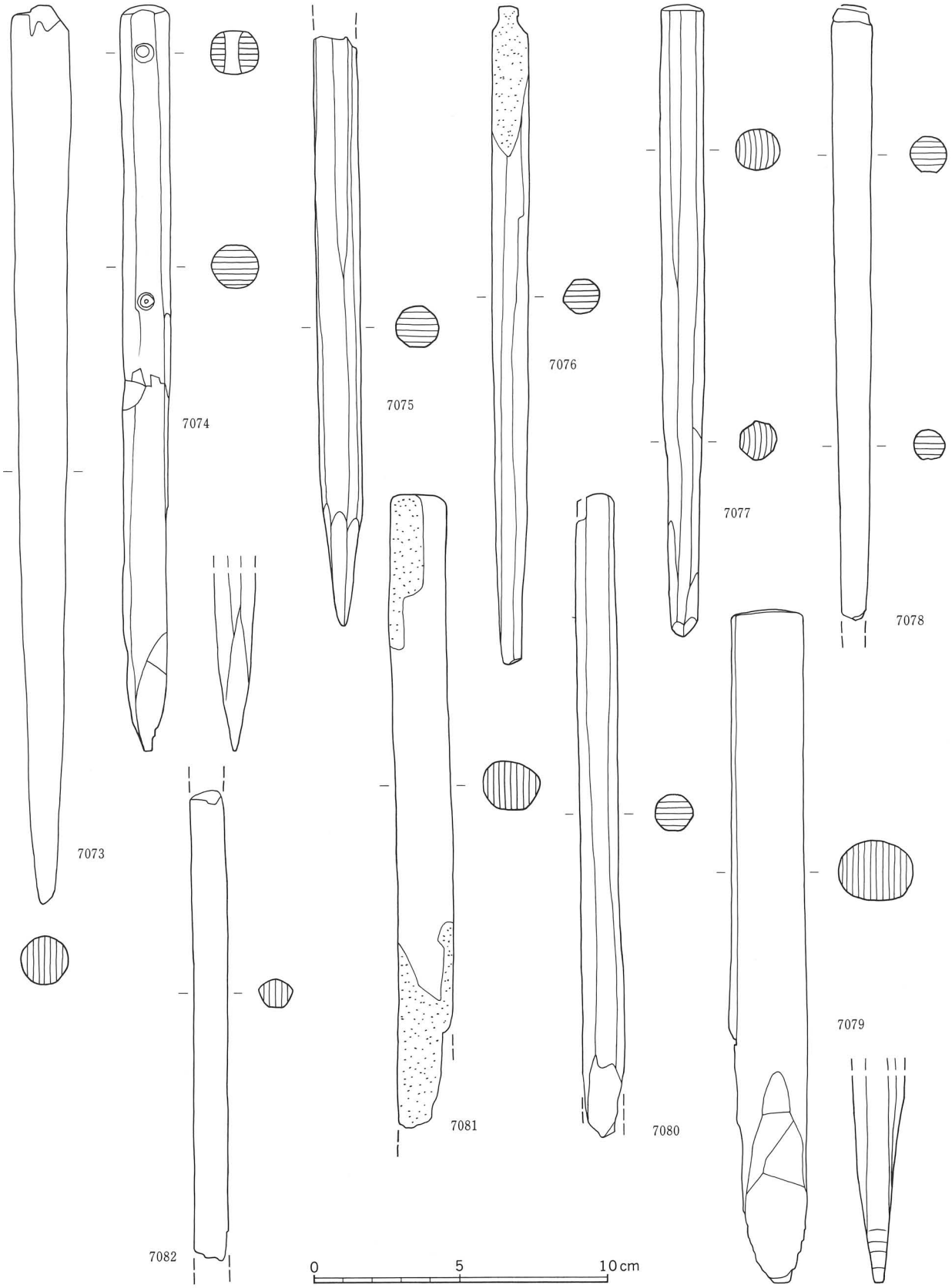
図面二〇　遺物実測図　東木津遺跡堀井地区



木製品＝物差；7064．刻み目；7065～7070．楔；7071・7072

縮尺１／２

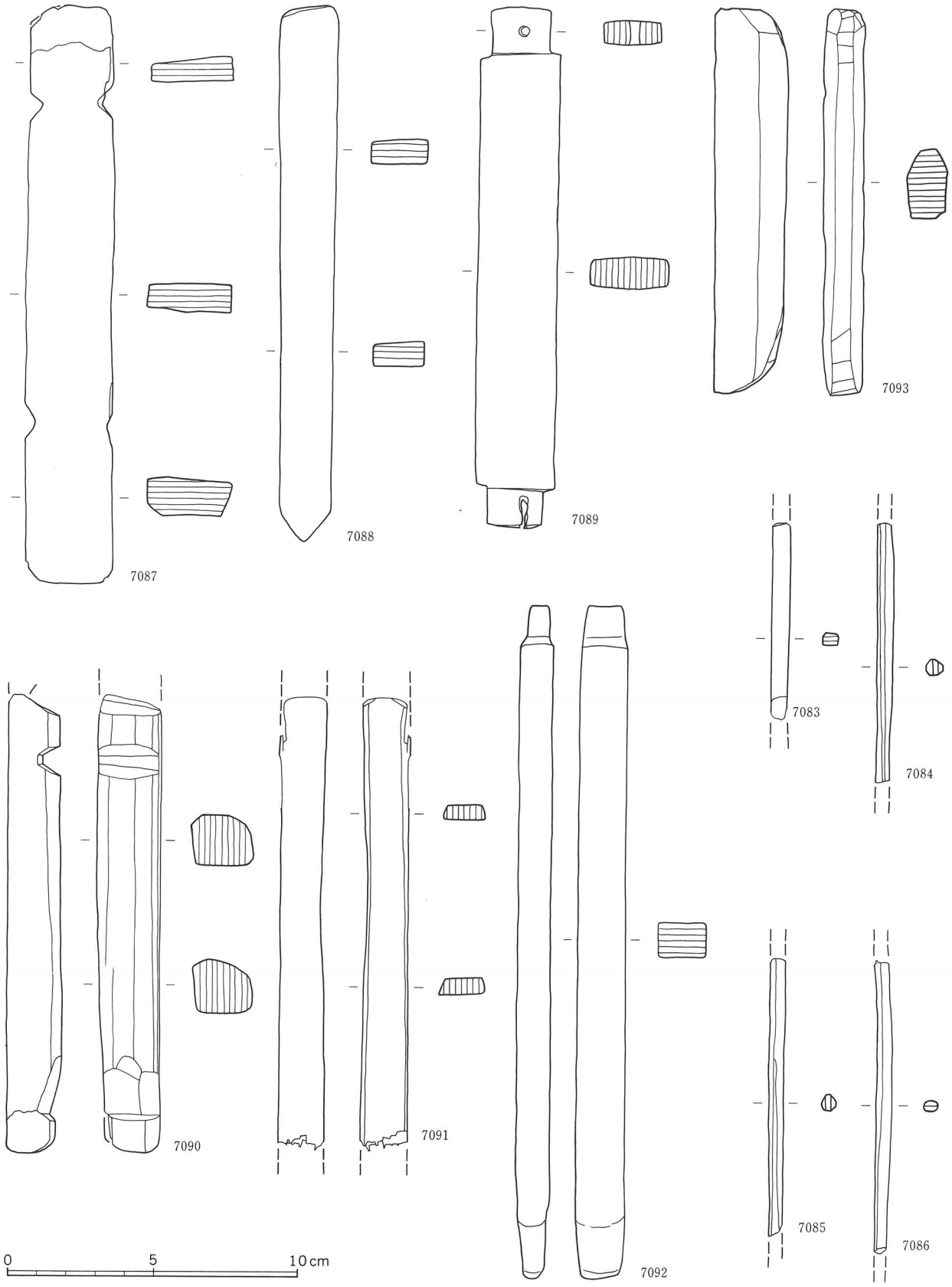
図面二一　遺物実測図　東木津遺跡堀井地区



木製品＝棒状品

縮尺１／２

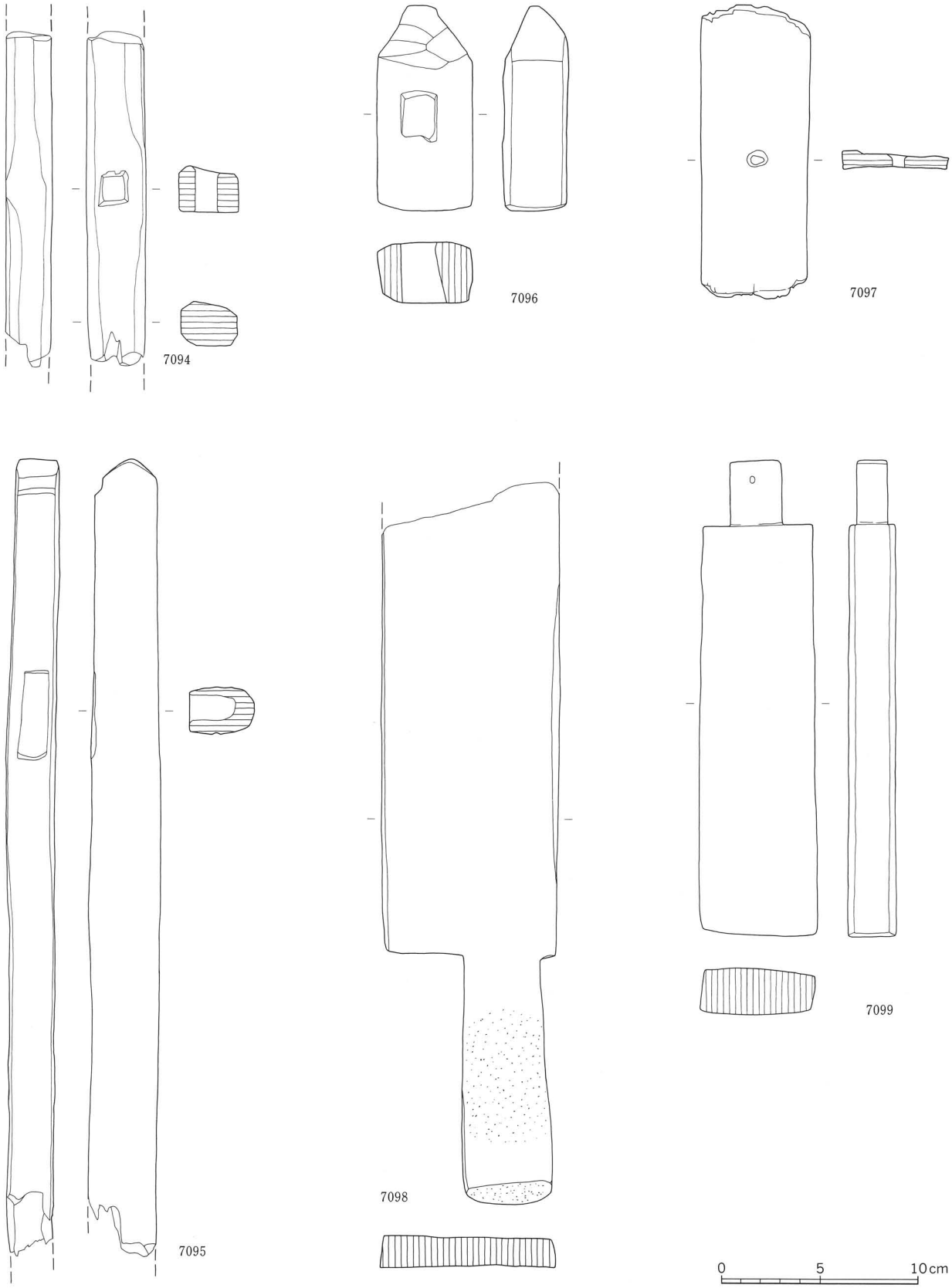
図面二三　遺物実測図　東木津遺跡堀井地区



木製品＝箸；7083～7086．細部材；7087～7093

縮尺１／２

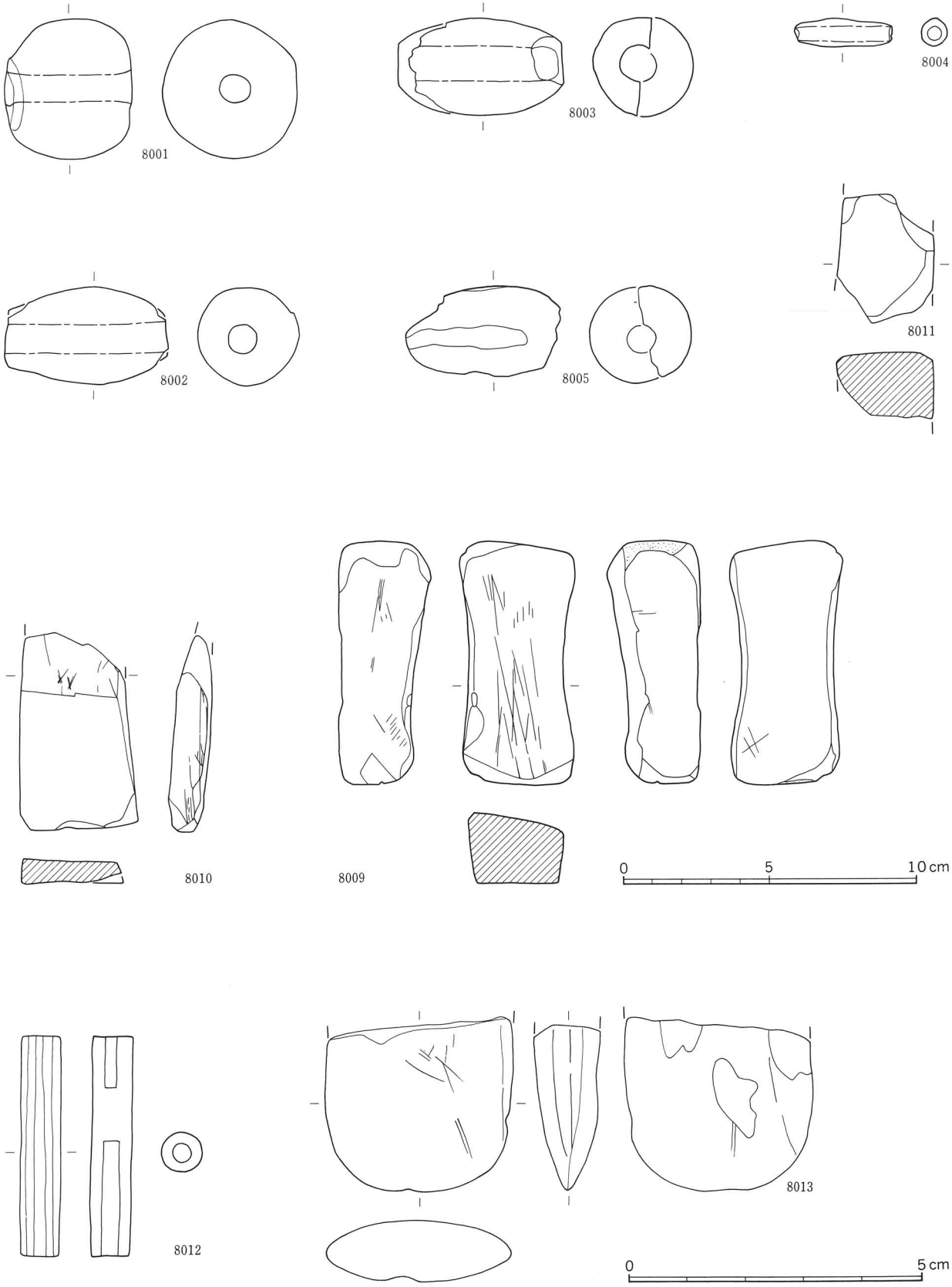
図面二三　遺物実測図　東木津遺跡堀井地区



木製品＝部材

縮尺１／３

図面二四　遺物実測図　各遺跡・各地区



土製品＝土錘；8001～8005
石製品＝砥石；8009～8011．管玉；8012．磨製石斧；8013

縮尺１／２・実大

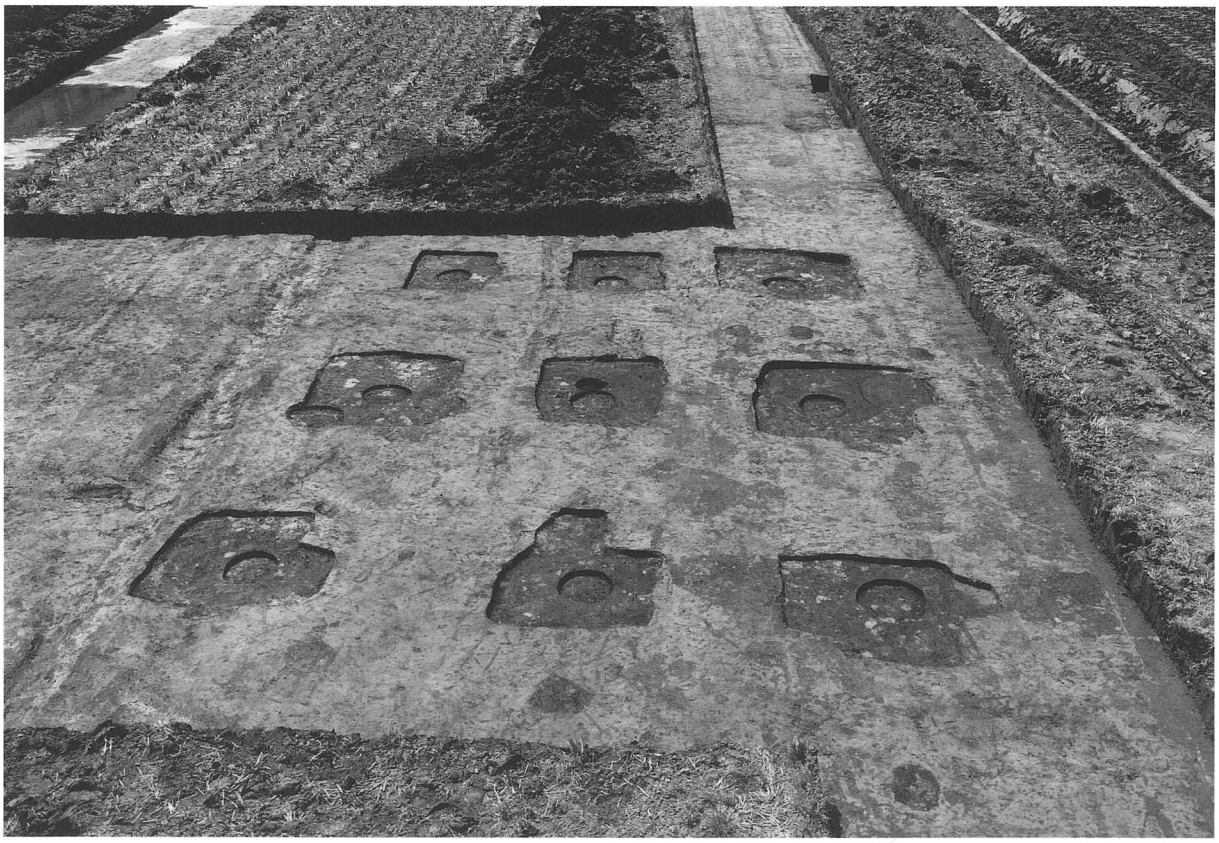
図　　版

1．調査地区全景（南西）

2．調査地区全景（北西）

3．溝ＳＤ02検出状態
（南西）

1．掘立柱建物址ＳＢ01検出状態（南南西）



2．掘立柱建物址ＳＢ01検出状態（東南東）

1．調査地区遠景（南西）

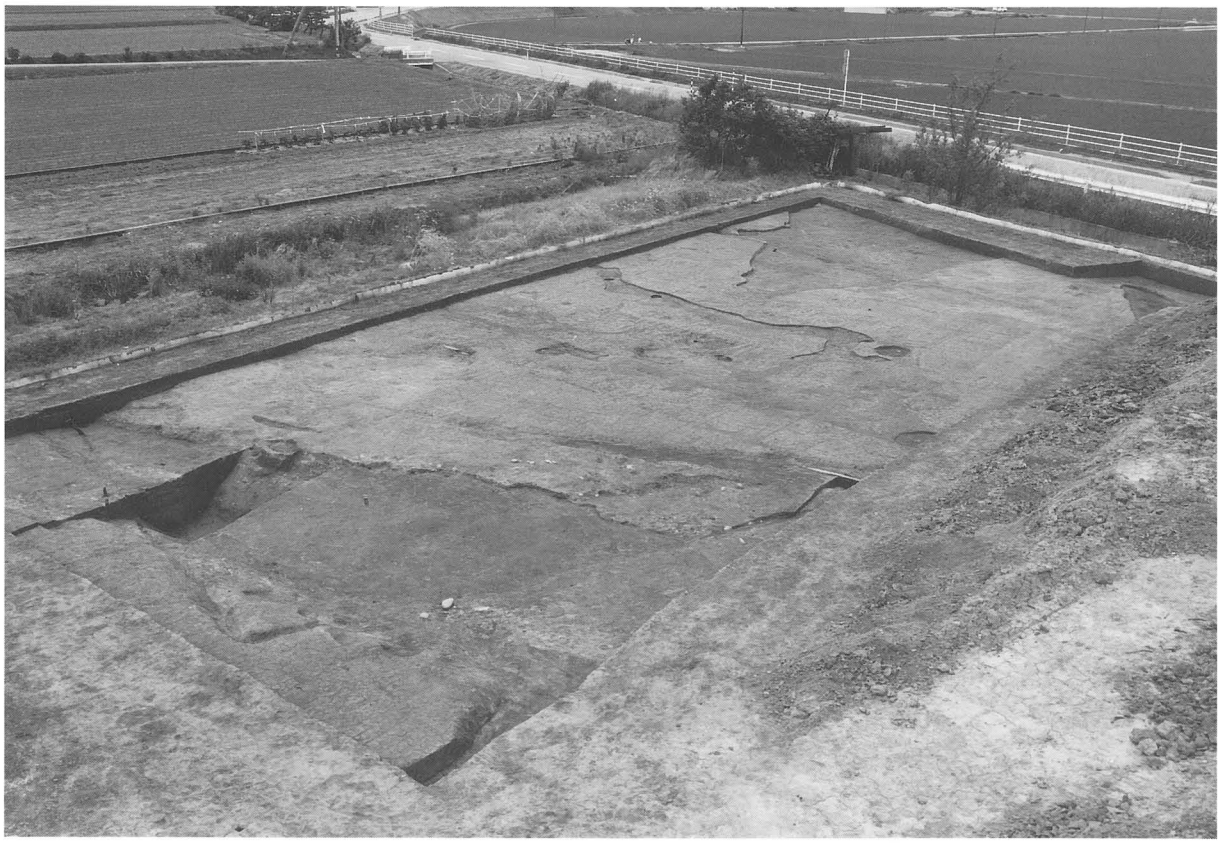
2．調査地区遠景（上方）

図版四　遺構　岩坪岡田島遺跡

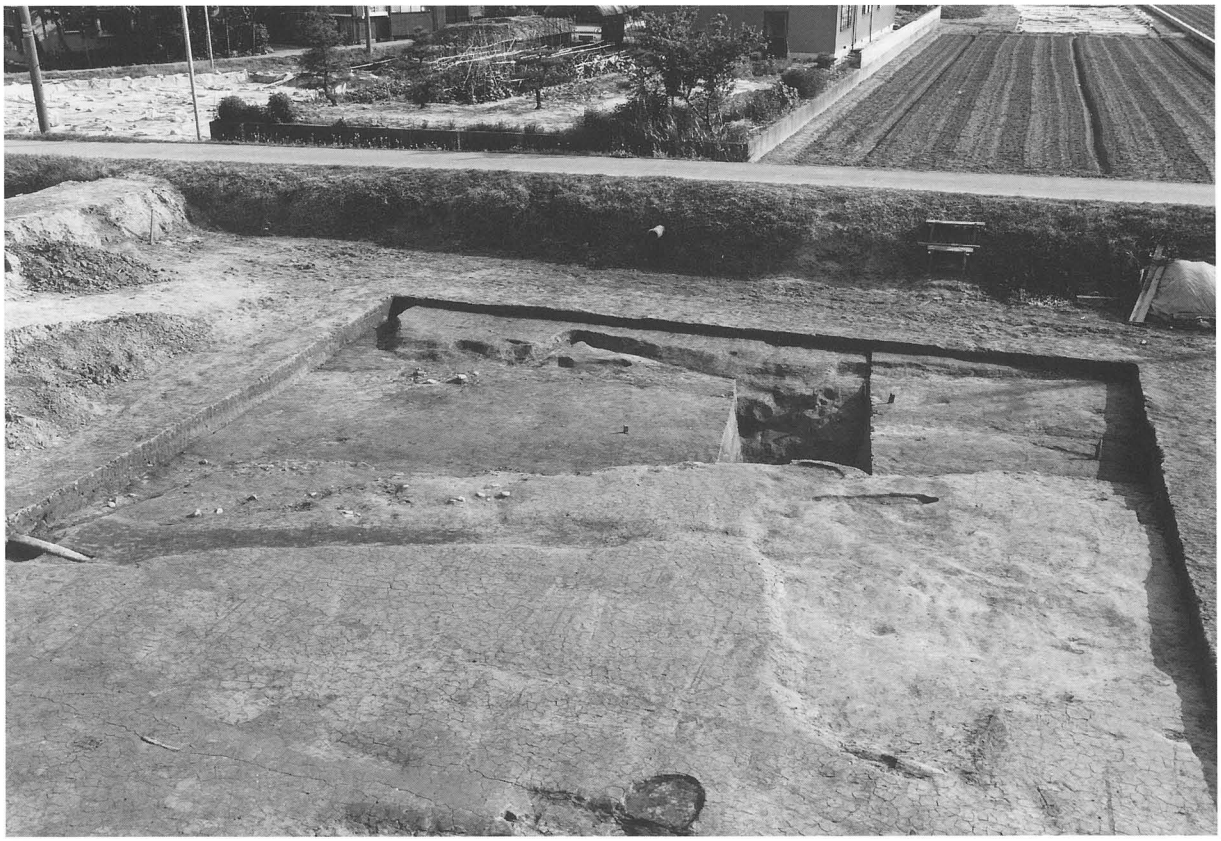
1．調査地区遠景（上方）

2．調査地区遠景（上方）

1．調査地区全景（西）



2．調査地区全景（南）



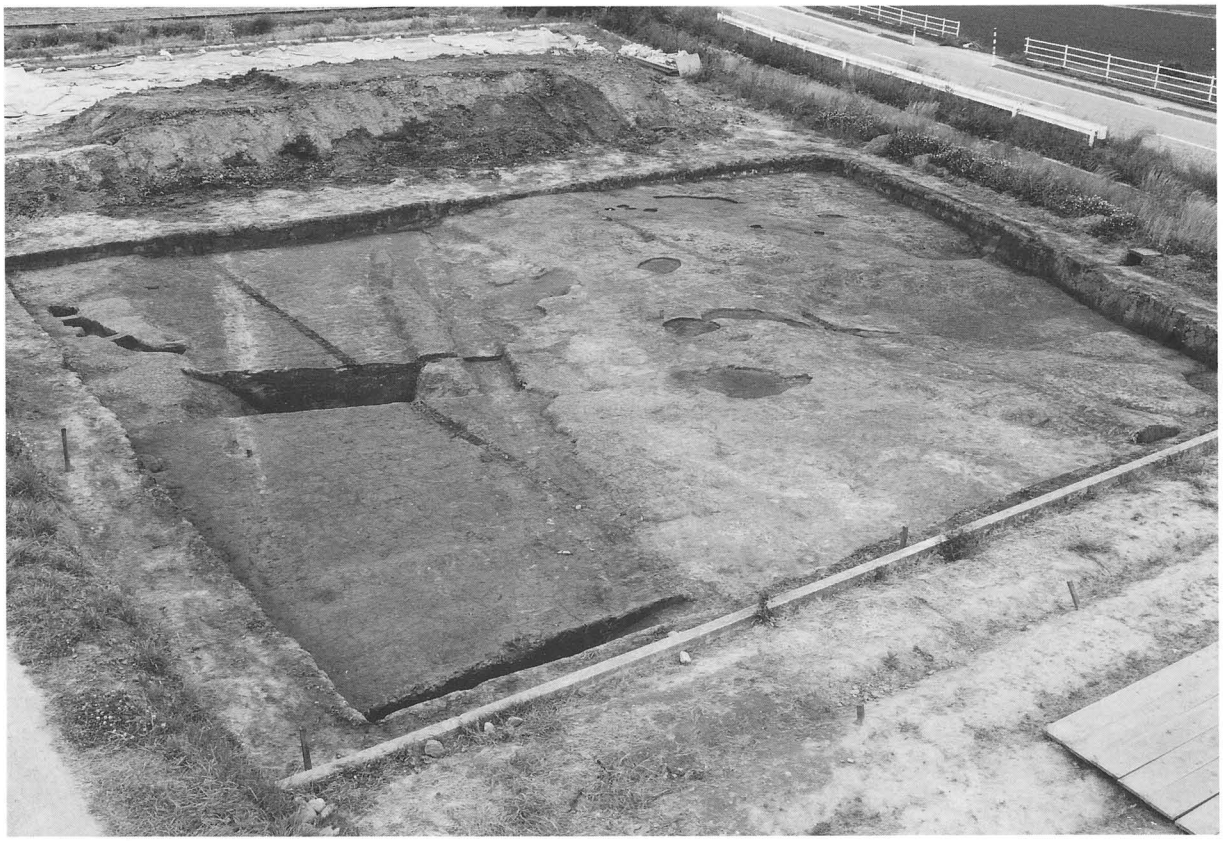
1．溝ＳＤ01全景（北東）

2．溝ＳＤ01試掘坑遺物出土状態（北東）

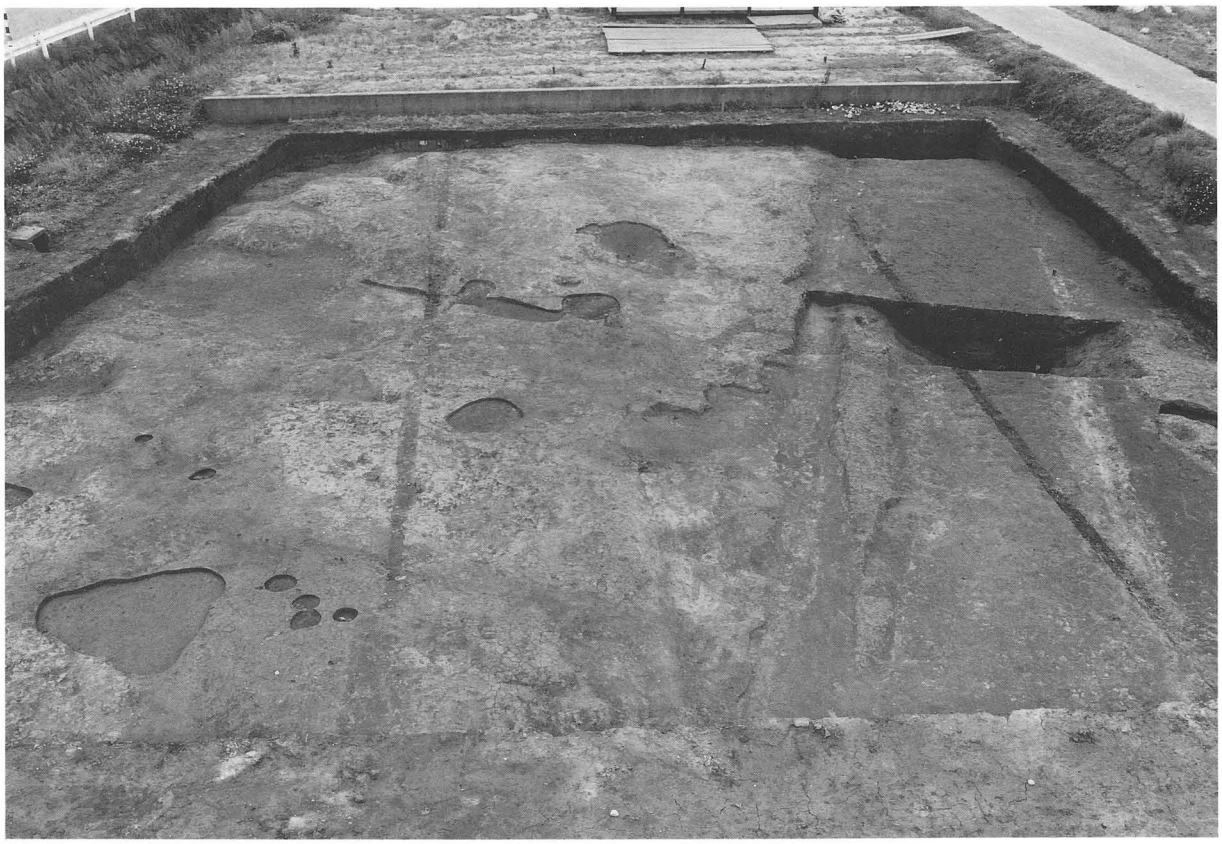
1．土坑ＳＫ01遺物出土状態（北東）

2．調査地区西側遺物出土状態（北西）

図版八　遺構　岩坪岡田島遺跡山口地区



1．調査地区全景（南）



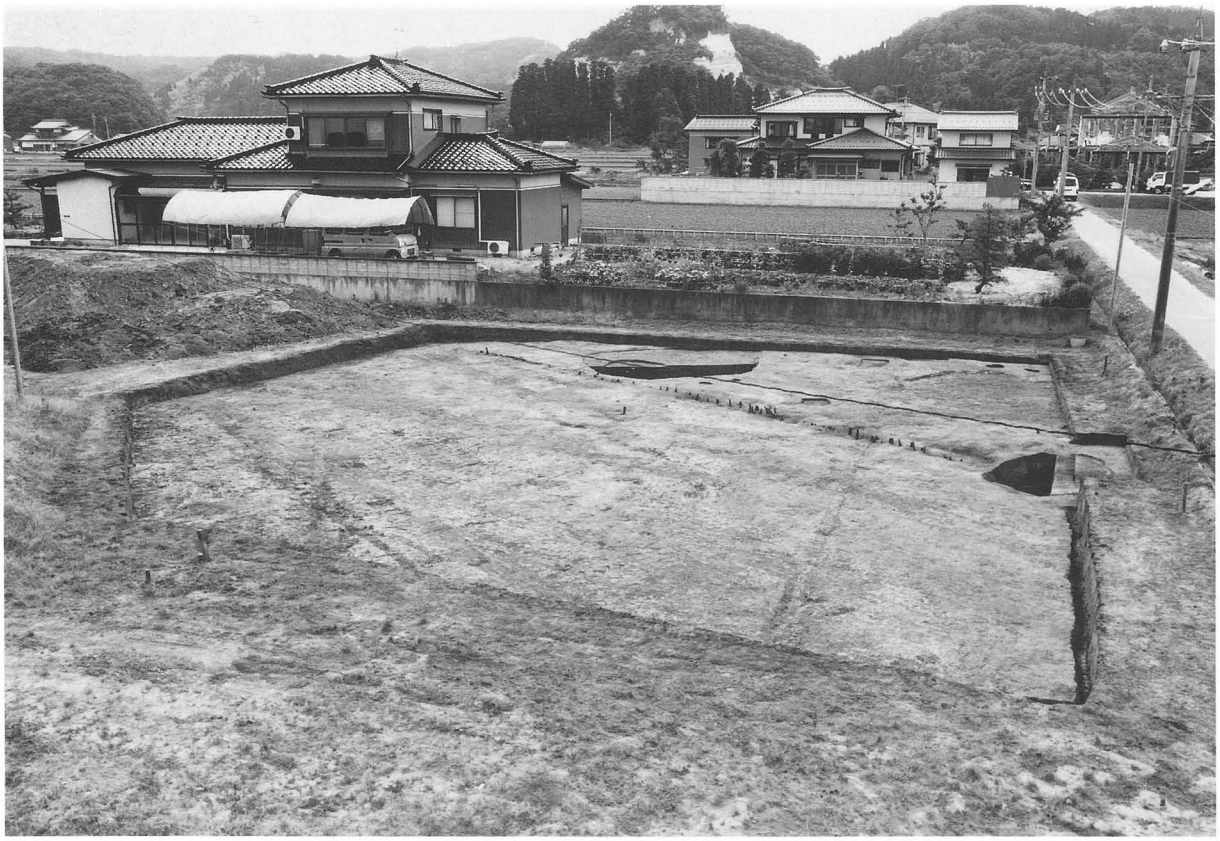
2．調査地区全景（北西）

1．溝ＳＤ01試掘坑１遺物出土状態（西）

2．溝ＳＤ01試掘坑２遺物出土状態（北西）

図版一〇　遺構　岩坪岡田島遺跡岡崎1地区

1．調査地区全景（南西）



2．調査地区全景（南東）

1．井戸址ＳＥ01検出状態（南西）

2．井戸址ＳＥ01全景（南西）

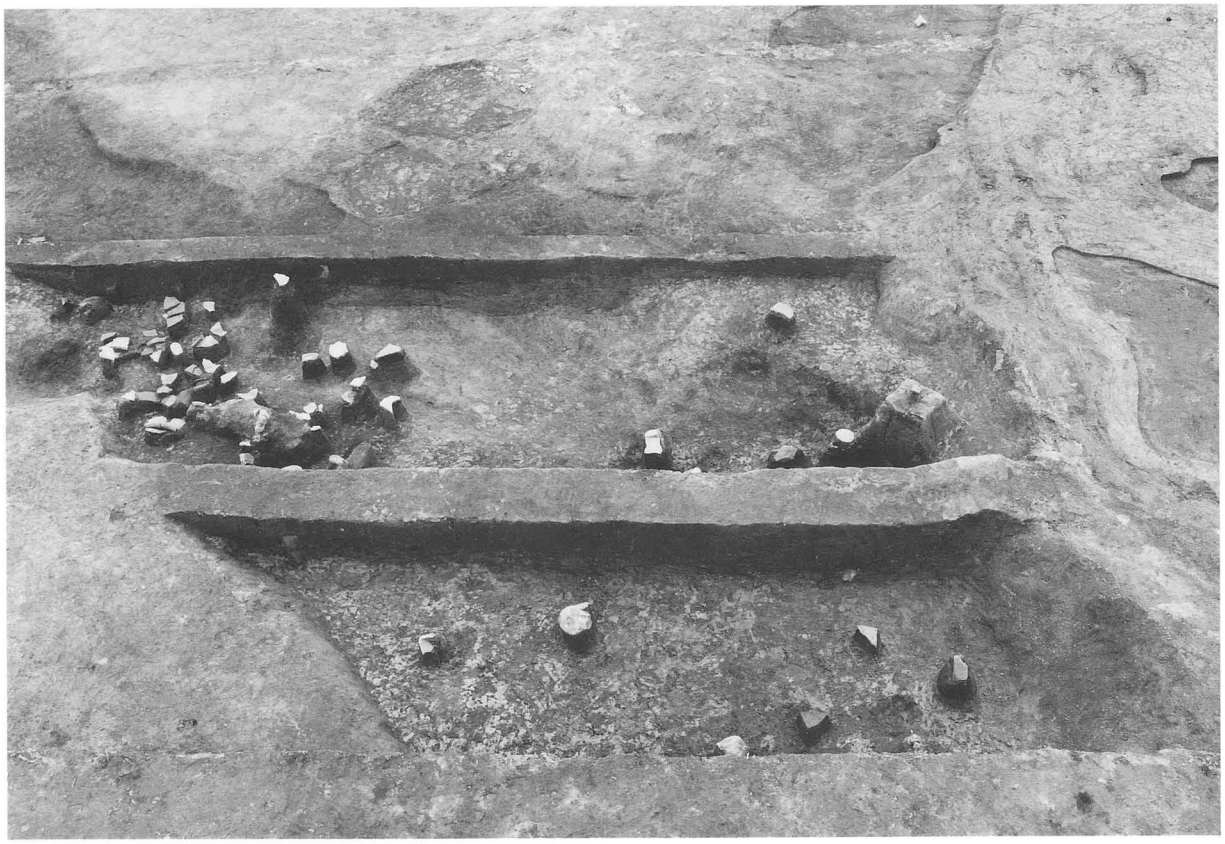
1．井戸址ＳＥ02検出状態（南東）

2．井戸址ＳＥ02全景（南東）

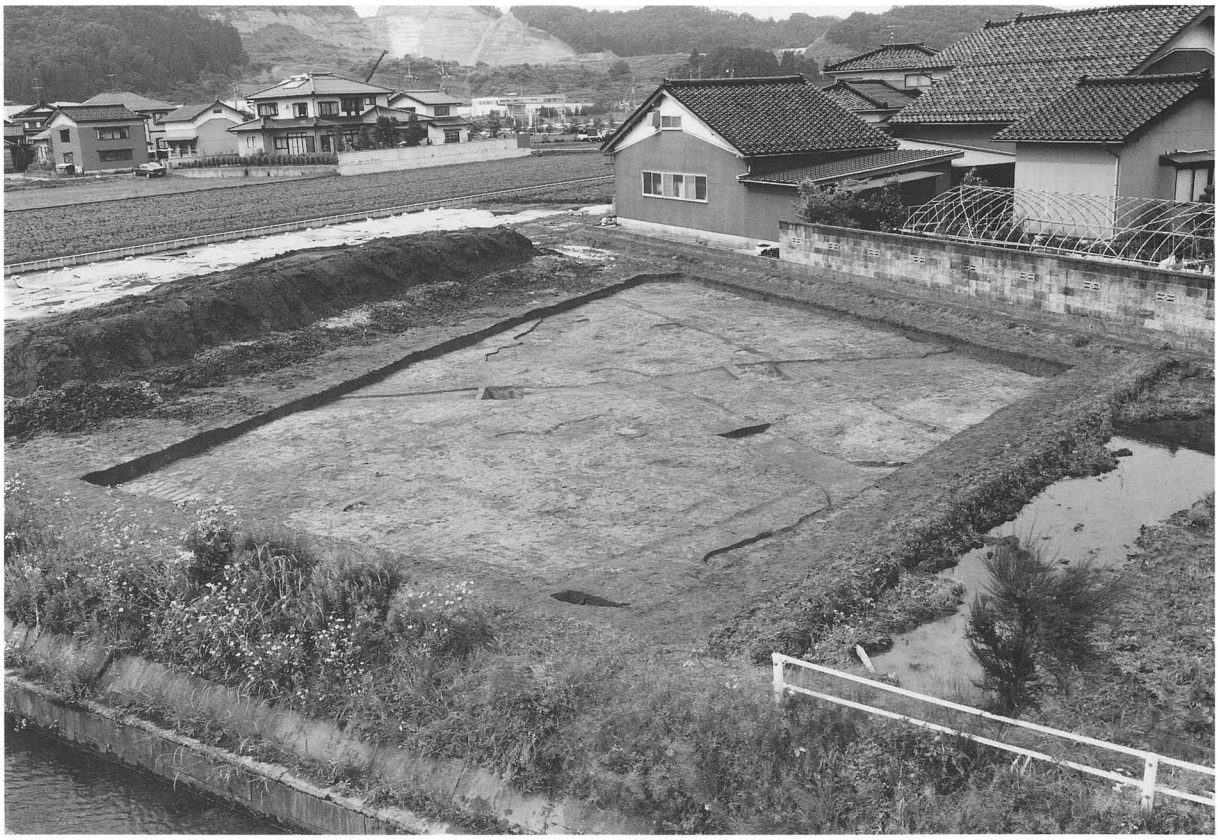
1．調査地区全景（南）

2．調査地区全景（北東）

1．溝ＳＤ07・08全景（東）



2．溝ＳＤ07遺物出土状態（南東）



1．調査地区全景（南）

2．調査地区全景（北）

1．溝ＳＤ10・11全景（南東）

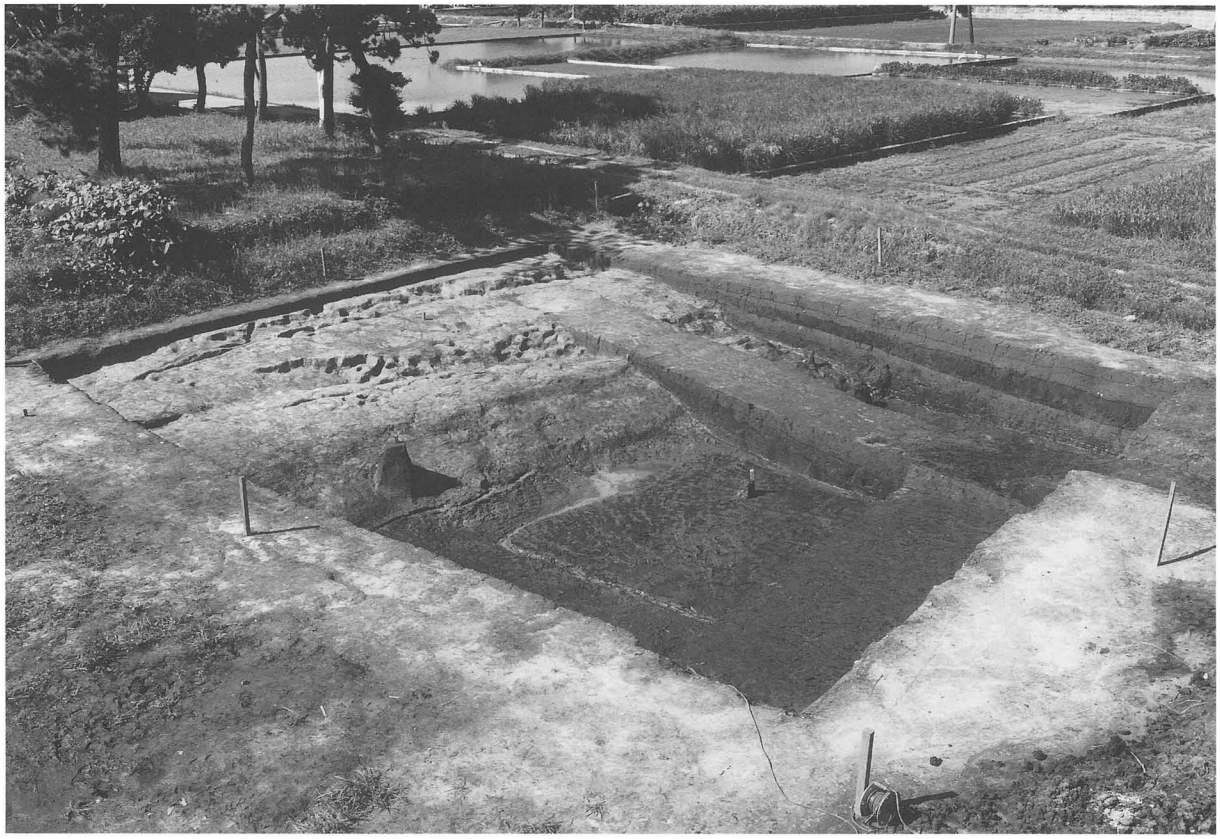
2．溝ＳＤ10・11全景（西）

1．調査地区遠景（南）

2．調査地区遠景（北西）

1．調査地区全景（南東）

2．調査地区全景（北）



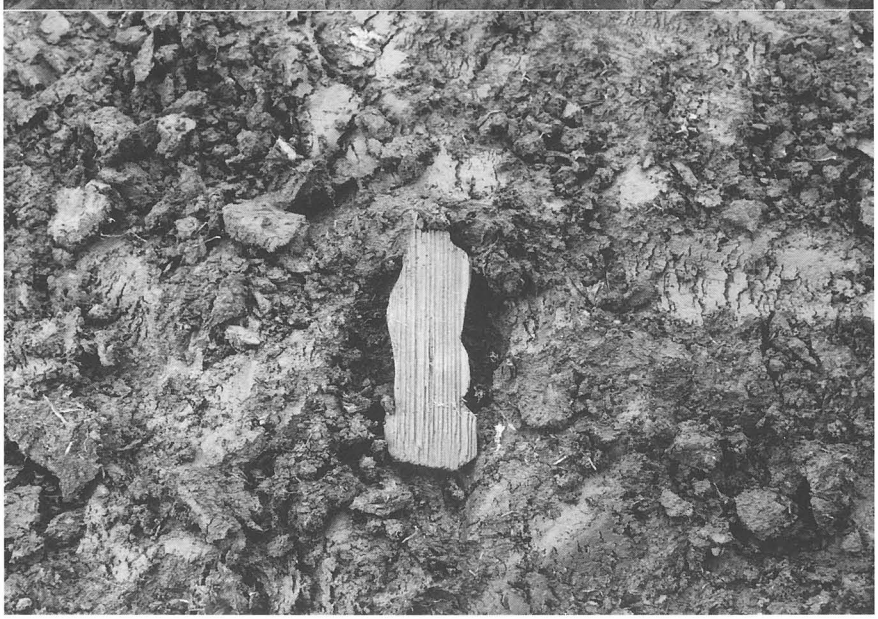
1．第3トレンチ全景（南）

2．第3トレンチ全景（南西）

図版二〇　遺構　東木津遺跡堀井地区

1．凹地ＳＸ06遺物出土状態
・人形（南西）

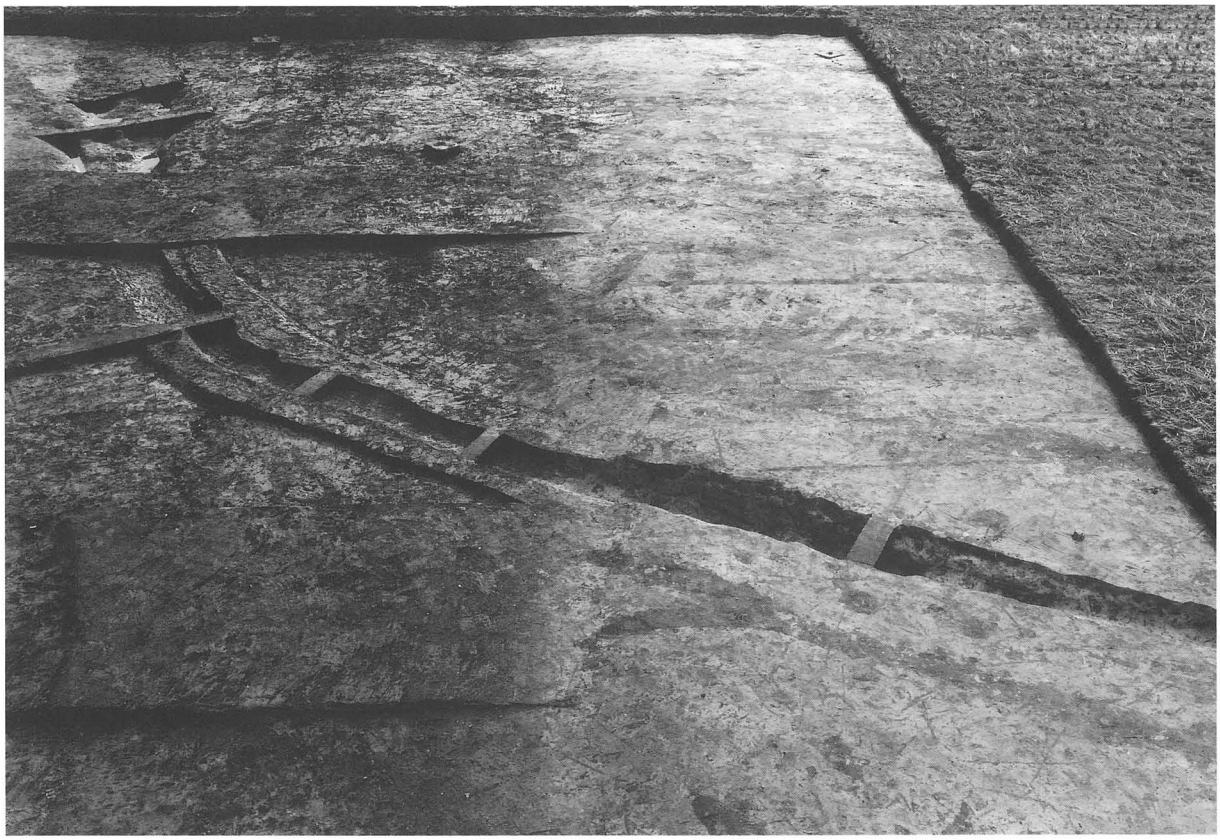
2．凹地ＳＸ06遺物出土状態
・鳥形（西）



3．凹地ＳＸ06遺物出土状態
・馬形（北）

1．調査地区全景（南）

2．調査地区全景（北東）



1．溝ＳＤ10全景（北東）

2．溝ＳＤ10全景（北西）

1．溝ＳＤ10遺物出土状態・須恵器杯（南東）

2．溝ＳＤ12遺物出土状態・須恵器横瓶（南西）

3．溝ＳＤ51遺物出土状態・曲物底板（南）

図版二四　遺構　東木津遺跡チックタック地区

1．調査地区全景（北東）

2．調査地区全景（上方）

1. 調査地区北半部全景（上方）

2．調査地区南半部全景（上方）

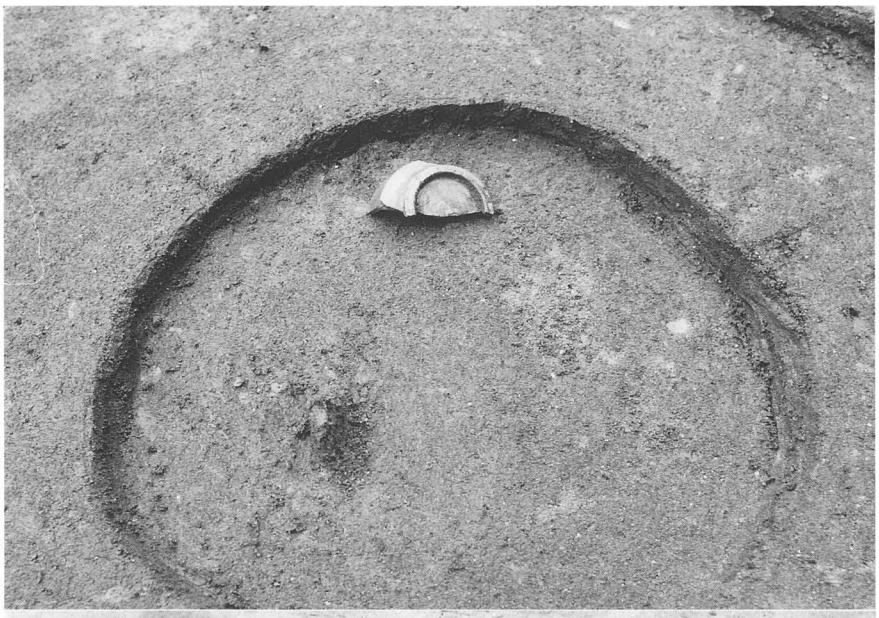
1．掘立柱建物址ＳＢ02検出状態（北東）

2．掘立柱建物址ＳＢ02検出状態（南東）

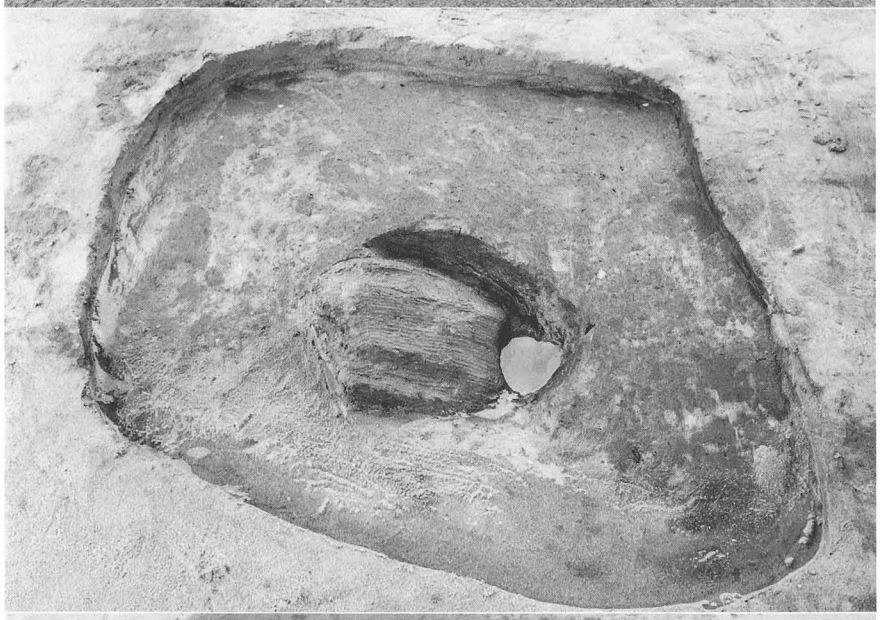
1．掘立柱建物址ＳＢ03検出状態（南東）

2．掘立柱建物址ＳＢ03検出状態（東）

図版二八　遺構　東木津遺跡チックタック地区



1．掘立柱建物址ＳＢ02遺物出土状態（北東）



2．掘立柱建物址ＳＢ03礎板検出状態（北東）

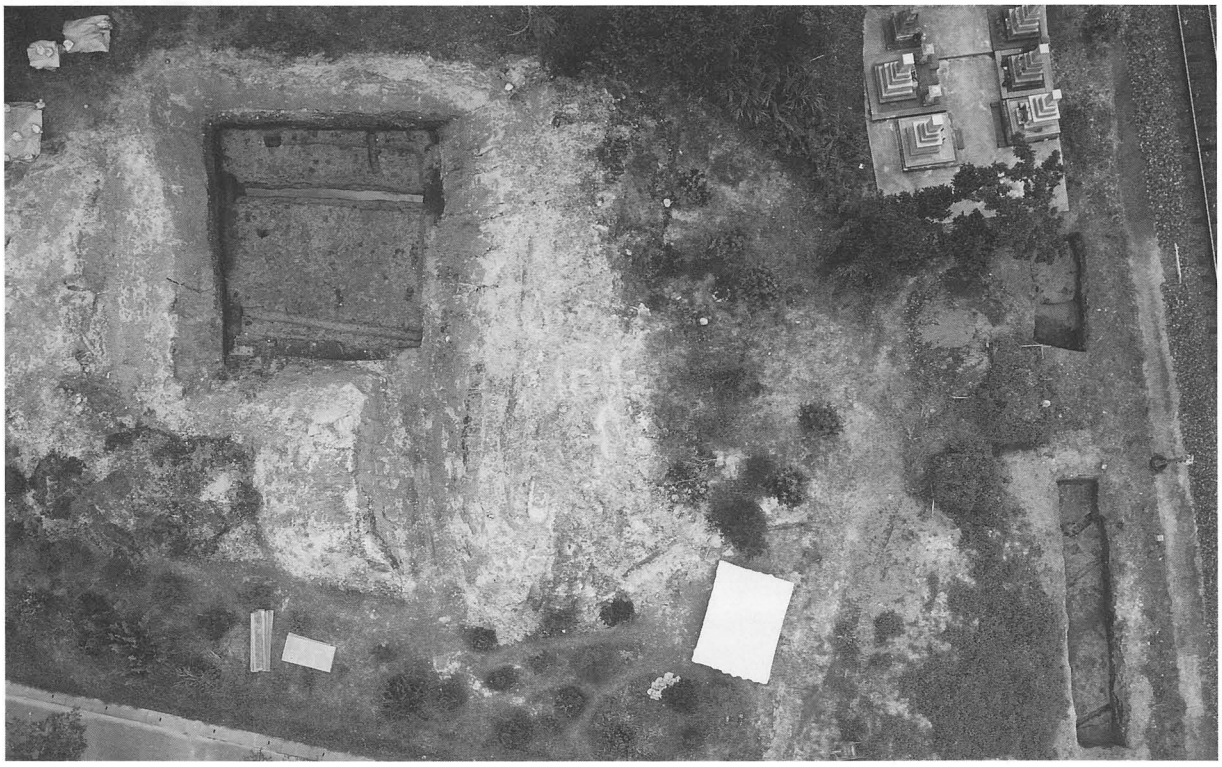
3．掘立柱建物址ＳＢ03柱根検出状態（北東）

1．調査地区遠景（西）

2．調査地区全景（北西）

図版三〇　遺構　入定塚遺跡吉田・参道地区

1．調査地区全景（南東）



2．調査地区全景（上方）

1．調査地区全景（北西）

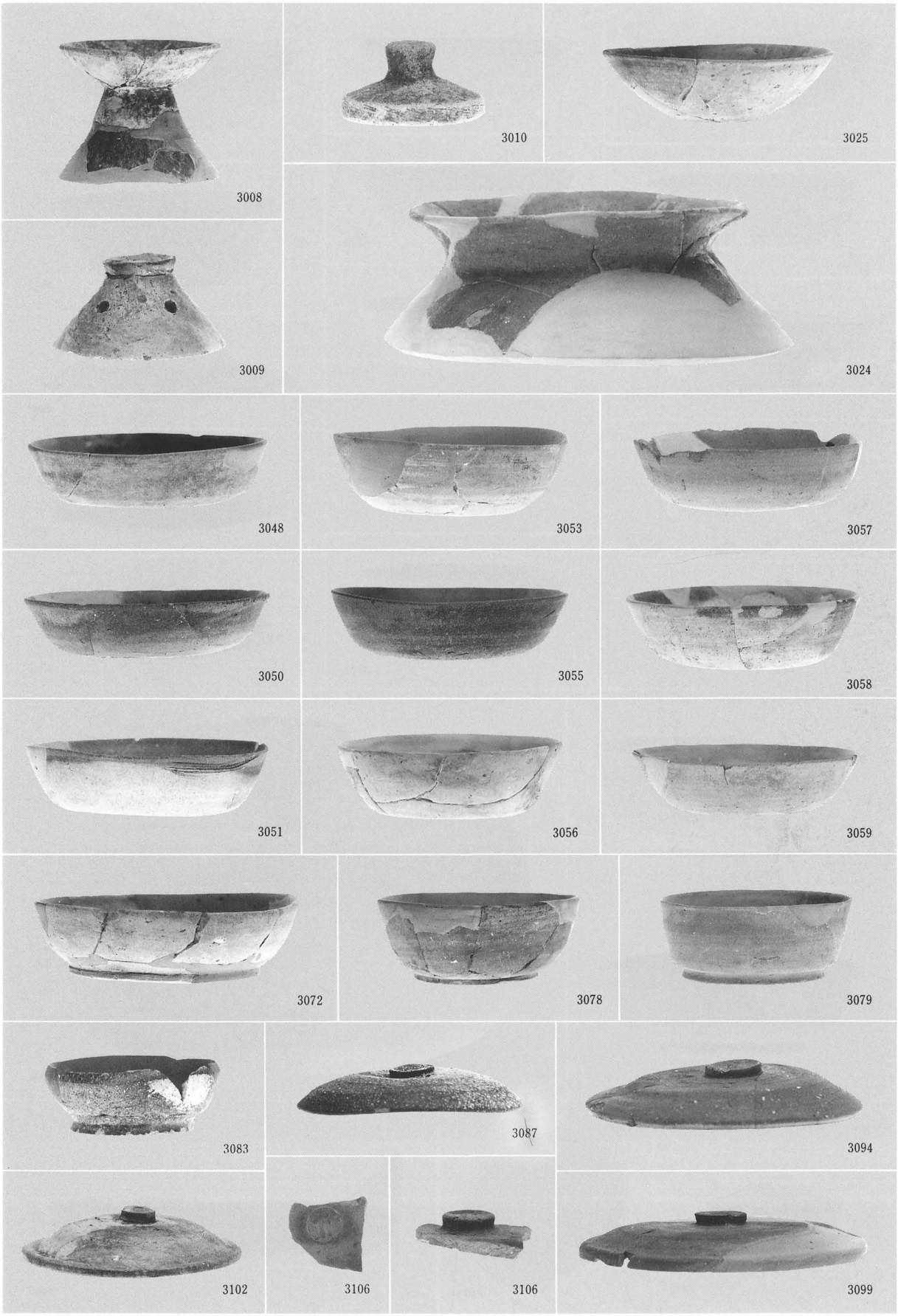
2．調査地区全景（南東）

図版三二　遺構　入定塚遺跡参道地区

1．調査地区全景（北東）

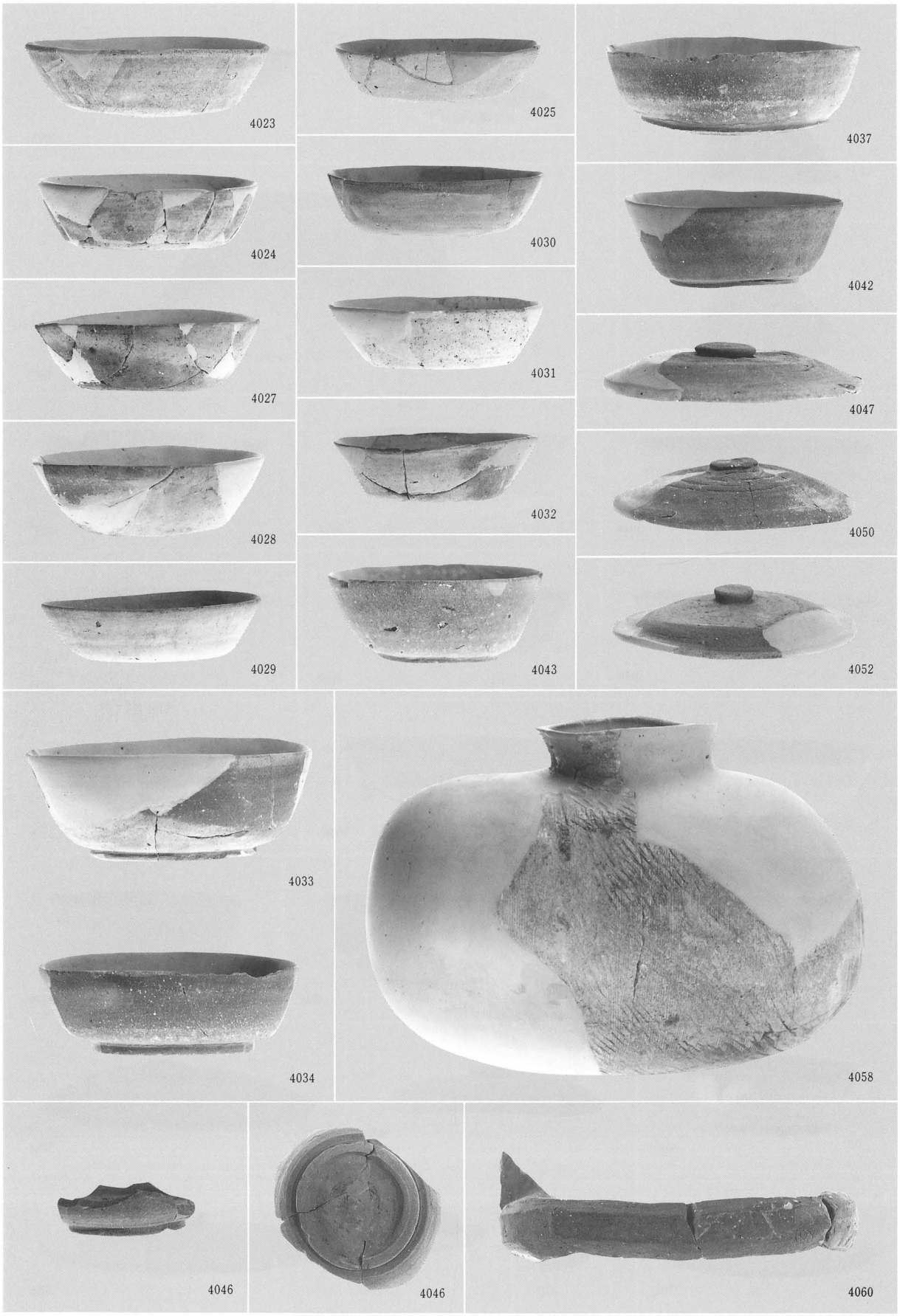
2．北側調査地区全景
（北東）

3．南側調査地区全景
（北）


3008
3010
3025
3009
3024
3048
3053
3057
3050
3055
3058
3051
3056
3059
3072
3078
3079
3083
3087
3094
3102
3106
3106
3099

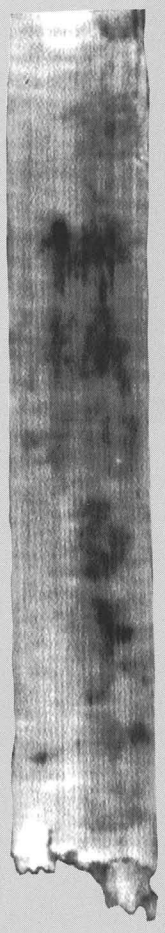
土器類

図版三四　遺物　東木津遺跡セーブオン地区



土器類

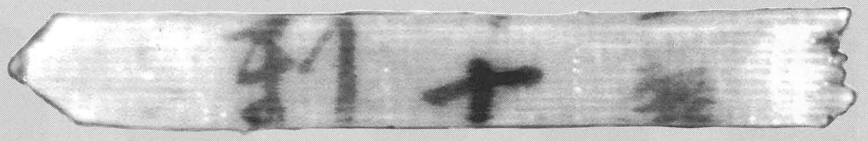
7001



7002

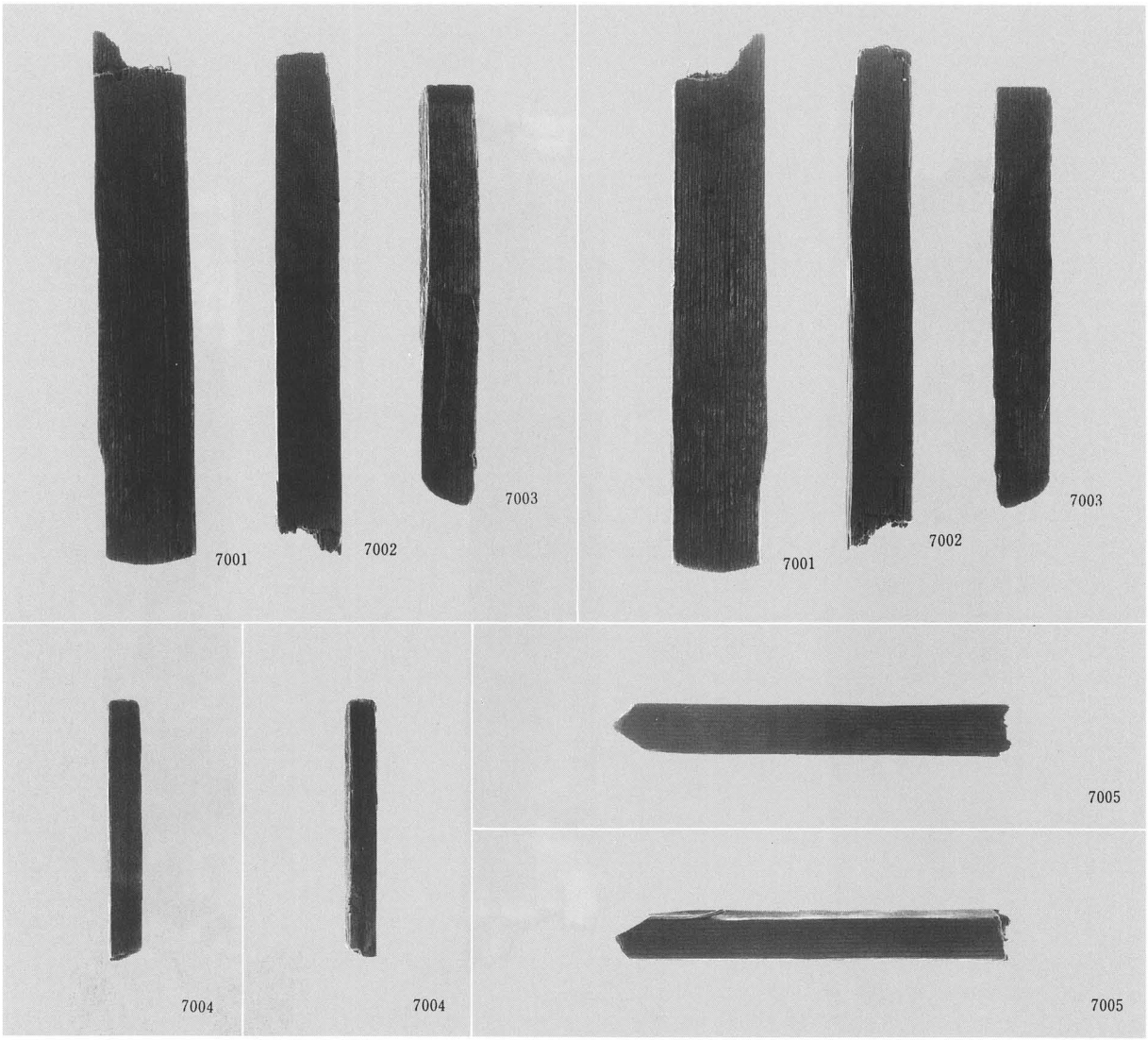
7002

7004

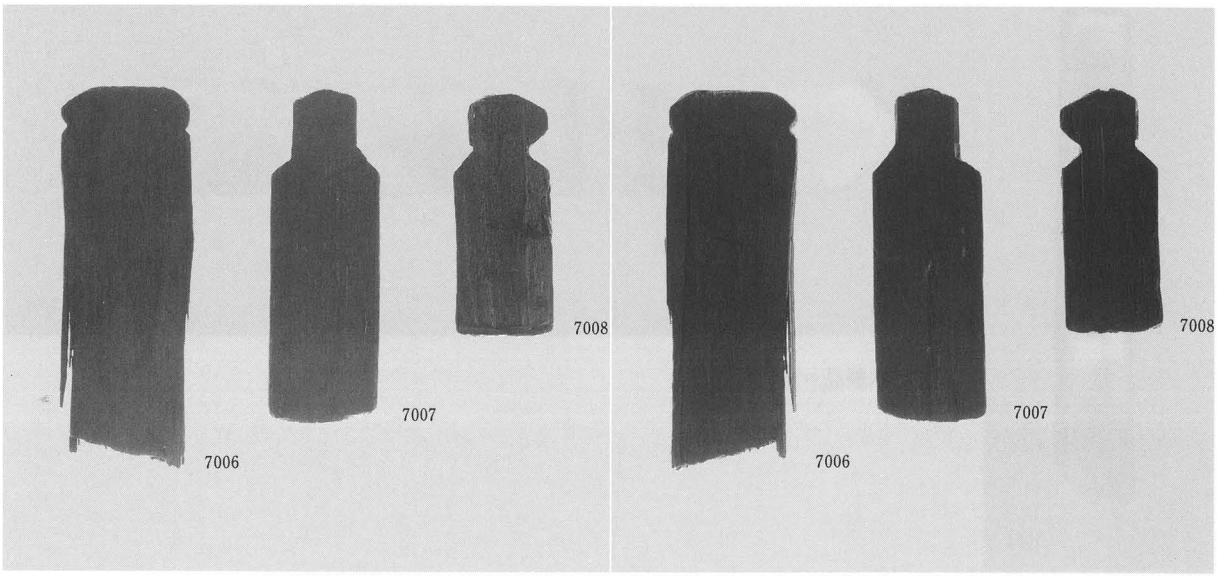


7005

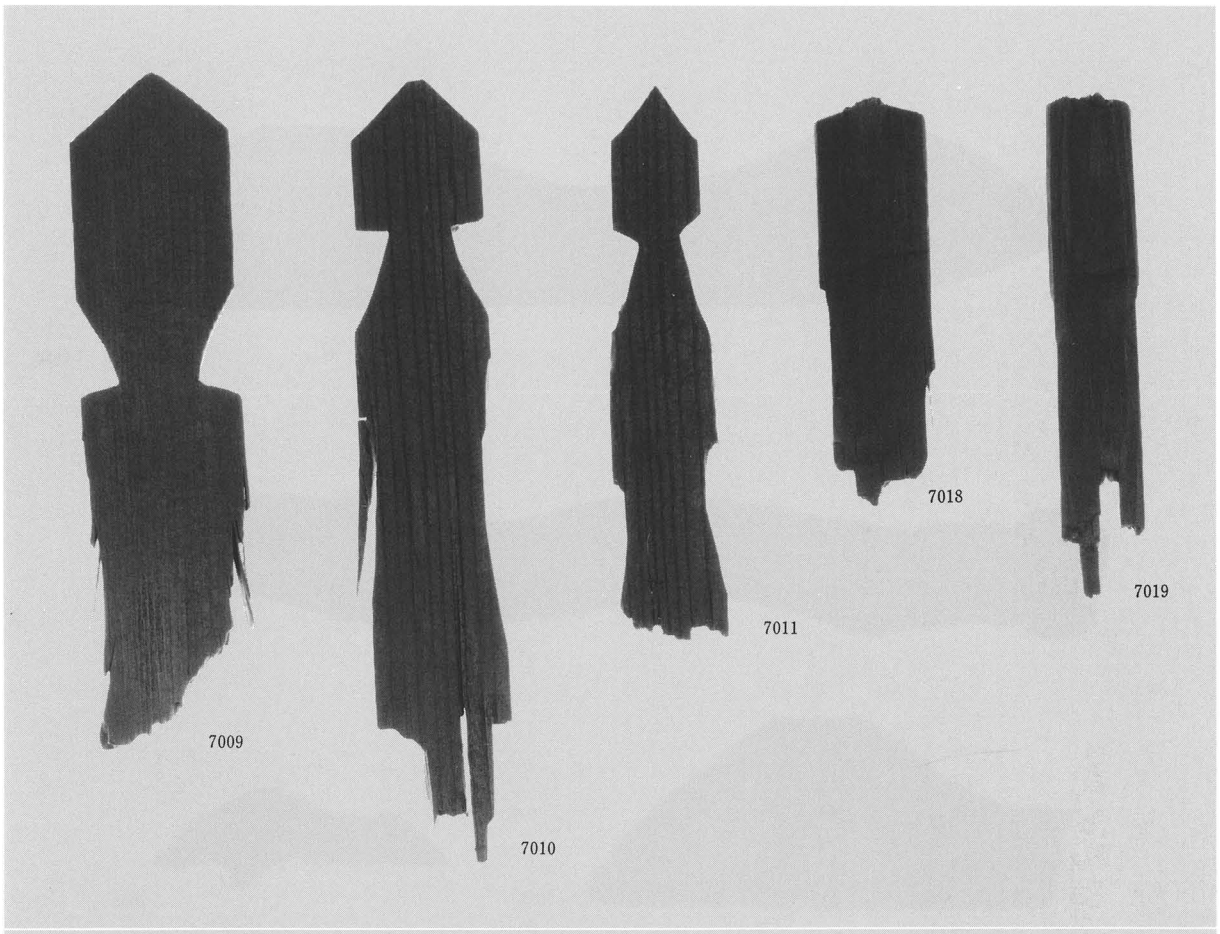
木製品＝木簡

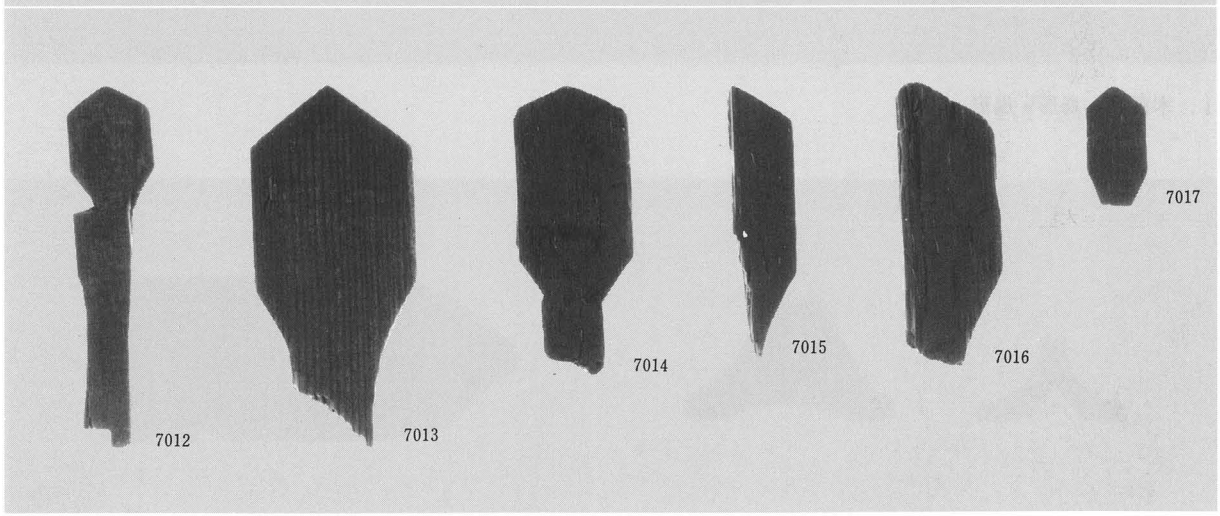


1．木製品＝木簡

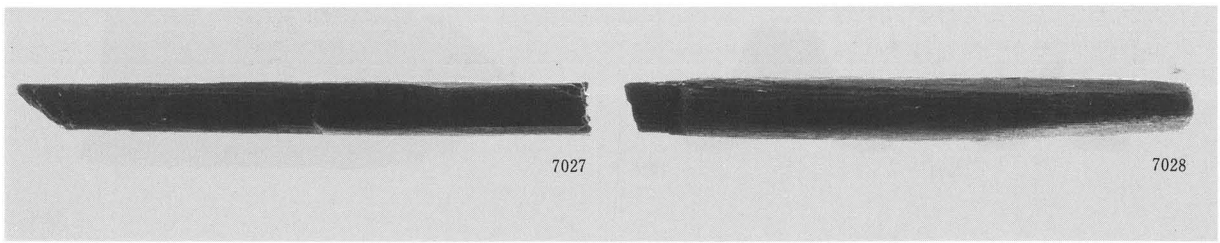


2．木製品＝木簡形木製品

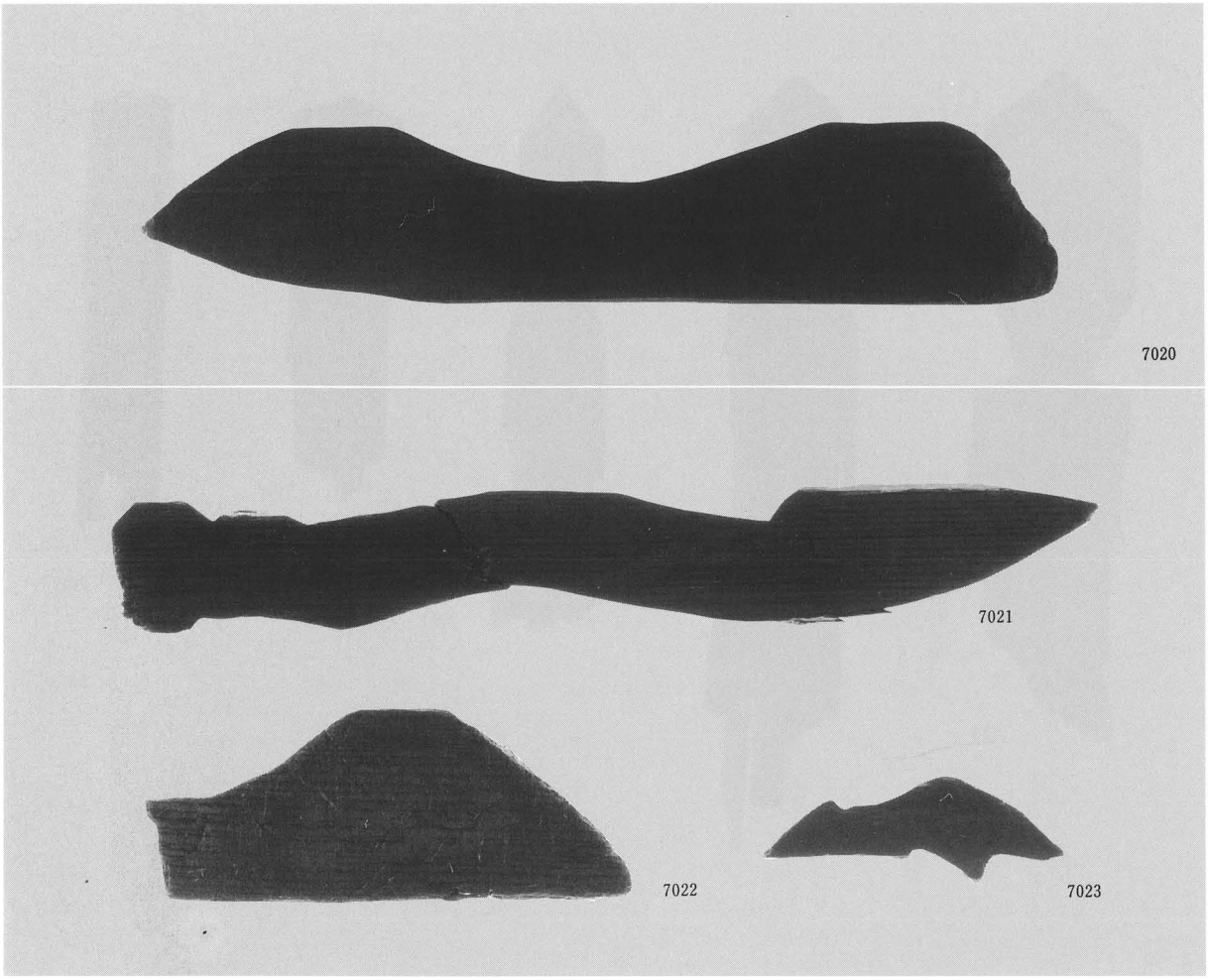




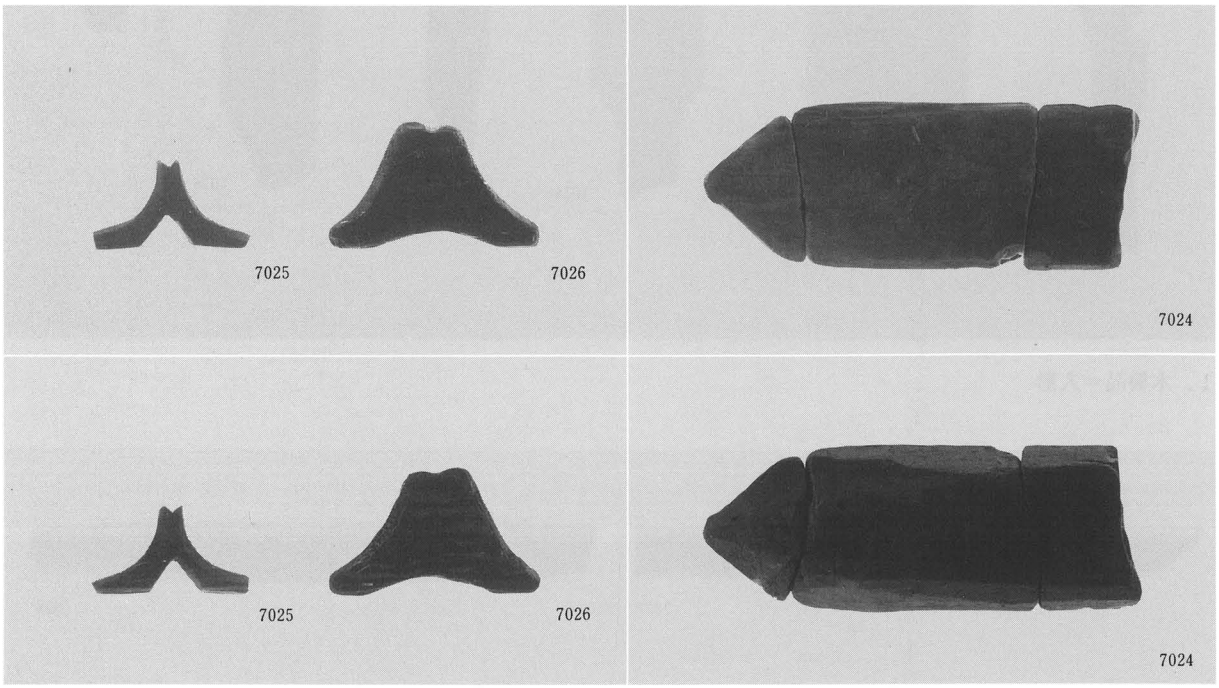
1．木製品＝人形



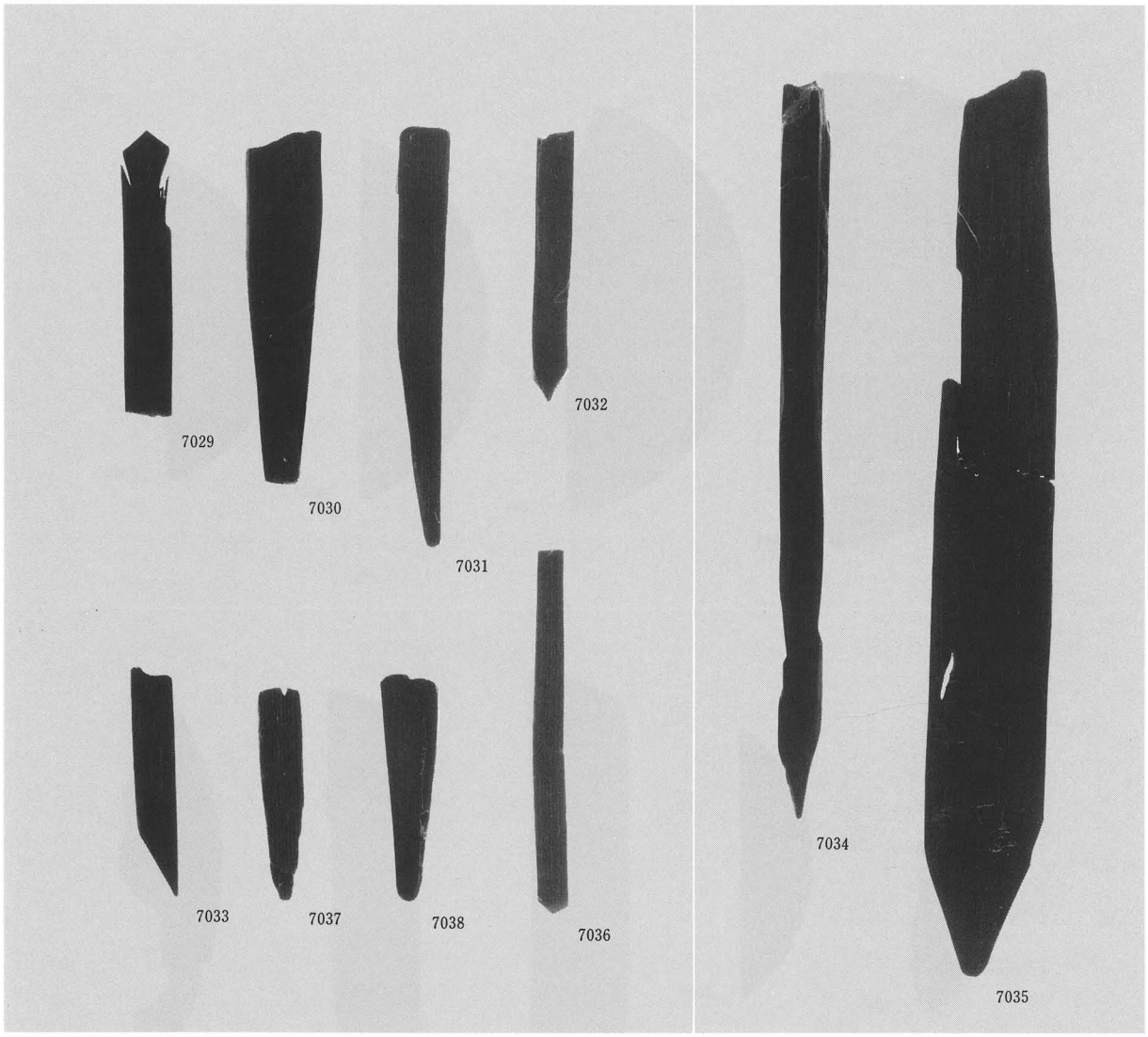
2．木製品＝刀子形



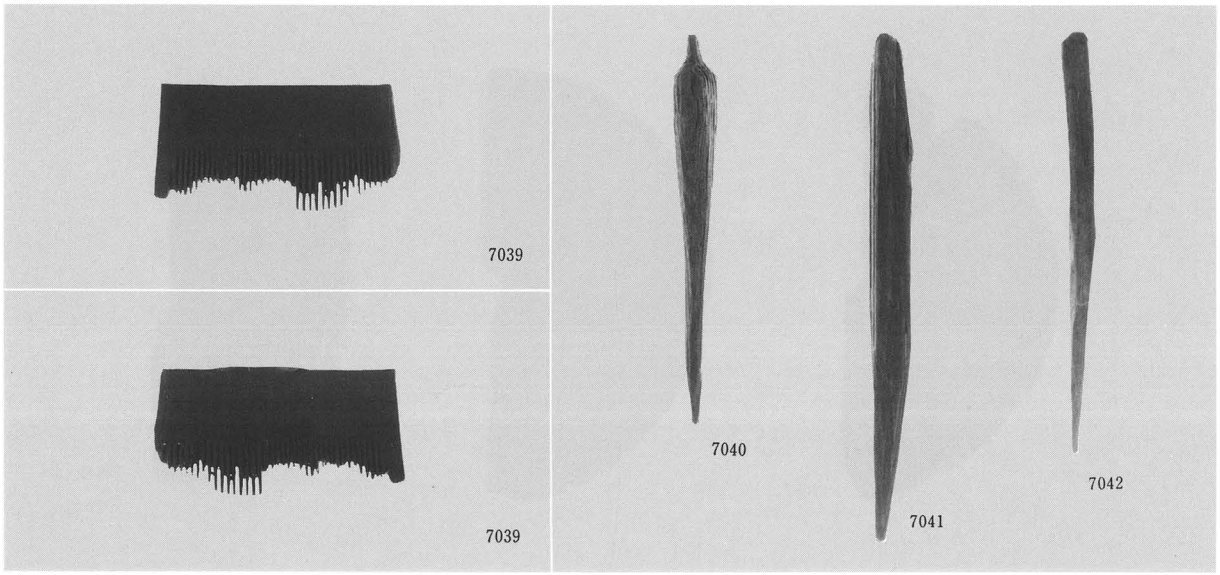
1．木製品＝鳥形・馬形



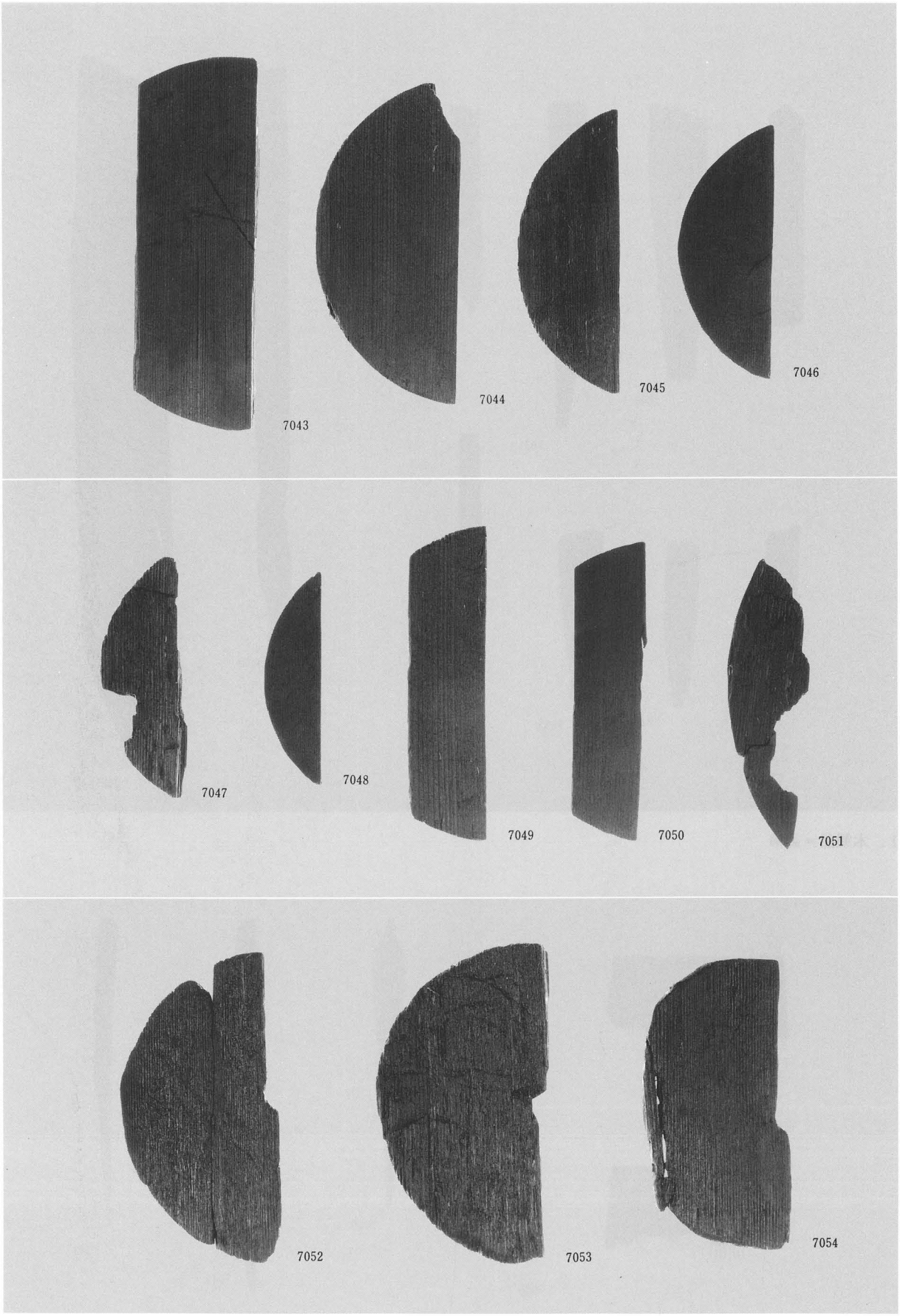
2．木製品＝舟形・琴柱形



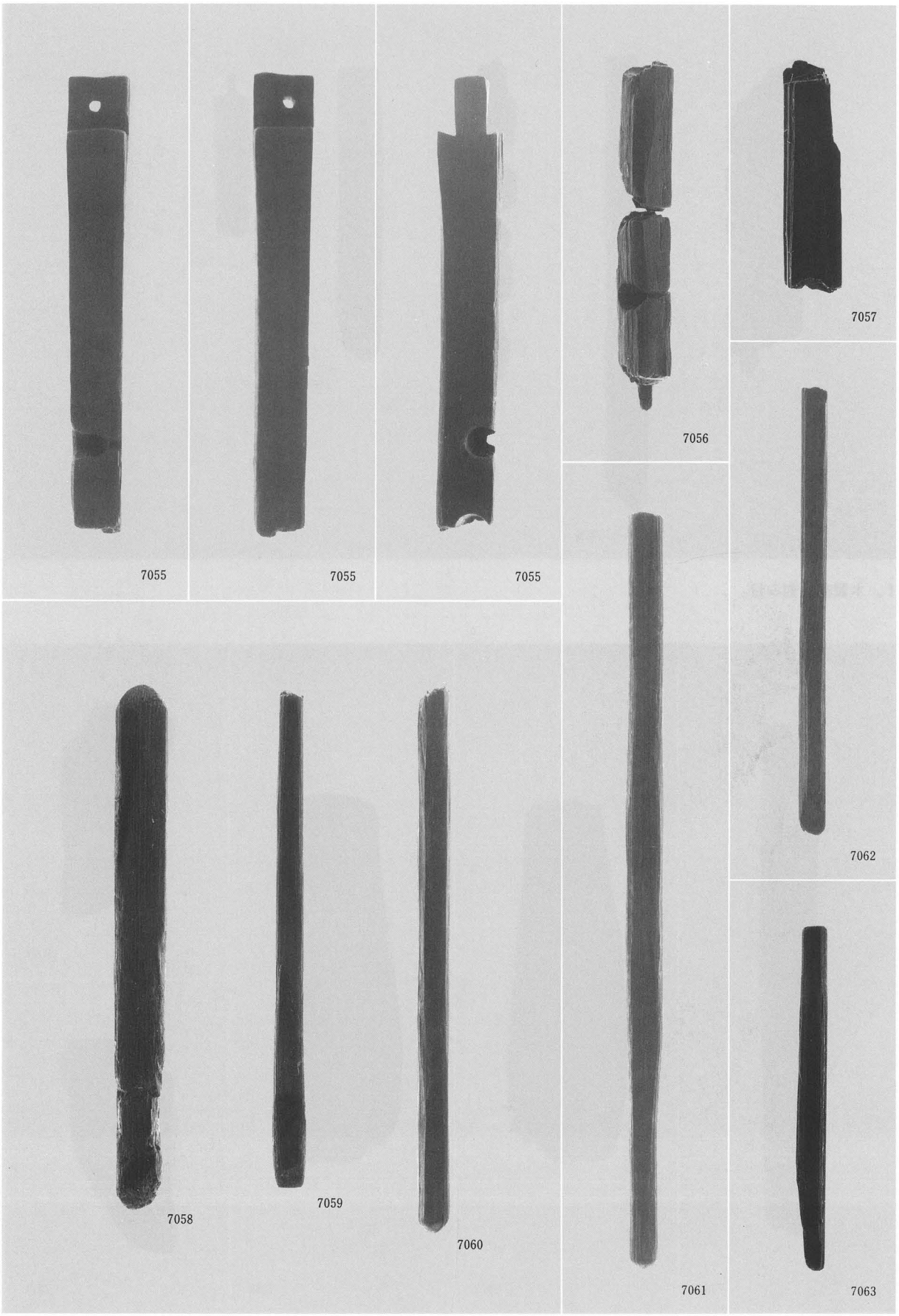
1．木製品＝斎串



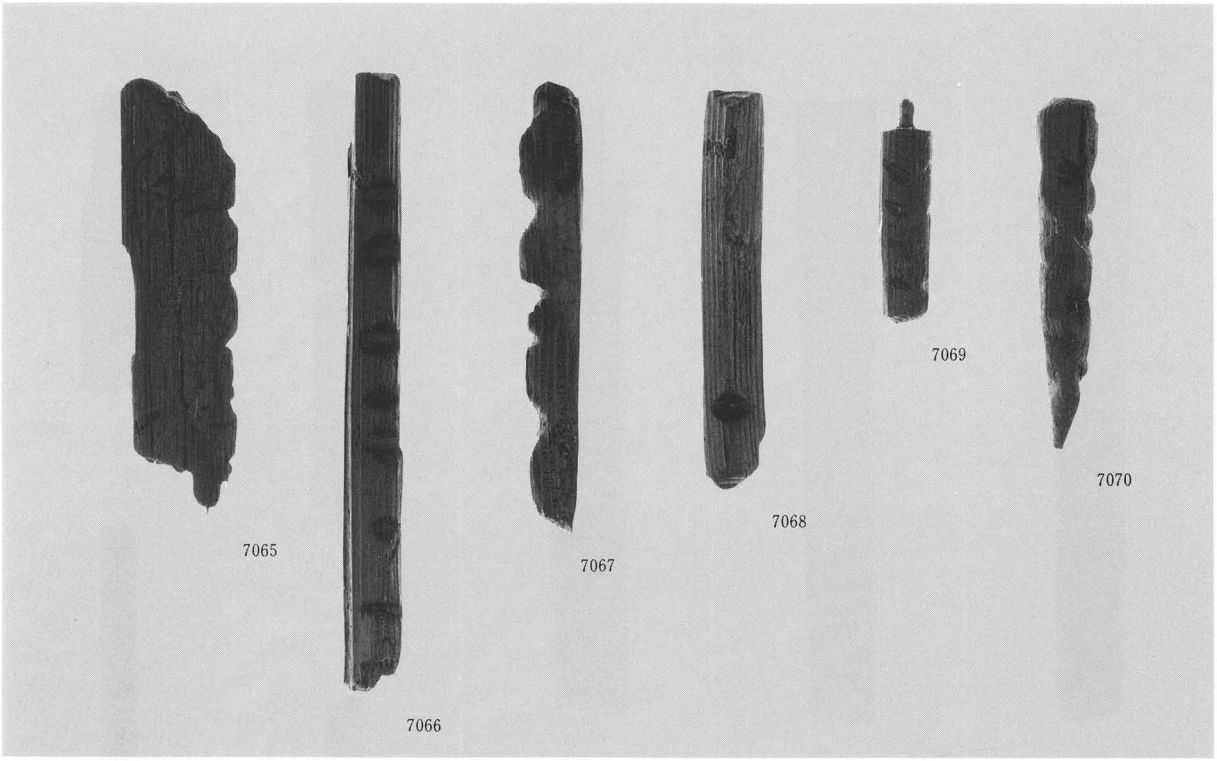
2．木製品＝横櫛・針



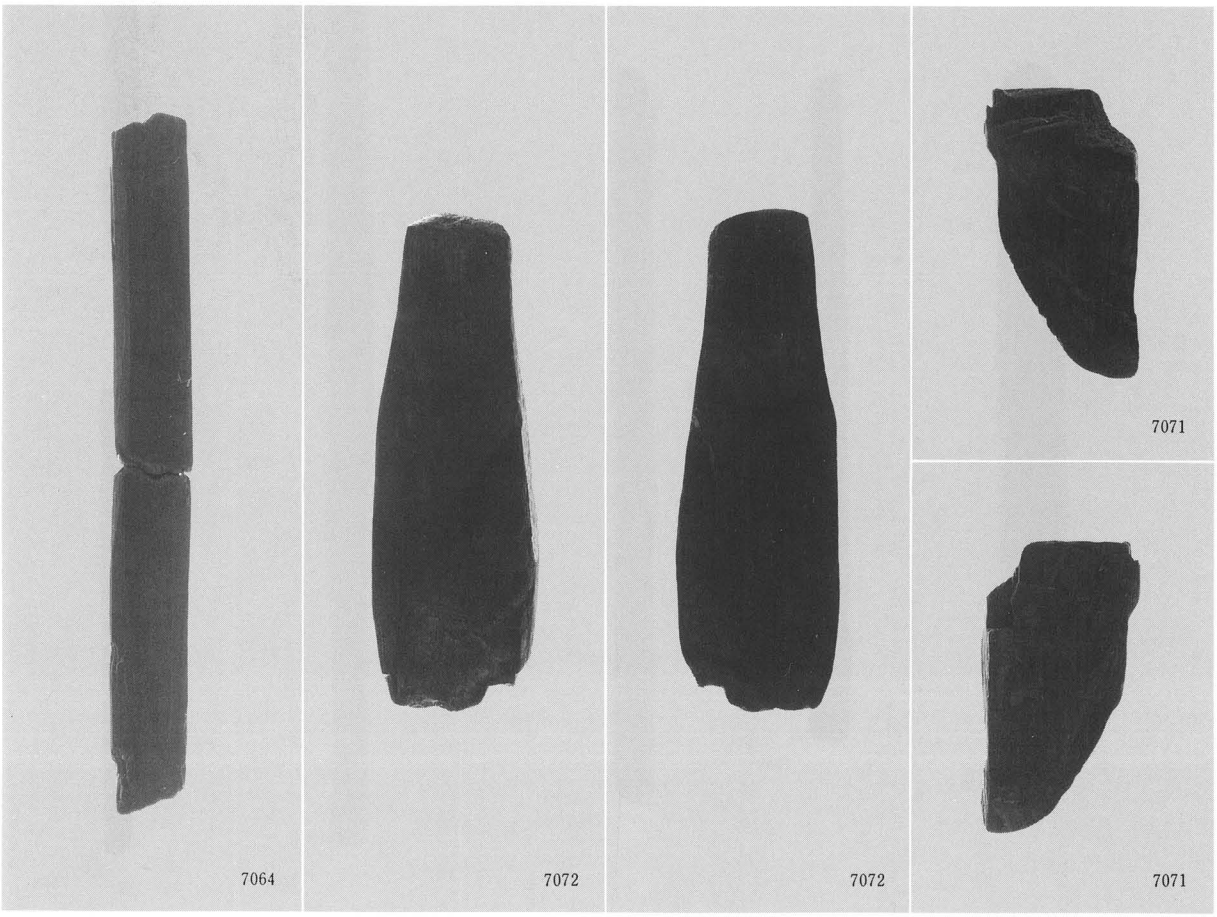
木製品＝曲物底板



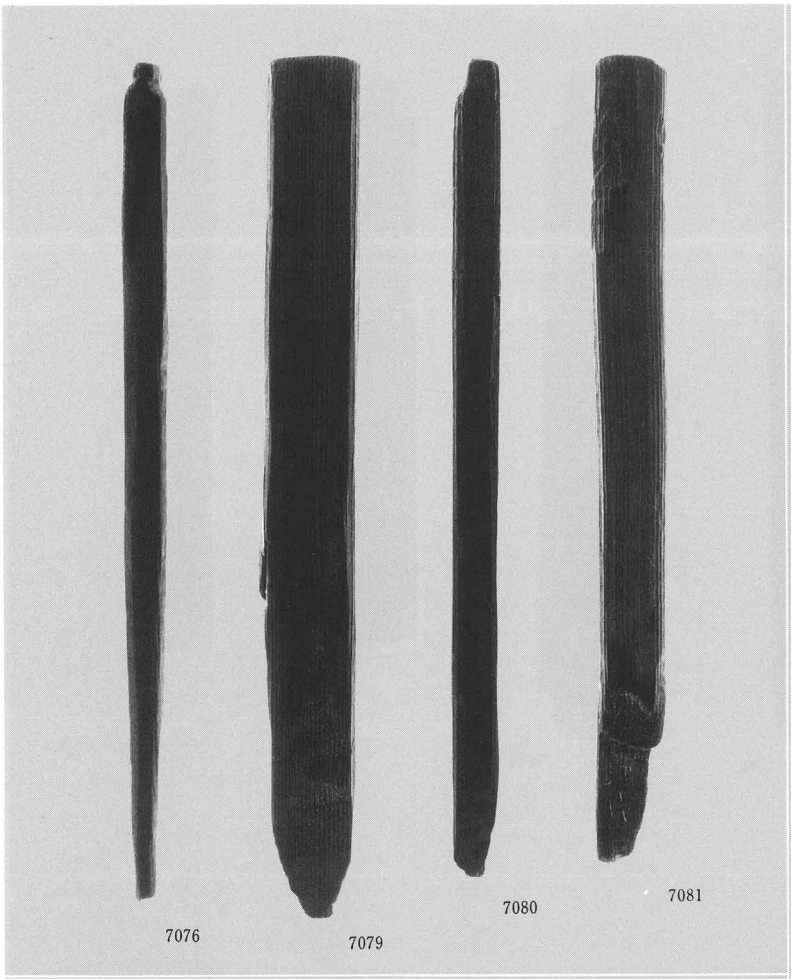
木製品＝火鑽板・火鑽杵

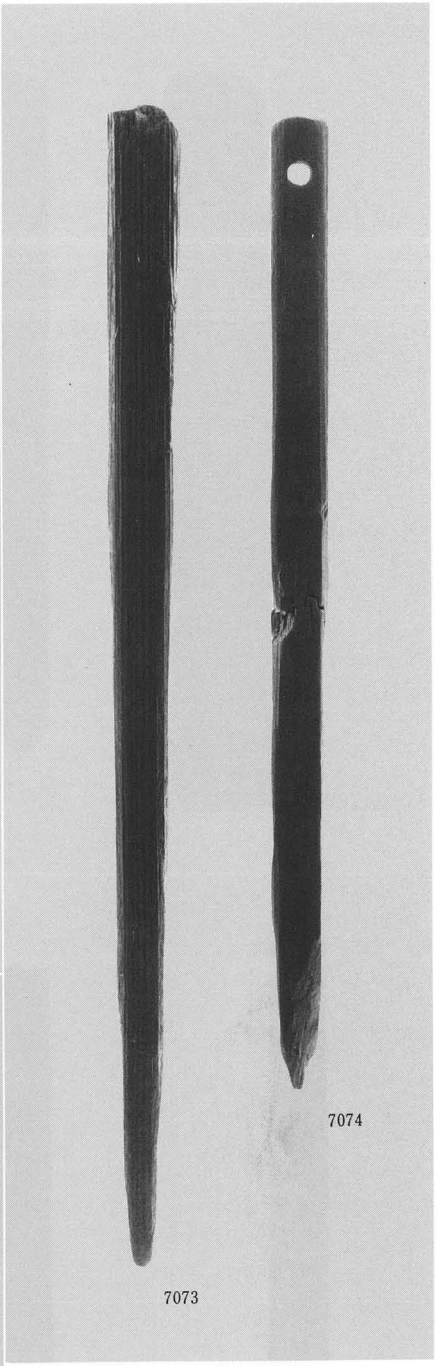


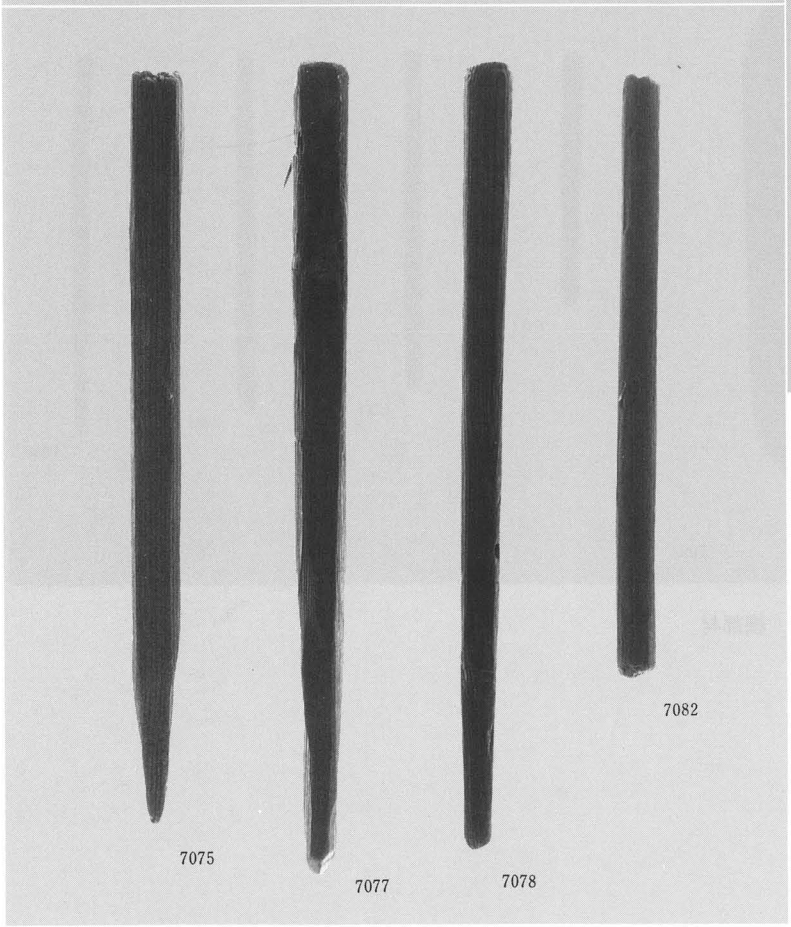
1．木製品＝刻み目



2．木製品＝物差・楔

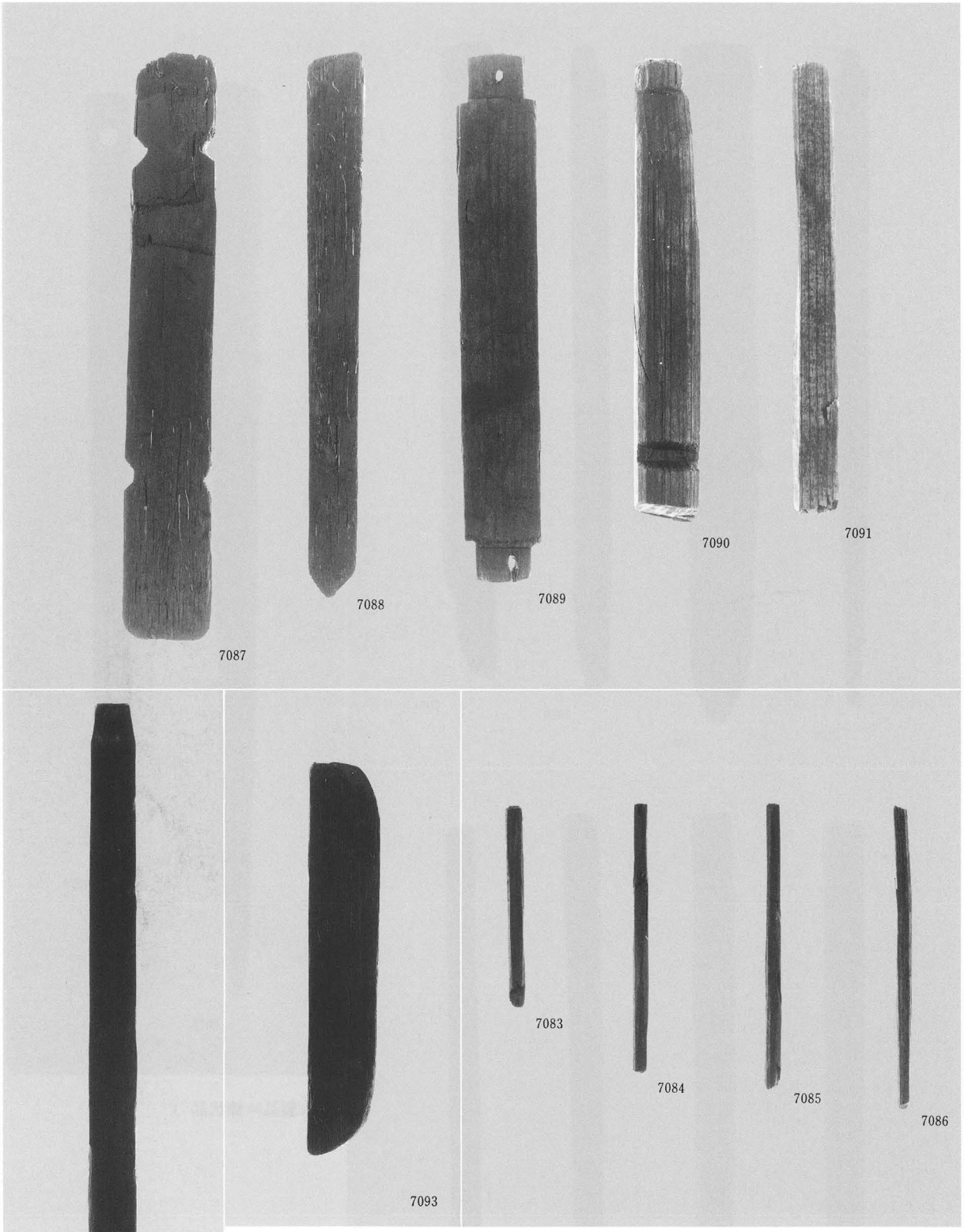




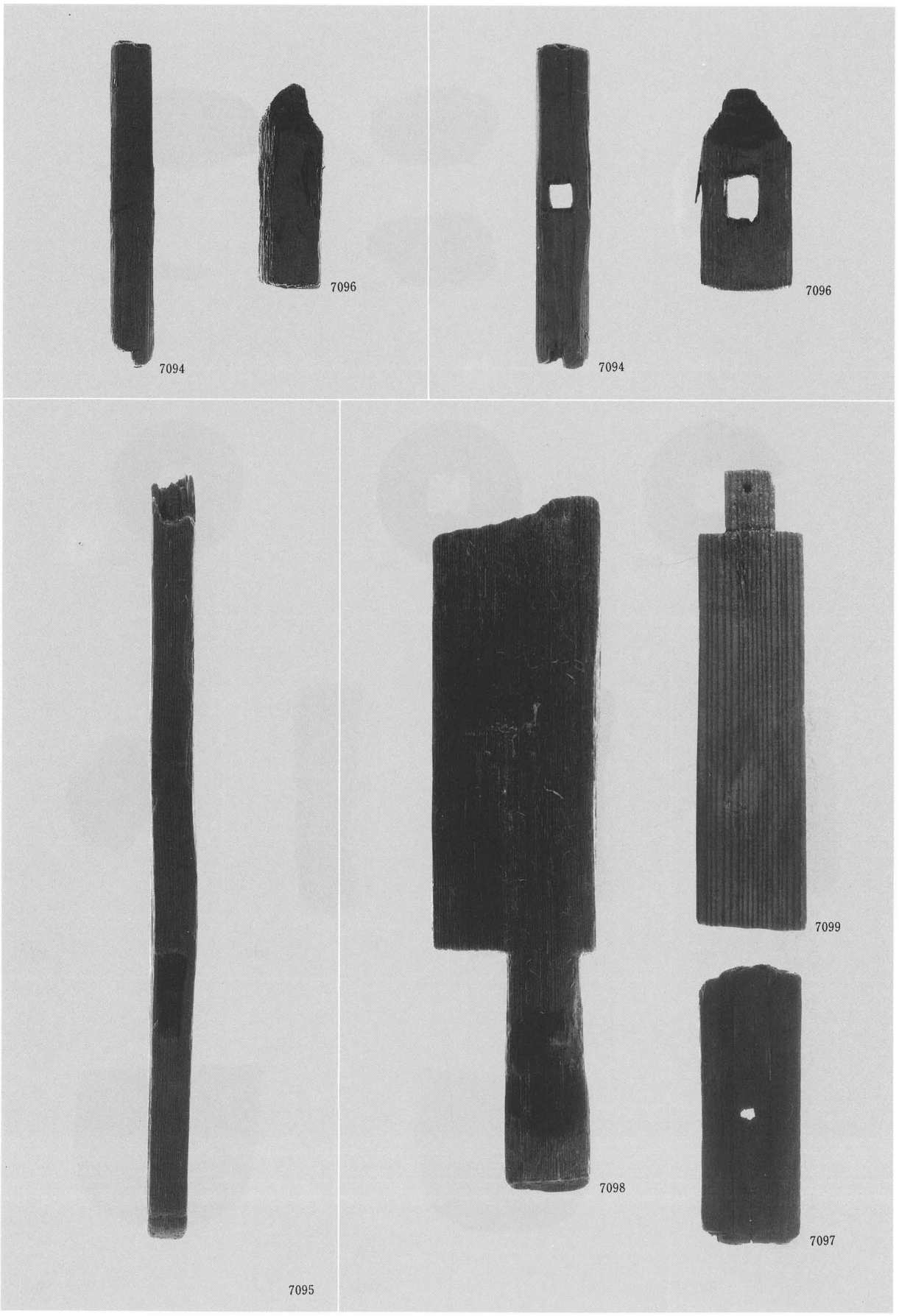


木製品＝棒状品

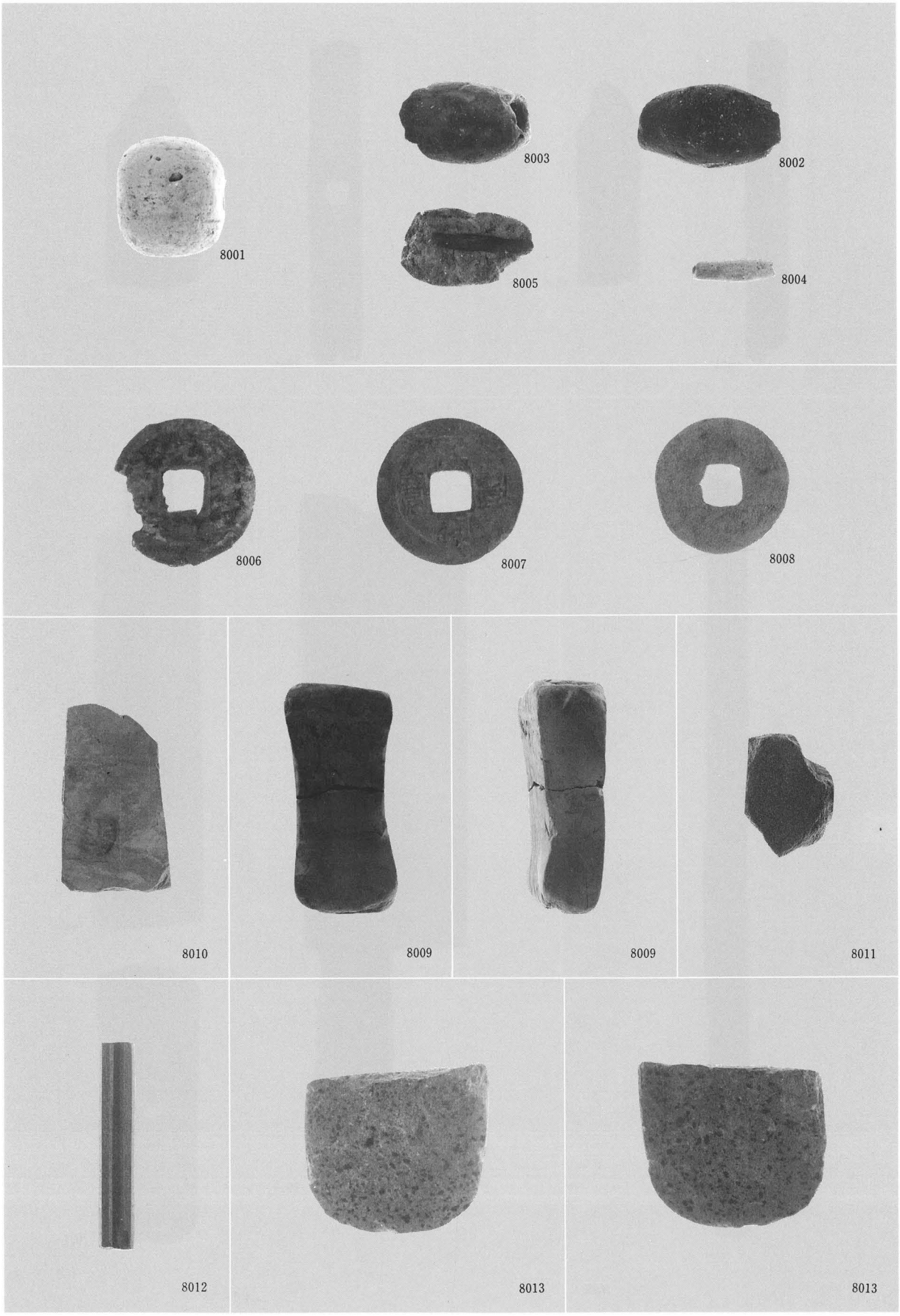
図版四四　遺物　東木津遺跡堀井地区



木製品＝箸・細部材



木製品＝部材


8001
8003
8002
8005
8004
8006
8007
8008
8010
8009
8009
8011
8012
8013
8013

土製品・銅製品・石製品

高岡市埋蔵文化財調査概報第45冊

市内遺跡調査概報X

2000年3月31日

発行者　高岡市教育委員会
富山県高岡市広小路7番50号

印刷所　株式会社チューエツ高岡営業所
富山県高岡市木津458－1